

国際馬術連盟

障害馬術規程

第 24 版

(2012 年 1 月 1 日 FEI 施行)



公益社団法人 日本馬術連盟



JUMPING RULES

24th edition, effective 1 January 2012

Printed in Switzerland

Copyright © 2012 Fédération Equestre Internationale

Reproduction strictly reserved

Fédération Equestre Internationale

HM King Hussein I Building

Chemin **de la Joliette**

1006 Lausanne

Switzerland

t +41 21 310 47 47

f +41 21 310 47 60

e info@fei.org

www.fei.org

www.feiworldcup.org

本規程は英文版が原本となります。

本規程の英文と和文に差異がある場合には、英文が優先されます。

目次

序 文	11
馬のウェルフェアのための FEI 馬スポーツ憲章	13
第1章 はじめに	19
第200条 概 要	19
第2章 アリーナと練習用馬場	23
第201条 アリーナ、練習用馬場、練習用障害物	23
第202条 アリーナへの立ち入りと練習用障害物	25
第203条 ベ ル	27
第204条 コースと全長測定	29
第205条 コース図	31
第206条 コースの修正	33
第207条 標 旗	35
第3章 障害物	37
第208条 障害物 ― 概略	37
第209条 垂直障害	39
第210条 幅障害	39
第211条 水濺障害、垂直障害を伴った水濺障害、およびリバプール	39
第212条 コンビネーション障害	43
第213条 バンク、堆土、傾斜路	43
第214条 閉鎖コンビネーション障害、一部閉鎖コンビネーション障害、 および一部開放コンビネーション障害	43
第215条 選択障害とジョーカー	45
第4章 走行中の減点	45
第216条 減点 ― 概略	45
第217条 障害物の落下	47
第218条 垂直障害と幅障害	47
第219条 不従順	49
第220条 経路からの逸脱	49
第221条 拒 止	51
第222条 逃 避	51
第223条 反 抗	51
第224条 落馬、および馬の転倒	53
第225条 許可のない援助	53
第5章 タイムと速度	53
第226条 走行タイム	53
第227条 規定タイム	55
第228条 制限タイム	55
第229条 計 時	55
第230条 計時の中断	57
第231条 計時中断中の不従順	57
第232条 タイム修正	57
第233条 走行中の停止	57
第234条 速 度	59
第6章 減点基準	61
第235条 過 失	61
第236条 基準 A	61
第237条 基準 A でのスコア	63
第238条 基準 A に基づく採点方法	63
第239条 基準 C	65
第7章 罰金、イエロー警告カード、失権、失格	67
第240条 罰金とイエロー警告カード	67
第241条 失 権	69
第242条 失 格	73
第243条 馬に対する虐待行為（一般規程第142条も参照）	75
第244条 ブーツとバンテージ規制	77
第8章 ジャンプオフ	79
第245条 ジャンプオフ―概略	79
第246条 ジャンプオフでの障害物	81

第247条	ジャンプオフでの失権あるいは出場辞退	81
第9章 順位		83
第248条	個人順位と表彰	83
第10章 選手と馬		83
第249条	CSIO への招待	83
第250条	CSI への招待	87
第251条	参加申込（一般規程第116条も参照）	87
第252条	スターティングオーダー	91
第253条	出場選手の申告	95
第254条	馬の参加と頭数	95
第255条	チルドレン、ジュニア、ヤングライダー（付則9と12も参照）	99
第256条	服装、保護帽、敬礼	101
第257条	馬装	107
第258条	事故	111
第11章 役員		113
第259条	役員	113
第12章 競技		119
第260条	概要	119
第261条	ノーマル競技とグランプリ競技	121
第262条	パワーアンドスキル競技	123
第263条	ハンティング競技、あるいはスピードアンドハンディネス競技	127
第264条	ネーションズカップ	127
第265条	スポンサーチーム競技と他の団体競技	137
第266条	フォルト・アンド・アウト競技	139
第267条	ヒット・アンド・ハリー競技	139
第268条	リレー競技	141
第269条	アキュムレーター競技	145
第270条	トップスコア競技	147
第271条	コース自由選択競技	149
第272条	ノックアウト競技	151
第273条	2回走行競技	153
第274条	二段階走行競技	155
第275条	決勝ラウンドを行うグループ競技	159
第276条	決勝ラウンドを行う競技	159
第277条	ダービー競技	161
第278条	コンビネーション障害で競う競技	163
第279条	貸与馬による競技会と競技	163
第13章 獣医検査とホースインスペクション、馬の薬物規制とパスポート		165
第280条	獣医検査、ホースインスペクション、パスポート査閲	165
第281条	馬の薬物規制	167
第282条	馬のパスポートおよび個体識別番号	167
付則1 FEI 名譽バッジ		169
付則2 規定タイムの計算		171
付則3 ノックアウト競技		177
付則4 計時器とスコアボードの要件		181
付則5 コースデザイナーの昇格		189
付則6 審判員の昇格		189
付則7 スポンサー付きチームの登録		191
付則8 オリンピック大会、世界馬術選手権大会、大陸選手権大会への出場資格認定手順		193
付則9 ヤングライダーとジュニア規程		199
第1章 緒言		199
第1条	概要	199
第2条	諸規程の優先性	199
第3条	ヤングライダーとジュニアの定義	199
第2章 国際競技会と選手権大会		199
第4条	国際競技会（一般規程第102条を参照）	199
第5条	選手権大会	203

第6条	国際競技会と選手権大会への出場資格	205
第7条	シニア競技会および他の選手権大会	209
第8条	経費と特典	211
第9条	褒賞	213
第10条	馬の調教	213
第11条	技術代表	215
第12条	実施要項	215
第3章	大陸選手権大会と地域選手権大会	217
第13条	参加申込	217
第14条	出場選手の申告	217
第15条	年齢条件	219
第16条	競技	221
第17条	障害物とコース	227
第18条	団体順位	231
第19条	個人順位	233
第20条	馬装と服装	233
第21条	競技場審判団	235
第22条	外国人技術代表	235
第23条	獣医師代表団	235
第24条	上訴委員会	235
第25条	賞と記念品	235
第26条	その他	235
付則10	ベテラン選手規程	237
第1章	ベテラン選手	237
第1条	概要	237
第2条	ベテラン選手の定義	237
第3条	国際競技会（一般規程第102条を参照）	237
第4条	障害物とコース	239
第2章	大陸選手権大会 チームと個人選手	239
第5条	開催	239
第6条	外国人技術代表、獣医師代表、コースデザイナー	239
第7条	上訴委員会と競技場審判団	241
第8条	参加申込	241
第9条	出場選手の申告と交代（チームと個人選手）	243
第10条	出場資格	245
第11条	経費と特典	245
第12条	トレーニング・セッション	245
第13条	選手権競技	245
第14条	第1競技（チームと個人選手）	247
第15条	第2競技（団体決勝競技、第2次個人競技）	249
第16条	第3競技（個人決勝）	253
第17条	褒賞	257
付則11	ポニーライダー規程	259
第1章	緒言	259
第1条	概要	259
第2条	諸規程の優先性	259
第2章	ポニーライダーとポニーの定義	259
第3条	ポニーライダー	259
第4条	ポニーの定義	259
第3章	国際競技会と選手権大会	259
第5条	国際競技会	259
第6条	大陸選手権大会	263
第7条	国際競技会と選手権大会への出場資格	263
第8条	経費と特典	265
第9条	褒賞	265
第10条	ポニーの調教	265
第11条	役員	267
第12条	パスポート	267

第13条	ポニーの体高測定	267
第14条	実施要項	269
第15条	ポニー障害馬術競技会および選手権大会規則	269
第16条	障害物	269
第17条	練習用障害物	271
第18条	速度	271
第19条	服装と敬礼	271
第20条	保護帽の脱落と顎紐の緩み	271
第21条	馬装の検査	273
第22条	大陸選手権大会	273
第23条	選手権大会以外の競技会	275
追記A	障害馬術ポニー競技会で使用が許可される銜と鼻革	279
付則12	チルドレン競技会規程	283
第1章	緒言	283
第1条	概要	283
第2条	諸規程の優先性	283
第2章	出場資格	283
第3条	チルドレンの定義	283
第3章	国際競技会とFEI選手権大会	283
第4条	競技会の種類	283
第5条	大陸選手権大会	289
第6条	国際競技会と選手権大会への出場資格	289
第7条	経費と特典	291
第8条	褒賞	291
第9条	馬	291
第10条	役員	293
第11条	パスポート	293
第12条	実施要項	293
第13条	チルドレン障害馬術競技会および選手権大会規則	295
第14条	障害物	295
第15条	速度	295
第16条	基準「C」競技	295
第17条	服装と敬礼	295
第18条	馬装	295
第4章	大陸障害馬術選手権大会および地域障害馬術選手権大会	299
第19条	参加申込	299
第20条	出場選手の申告	301
第21条	馬の出場資格	301
第22条	競技	301
第23条	障害物とコース	305
第24条	団体順位	307
第25条	個人順位	307
第26条	競技場審判団	309
第27条	外国人技術代表	309
第28条	獣医師代表団	309
第29条	上訴委員会	309
第30条	落馬	309
第31条	安全性	311
付則13	アマチュア・オーナー・カテゴリー規程	313
第1条	要件	313
第2条	国際競技会	313
第3条	選手権大会	315
第4条	コースデザイナー	315
第5条	諸施設	315
障害馬術に関する用語集		317
索引		319

序 文

本障害馬術規程は、2012年1月1日付けで施行する。

本障害馬術規程は、国際障害馬術競技会に関する FEI（国際馬術連盟）規則を詳細に提示するものであるが、FEI 定款や FEI 一般規程、FEI 獣医規程、その他 FEI 諸規程すべての併読が必要である。この障害馬術規程で引用されているその他の FEI 諸規程条項は以下の通りである：

- (i) 第1条～第99条は FEI 定款の条項
- (ii) 第100条～第199条は FEI 一般規程の条項
- (iii) 第200条～第299条は本障害馬術規程の条項
- (iv) 第300条～第399条は障害馬術選手権および世界大会規程の条項
- (v) 第1000条～第1099条は FEI 獣医規程の条項

この障害馬術規程にあらゆる事態を想定して記載することは不可能である。予期せぬ状況、あるいは例外的な状況においては、この障害馬術規程と一般規程の趣旨をできるだけ反映させつつ、スポーツ精神に基づいて判断をするのが、しかるべき人物あるいは団体の責務である。障害馬術規程に網羅されていない事例については、可能な限り、障害馬術規程にある他の条項や他の FEI 諸規程の趣旨に添い、スポーツ精神に則って判断するべきものである。

簡潔にまとめるため、本規程の記載には男性形名詞を使用した が、男女の区別なく適用するものとして解釈する。

最初の文字を大文字で表記した用語は障害馬術規程の用語集、一般規程、あるいは定款にて定義を示している。

注記：2011年の FEI 総会以降に修正を行った規則については余白部分に縦線を施し、赤の太字で示した。文章が削除(取り消し線で示す)されている箇所があり、また幾つかの項目は別の条項に移され(グリーン色で示す)、新たに条項が追加されているところもあるため、十分に注意されたい。

(JEF 注：本書では色分けはしておりません。必要場合は FEI HP よりダウンロードし、参照下さい。また、日本語訳に修正箇所の記録はついていません。英語原文の太字、縦線を参照下さい。)

馬のウェルフェアのための FEI 馬スポーツ憲章

(付則14より移動)

国際馬術連盟（FEI）は、国際的な馬スポーツに係わるすべての者が、FEI 馬スポーツ憲章を遵守し、いかなる場合にも馬のウェルフェアが最優先され、決して競技の勝敗または商業的な影響を受けてはならないことに同意し、これを受け入れることを求めるものである。

1. 競技出場への準備段階や競技馬の調教段階のいずれの時点においても、馬のウェルフェアが他のどのような要求よりも優先されなければならない。

a) 質の良い飼養管理

厩舎設備、飼料給与、トレーニングは良好な馬の管理には不可欠であり、ウェルフェアを損なうものであってはならない。肉体的あるいは精神的な苦痛を与える可能性のある全ての行為は、競技の内外に関わらず禁止される。

b) トレーニング方法

馬はその身体能力および各種目のための成熟度に応じたトレーニングを受けべきである。馬に虐待あるいは恐怖を与えるトレーニング、または適正な準備のできていないトレーニングをさせてはいけない。

c) 装蹄および馬装具

フットケアおよび装蹄は高い水準にななければならない。馬装具は痛みやケガのリスクを避けるようにデザインされ、つくられていなければならない。

d) 輸送

輸送中は、ケガやその他の健康被害に対して十分な対策がとられていなければならない。車両は安全、良好な換気、高水準の整備、常に清潔な状態で、かつ適格なドライバーが運転しなければならない。馬を正しく扱える者が、常に馬の管理のために準備されていること。

e) 移動

すべての輸送は最新の FEI ガイドラインに則って綿密に計画され、定期的に飼料および水を給与するための休憩時間をとらなくてはならない。

2. 競技馬と選手は競技出場の許可を得る前に、コンディションが良好で競技参加にふさわしい状態にあり、健康状態も良好でなければならない。

a) 競技参加適性

競技への参加は、十分な能力を備えた競技参加適性のある馬および選手に制限されなければならない。

b) 健康状態

何らかの病気、跛行あるいはその他重大な病気の兆候、または臨床的な前駆症状のある馬は、そのウェルフェアをおびやかす可能性のある競技への参加、

あるいは参加の継続をしてはならない。その状態に疑義のある場合には獣医師のアドバイスを求めること。

c) ドーピングと薬物

ドーピング物質および薬物の乱用はウェルフェアに係わる深刻な問題であり、認められていない。いかなる獣医学的な治療の後も、競技の前に完全に回復するだけの十分な時間が必要である。

d) 外科的処置

競技馬のウェルフェアまたは他馬および／あるいは選手の安全をおびやかすあらゆる外科的処置は認められていない。

e) 妊娠牝馬／出産直後の牝馬

妊娠4ヶ月以降または仔馬を伴っている牝馬は競技に参加させてはならない。

f) 扶助の誤用

馬に対して自然な扶助あるいは人工的な扶助（鞭や拍車など）を過剰に使うことは認められていない。

3. 競技会が馬のウェルフェアを損なってはならない。

a) 競技場

馬は適当かつ安全な競技場でのみトレーニングあるいは競技を行うべきである。すべての障害物は馬の安全を考慮してデザインしなければならない。

b) 路面

馬が歩き、トレーニングあるいは競技をする競技場の路面はすべて、ケガを引き起こす要因を取り除いてデザイン、維持されなければならない。路面の準備、構造、維持管理は特に注意を払うべきである。

c) 荒天

馬のウェルフェアあるいは安全が確保できない気象条件においては、競技は実施されるべきではない。高温あるいは高温な環境下では、競技に参加した馬を速やかに冷やすための準備が必要である。

d) 競技会場の厩舎

馬房は安全、衛生的、快適、換気が良く、馬の大きさと性質に適応できるだけの十分な広さがなければならない。清潔で良質かつ十分な飼料および敷料、新鮮な飲料水、洗うための水は常に供給されるべきである。

e) 輸送に対する適応

競技後には、馬は FEI ガイドラインに則り輸送に適した状態になければならない。

4. 競技参加後の馬が十分な手入れをされること、また現役を退いた馬が人道的な扱いを受けるための最大限の努力をしなければならない。

a) 獣医学的治療

競技会においては常に獣医学的な専門知識が提供されるべきである。もし馬が競技中にケガをしたり疲弊した場合、選手は馬からおりるべきであり、さらに獣医師はその馬を検査しなければならない。

b) 委託センター

必要であれば、さらなる検査および治療のために、馬は救急車に収容され、最短の治療施設に搬送されなければならない。ケガをした馬には輸送前に最大限の手当てを施すこと。

c) 競技におけるケガ

競技中に発生したケガについては調査が行なわれるべきである。競技場路面の状態、競技の頻度、その他の危険要因について、ケガの発生を最小限に食い止めるために、注意深く調査しなければならない。

d) 安楽死

もしケガが重篤なものである場合、その馬は可及的速やかに獣医師によって安楽死処置をする必要がある。安楽死は人道的かつ苦痛を最小限にするものでなければならない。

e) 引退

馬が競技から引退したときには、その馬を大切に扱うためのあらゆる努力をしなければならない。

5. FEI は馬術スポーツに係わるすべての者が、競技馬のケアおよび管理に関連する各々の専門分野において、可能な限り高いレベルに到達するよう推進する。

馬のウェルフェアのための馬スポーツ憲章は、適宜改正され、その目的は常に受け入れられるものである。研究による新しい発見は特に注目され、FEI はウェルフェアに関する研究のための投資およびサポートをいっそう促進している。

この馬スポーツ憲章は FEI ウェブサイトでも入手できる：www.fei.org

法的には英語版を権限ある拠り所とする。

第1章 はじめに

第200条 概要

1. 障害馬術競技とは、障害物を配置したコースを用いて様々な条件のもとで馬と選手のコンビネーションが審査される競技である。この競技は馬の自由な動きやエネルギー、技能、速度、飛越に対する従順性、および選手のホースマンシップを具現することを目的とする。競技を統制するためには厳格かつ詳細な障害馬術規程を定めることが肝要である。
2. 選手が障害物の落下、拒止、規定タイム超過などの過失を犯した場合には減点される。競技の種類によるが、減点の最も少ない選手、あるいは走行タイムの最も早い選手、得点の最も多い選手が優勝となる。
3. 障害馬術競技の多様性が推奨される。競技やコースに変化をもたせることは選手や観客の関心を高める大切な要素であり、従って本障害馬術規程は障害馬術競技に適用される諸規程を画一化するものではあっても競技の本質を画一化するものではない。
4. 一般規程と障害馬術規程に記載の要件を遵守するという条件で、障害馬術部門ディレクターは障害馬術委員長と協議の上、他種の競技を許可する場合がある。各競技の詳細な競技条件は、競技会の実施要項とプログラムに明記しなければならない。FEI が競技条件を承認しない限り、組織委員会は競技を開催することが認められない。5歳馬を対象とする国際競技の開催を希望する組織委員会は、所属する各国の馬術連盟（以下、NF と記載）を通して FEI の許可を求めなければならない。これらの競技を開催する諸条件は、書面にて FEI の承認が必要である。
5. 競技はすべての選手に公平でなければならない。その為には、公式ビデオ記録（公式ビデオ記録とは、組織委員会が雇用した放送網あるいは映像会社が行う記録と考える）など、利用できるあらゆる技術的支援を駆使し、FEI 諸規程に則ってその責務を遂行する FEI 役員を支援することが認められる。ビデオ記録が FEI 諸規程に即して認可されるには、公式成績の掲示後30分以内の提出が必要である。ビデオ記録を用いて再考するか否かは審判長の判断に任される。競技場審判団がビデオ証拠を信頼し、成績発表後に競技結果を変更する場合には、このビデオ記録に元の裁定あるいは判断が誤っていたとする確固たる証拠がなければならない。ビデオの使用はいかなる場合も適用される規定の範囲内とし、その使用によって現行規定を変えるものであってはならない。

水濊障害については、水濊障害審判員の判断が最終である（障害馬術規程第211条8を参照）。

6. 経 費

6.1. チーム監督、チーム獣医師、選手、グルーム、馬

6.1.1. シニア対象の世界選手権大会と大陸選手権大会の組織委員会は、公式チームに属するチーム監督、チーム獣医師、選手、馬、およびその馬のグルームについて、ホースインスペクション前日から競技会終了翌日までの宿泊費と食費を負担するとともに、主催 NF 国内での船または航空機からの馬の積み降ろしと、それらへの積み込みの費用、検疫費用、関税も含め、主催 NF の国境あるいは到着地点から競技会場までの旅費を負担しなければならない。帰路も同様とする。

6.1.2. CSIO の組織委員会は、公式チームに属するチーム監督、選手、馬、およびその馬のグルームについて、最初の公式競技前日から競技会終了翌日までの宿泊費と食費を負担しなければならない。CSIO については、旅費の償還義務はない。組織委員会の裁量により、CSIO にて公式チームに加えて参加申込をした個人選手についても、上記条件の一部または全部を適用される場合がある。

6.1.3. 他の FEI 選手権大会、FEI ワールドカップ™ ファイナル、オリンピック大会における諸経費については、これら競技会の特定規則を参照のこと。地域大会と諸々の大会での諸経費は組織委員会の判断に任される。

6.1.4. 組織委員会は実施要項で公表した期間以外での経費、あるいは公式チームに随行した同行者の旅費や滞在費については一切支払う義務がない。

6.1.5. FEI 諸規程に別段の定めがない限り、選手およびグルームの旅費と宿泊費、厩舎代と馬糧経費の規模を実施要項に記載する必要がある、また一定価格の宿泊費および食費を負担するものでなければならない。

7. 組織委員会が資金上の義務を果たせないのではないかと、何らかの理由により FEI が推測した場合、当該 NF は銀行保証などの財務保証、あるいはエスクロー勘定により競技会を保証するよう求める権限を有する。情報を競技会実施要項に記載し、競技会がそのような財務保証を受けているか否かを示す。FEI は、競技会で賞金支払いが不履行になる可能性があると判断した場合、参加選手にはその所属 NF を通して通知される。あらゆる予防措置を講じても組織委員会が FEI と選手に対して金銭的債務を果たせなくなった場合は、すべての債務が決着するまで、新たな競技会を開催することは認められず、さらに組織委員会が開催を希望する次の競技会で見込まれる賞金総額は、事前に組織委員会と当該 NF との共有口座に確保されていなければならない。

第2章 アリーナと練習用馬場

第201条 アリーナ、練習用馬場、練習用障害物

1. アリーナは四方を囲まれていなければならない。競技中、馬がアリーナ内にいる間は出入口をすべて閉鎖する。
2. 屋内アリーナは短辺が20m以上で、1,200㎡以上の広さがなければならない。屋外アリーナは短辺が50m以上で、4,000㎡以上の広さがなければならない。正当な事由により、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員長と協議の上、この規則に関する例外を認める場合がある。

3. 練習用馬場（第244条1より移動）

組織委員会は、適正なトレーニング条件として十分な広さを持つ練習用馬場を最低1面は提供しなければならない。少なくとも垂直障害1個と幅障害1個を用意する必要がある。また馬場は馬のトレーニングに適切な状態でなければならない。参加選手数が多く、また十分なスペースがある場合には障害物を追加して提供するべきである。これらの障害物はすべて通常の方法で構築し、赤と白の標旗を設置しなければならない。しかしこのような標旗に代えて、テープやペンキなどで障害物のソデあるいは支柱の上端を白色や赤色にしてもよい。

場所に十分な余裕があり参加選手数が多い場合は、練習用馬場を別に1面設ける場合がある。

4. 練習用障害物（第244条2より移動）

組織委員会が用意した資材以外のものをを用いた障害物を使うことは禁止され、これに違反した者は失格と／あるいは罰金が科せられる（障害馬術規程第242条2.6と第240条1.5を参照）。練習用障害物は標旗の指示方向にしか飛越してはならない。練習用障害物のいかなる部分も物理的に人が支えてはいけない。

- 4.1. グラウンド・ラインは最初の障害物正面部分の真下、あるいは踏切側に障害物から1mまで離して置くことができる。グラウンド・ラインを障害物の手前に置いた場合は、障害物の着地側にも横木を1本、障害物から1mまで離して同じ距離に置くことができる。
- 4.2. 高さ1.30mあるいはそれ以上の障害物では、グラウンド・ラインを使用するかどうかにかかわらず、障害物踏切側に最低2本の横木を掛け金にのせて設置しなければならない。低い方の横木は常に1.30m未満の高さでなければならない。
- 4.3. もし障害物最上段にクロスバーを使う場合は、個々に落下するよう設置しなければならない。横木の上端は掛け金にのせることとする。しかしクロスバーの後方に水平横木を置くことはでき、その場合はクロスバー中心よりも20cm以上高くしなければならない。

- 4.4. 障害物の最上段横木は両端とも必ず掛け金にのせなければならない。もし横木を掛け金の端にのせる場合は、踏切側に近い部分ではなく着地側の方へのせなければならない。
- 4.5. 障害物の最大高さが1.40mあるいはそれ以下の競技において練習用馬場で使用できる障害物は、進行中の競技にて使われている障害物の高さおよび幅の最大実測値から10cmを超えない範囲とする。進行中の競技に使われている障害物の高さが1.40mを超える場合は、練習用馬場で使用できる障害物の高さを1.60mまで、幅は1.80mまでとする。
- 4.6. 横木が持ち上げられている場合、あるいはその片端もしくは両端が掛け金にのせられている場合に、馬を常歩で通過させることは認められない。
- 4.7. 組織委員会は水濺障害を模した障害用資材を提供することができる。

5. ジムナスティック・トレーニング

- 5.1. 選手は馬場に置き横木を使用してジムナスティック・トレーニングを行うことができるが、この目的に使用できる障害物の高さは1.30m以下とする。このような障害物を使用する選手は、肢たたきに関する規定に違反してはならない（障害馬術規程第243条2.1を参照）。
- 5.2. 置き横木：十分なスペースがある場合は置き横木を置くことができるが、高さ1.30m以下の垂直障害の踏切側では2.50m以上離して置かなくてはならない。置き横木は着地側にも置くことができるが、速歩で飛越する場合は2.50m以上離し、駢歩通過の場合は3.00m以上離すこととする。
- 5.3. 運動とトレーニング：午前中の数時間はスチュワード1名を常駐させて、選手が運動やトレーニングを行えるよう、可能な限り準備を整える必要がある。選手は障害馬術規程第201条4、第201条5、第201条6に違反しない範囲で障害物を変えることができる。
- 6. 十分なスペースがあって正しい障害間距離で設置する場合に限り、コンビネーション障害の使用が認められる。障害用資材は組織委員会が用意しなければならない。

トレーニング・エリアが混んでいる場合、選手は単独障害のみ使用できる。

- 7. 練習用馬場が使われている間は、必ずスチュワードが監視していなければならない。（第244条5より移動）

第202条 アリーナへの立ち入りと練習用障害物

- 1. 選手が徒歩でアリーナへ入場できるのは、各競技前のコース下見1回のみであり、これにはジャンプオフのある競技も含まれる。「アリーナ閉鎖」の表示が入場口や、目立つようアリーナ中央に掲示されている場合は、アリーナへの入場が禁止される。アリーナ内への入場が許可されるのは競技場審判団がベルを鳴らして入場の合図をした時と、「アリーナ開放」の表示がある場合である。また場内放送でのアナウンスも必要である。ただし、異なるコースで2回走行が行われる競技では、2回目の走行前に下見をすることができる。

2. 練習用施設が著しく限られている屋内競技会については、組織委員会が競技場審判団の合意を得た上で、時間を定めてアリーナを練習に開放することができる。
3. 練習用馬場が不適切もしくは使用できない場合は、コースに使われていない練習用障害物を1個、アリーナ内に設置しなければならない。その他の状況下ではいかなる競技においても、任意障害あるいは練習用障害物を設置することはできない。一部の特別競技（六段障害飛越競技やビュイッサンス競技など）においては、競技場審判団の判断により、1回目あるいは2回目のジャンプオフ後に残っている選手はアリーナ内に待機していなければならない場合がある。この場合、競技場審判団はアリーナ内に練習用障害物1個の設置を認めなければならない。
4. 練習用障害物は高さ1.40m、幅1.60m 以内の幅障害、あるいは高さ1.40m 以内の垂直障害とし、必ず赤と白の標旗を設置するが、番号は付けない。この障害物の大きさは競技中に変更してはならない。この障害物の飛越試行は2回までとする。この障害物を3回以上飛越、または飛越しようと試みた選手は失格となる場合があり、加えて罰金が科せられる（障害馬術規程第242条2.3と第240条1.6を参照）。

練習用障害物を間違った方向から飛越した場合は失格となる（障害馬術規程第242条2.7）。

選手が練習用障害物の飛越に使える時間は、競技場審判団が開始のベルを鳴らしてから90秒までとする。

練習用障害物における落下、拒止、逃避は飛越行為とみなされる。1回目の試行で拒止があり、障害物の落下もしくは移動を伴った場合は、この練習用障害物が復旧された時点で2回目の飛越（最終飛越）を試みることができる。障害物の復旧に要した時間は90秒には含まれない。

競技場審判団は選手が練習用障害物の飛越試行を終了した後、もしくは90秒が経過した時点で競技走行開始の合図をしなくてはならない。この合図（ベル）があった後、1回しか試行していない選手は2回目の飛越を試みてもよいが、スタートラインを正方向から45秒以内に通過しなければならない。45秒が経過した場合はその時点で走行タイムの計測を開始する（障害馬術規程第203条1.2を参照）。

5. 競技開始前に行うパレードの最中にアリーナ内の障害物を飛越したり、飛越しようとしてはならない。この条項に違反した場合は失格となる場合がある（障害馬術規程第242条2.4を参照）。
6. 入賞者は競技場審判団の許可を得て、プレス向けに障害物を1個飛越することができる。ただし、その後の走行に使用される障害物ではないものとし、またこの行為は奨励されるべきものではない。

第203条 ベル

1. ベルは選手とのコミュニケーション手段である。競技場審判団のメンバー1名がベルを担当し、この使用に責任を負う。ベルは次の場合に使われる：

- 1.1. コースの準備が終わり、選手に下見のためのアリーナ入場を許可する場合（障害馬術規程第202条1を参照）と下見終了を伝える場合。
- 1.2. スタートの合図を送り、アリーナに隣接して設置されたスコアボードのタイム表示装置、あるいはこれに代わる表示装置にて45秒のカウントダウンを開始する場合。

45秒のカウントダウンとは、選手が走行を開始する前に使える時間を示す。予期できぬ状況が発生した場合は競技場審判団にこの45秒のカウントダウンを中断する権限がある。スタートの合図から選手が正しい方向よりスタートラインを通過するまでに生じた不従順や落馬などの偶発事例は減点されない。

ベルが鳴ってから第1障害を飛越するまでにスタートラインを正しい方向から2回目通過した時は、不従順とみなされる。

しかし状況に鑑み、競技場審判団はその判断でスタートを有効化せず、あるいはスタート手順を取りやめ、再度スタートの合図を行ってカウントダウンを再開する権限を有する。

- 1.3. 何らかの理由や予期せぬ事態により選手の走行を中断させる場合、および中断の後に走行再開の合図をする場合（障害馬術規程第217条4と第233条を参照）。
- 1.4. 不従順によって落下した障害物が復旧されたことを選手に合図する場合（障害馬術規程第233条を参照）。
- 1.5. 長めの合図を繰り返して、選手が失権となったことを知らせる場合。
2. 障害馬術規程第233条2に特段の記載がある場合を除き、選手が停止の合図に従わない場合は競技場審判団の判断により失権となる（障害馬術規程第241条4.5を参照）。
3. 走行中断後に選手が走行開始のベルの合図を待たずに走行を再開し、障害物を飛越したり飛越しようとした場合、その選手は失権となる（障害馬術規程第241条3.14を参照）。

第204条 コースと全長測定

1. 競技場審判団は競技開始前にコースの下見を行い、コースを検証しなければならない。コースとは、乗馬した選手が競技中に正方向からスタートを切ってフィニッシュに至るまでの軌跡を言う。全長は馬が通常走行するライン上を短距離部分で正確に測定してメートル表示をするが、カーブ部分については特にこれに留意する。この通常走行するラインとは障害物の中央を通るものとする。
2. 選手権競技やオリンピック大会、ネーションズカップ、グランプリ競技では、コースデザイナーが正確にコース全長を測定したことを審判長あるいは彼により指名された人物が確認しなければならない。例外として、障害馬術規程第204条3に記載の条件が適用される場合は、競技場審判団がタイムを変更することができる。

3. 一度競技が開始されると、競技場審判団だけがコースデザイナーおよび技術代表（任命されている場合）と協議のうえ、コースの全長測定に著しい誤りがあったと判断を下すことができる。これは遅くとも、不従順やその他いかなる中断もなしにコースを完走した選手が3名出た段階で、これら3選手とも45秒のカウントダウン終了前にコース走行を始めたとの前提で、なおかつその次の選手が走行を開始する前に行うものとする。この場合、競技場審判団は規定タイムを変更することができる。規定タイムが延ばされた場合、この変更前にコース走行を終了している選手については、その変更に従ってスコアを修正する。規定タイムの短縮は、既に走行を終了している選手が規定タイムの変更によりタイム減点を受けることがない範囲でのみ可能である。
4. グ라운드状態が悪化した場合、競技場審判団は当該競技の最初の選手がスタートする前に、実施要項に記載された規定速度を変更できる。
5. メートル表示のコース全長は、競技に使用される障害物総数×60を超えてはならない。
6. スタートラインとフィニッシュラインは、第1障害および最終障害より6m～15m 以内の距離で設置しなければならない。これらのラインは両方とも、全面赤の標旗を右側に、全面白の標旗を左側に設置しなければならない。スタートラインとフィニッシュラインの標旗の脇には「S」（＝スタート）と「F」（＝フィニッシュ）の文字を書いたマーカーも設置しなければならない。

第205条 コース図

1. コースデザイナーは、コース詳細をすべて正確に示したコース図のコピーを競技場審判団へ渡さなければならない。競技場審判団に渡されたコース図のコピーを、各競技開始の遅くとも30分前までにアリーナの入場口にできるだけ近い場所へ掲示しなければならない。
2. 障害馬術規程に定める特定競技の場合を除き、障害物は飛越順序に従って番号を付けなければならない。
3. コンビネーション障害に付ける番号は1つとする。競技場審判団と選手に分かり易くするため、コンビネーションの各障害物に同一番号を付けることができる。その場合は区別する意味で文字を加える（例：8A、8B、8C など）。
4. コース図には以下の項目の記載が必要である：
 - 4.1. スタートラインとフィニッシュラインの位置。走行中、別段の記載がない限り、これらのラインを再度通過しても減点対象とはならない。
 - 4.2. 障害物の相対的な位置、障害物の種類（幅障害、垂直障害、トリプルバー）、障害物に表示される通し番号と文字表示

- 4.3. 左側に白標旗、右側に赤標旗で表示した回転義務地点
- 4.4. 選手が通過すべきコースを継続したラインで示したり（この場合、選手は正確にこのコースを通らなければならない）、矢印によって各障害物の飛越方向を示す（この場合、選手はコースを自由に選択できる）。制限のないコースに回転義務地点を指定する場合は、同一プラン上に継続したラインと矢印とで示さなければならない。
- 4.5. 使用する減点基準
- 4.6. 適用する場合は競技での走行速度
- 4.7. コース全長
- 4.8. 規定タイムと制限タイム（ある場合）；または障害馬術規程に定める特定の競技では指定タイム
- 4.9. ジャンプオフに使用される障害物、コース全長、規定タイム、制限タイム
- 4.10. 完全閉鎖もしくは一部閉鎖とみなされるコンビネーション障害（障害馬術規程第214条を参照）
- 4.11. コースに関する競技場審判団の決定と／あるいは変更事項。

第206条 コースの修正

- 1. 不可抗力のため、既に掲示されたコース図を修正する必要がある場合、その変更は競技場審判団の合意をもって初めて可能となる。この場合、各チーム監督と個人選手全員へ変更事項の伝達が必要である。
- 2. 一度競技が開始された後は、障害馬術規程に別段の記載がない限り、その競技の開催条件を修正したりコースや障害物を変更してはならない（第204条3を参照）。競技を中断する必要がある場合は（激しい雷雨や照明の不備など）、同じ障害物とコースを使い、できるだけ同じ条件下で中断した段階から競技を続行しなければならない。しかしネーションズカップについては障害馬術規程第264条3.6を適用する。
- 3. 上記2に関わらず、競技場審判団の意見により状況の悪化あるいは他の異例な状況により必要と判断された場合は、ラウンド中もしくはラウンドとラウンドの合間に障害物の位置を移動させることができる。水濠障害や乾壕、固定障害のように移動できない障害物の場合はコースから外す。障害物がラウンド中にコースから外された場合は、変更以前に走行を終了している選手で当該障害にて減点があった選手について、障害減点やそれに伴うタイム修正を取り消し、スコアを調整しなければならない。しかし、既に発生した失権とタイム減点はすべてそのままとする。
- 4. 上記3により変更されたコースについて、必要であれば規定タイムと制限タイムを新たに設定する。

第207条 標 旗

1. 全面赤と全面白の標旗を用いて、次のようなコース詳細を示さなければならない。
 - 1.1. スタートライン：「S」と記したマーカーも設置しなければならない（障害馬術規程第204条6を参照）。
 - 1.2. 障害物の限界：標旗は障害物の支柱のどの部分に装着してもよく、また標旗を単独で立てても構わない。垂直障害については1本ずつの赤旗と白旗を設置し、幅障害の限界を示すには少なくとも2本ずつの赤旗と白旗を設置しなければならない。これらの標旗は練習用馬場に提供される障害物（障害馬術規程第201条3）、あるいはアリーナ内の練習用障害物（障害馬術規程第202条3）の限界を示すためにも使用しなければならない。練習用馬場では、標旗の代わりに上端が赤色あるいは白色の障害物のソデ／支柱を使用してもよい。
 - 1.3. 回転義務地点
 - 1.4. フィニッシュライン：「F」と記したマーカーも設置しなければならない（障害馬術規程第204条6）。
2. 選手は障害物、スタートライン、フィニッシュライン、回転義務地点において必ず標旗の間を（赤旗を右手に、白旗を左手に見て）通過しなければならない。水濠障害着地側の限界を示す標旗のポールは、砕けたり割れたりせず、またこれに当たった時には曲がるような素材で作る必要がある。標旗には尖った先端や角があってはならない。
3. 選手が標旗間を正しく通過しなかった場合は、走行を続行する前に正しく通過し直さなくてはならない。修正を行わなかった場合は失権となる（障害馬術規程第220条1.2を参照）。
4. アリーナ内で標旗を転倒させても減点にはならない。障害物や回転義務地点、フィニッシュラインの限界を示す標旗を不従順や反抗によって（これらのラインを通過せずに）転倒させたり、予期せぬ事情により倒れた場合は、標旗の再設置を直ぐには行わない。選手は走行を継続しなければならず、障害物／回転義務地点は標旗が元の位置にあるものとして審査が行われる。この標旗は次の選手にスタートの合図を出す前に再設置しなければならない。
5. しかしながら、水濠障害や自然障害の限界を示す標旗が不従順や予期せぬ事情により転倒し、この標旗の転倒によって障害物の性質が変わってしまった場合には、競技場審判団が当該選手の走行を中断させる。標旗が再設置されている間は計時を止め、障害馬術規程第232条の手順に従ってタイム修正の6秒が適用される。
6. 特定の競技では、スタートラインとフィニッシュラインを両方向から通過する場合がある。この場合は4本の標旗を使用し、赤旗1本と白旗1本をラインの各々の端に設置する。

第3章 障害物

第208条 障害物－概略

1. 障害物は全体の形状と外観が魅力に溢れ、変化に富み、周囲の環境によく合ったものでなければならない。障害物自体、およびこれを構成する各々のパーツも落下し得るものでなければならず、かつ軽すぎてわずかな接触でも落下するものであったり、重過ぎて馬の転倒や怪我を誘引するものであってはならない。
2. 障害物はホースマンシップと公平性を念頭においてデザインしなければならない。
3. スポンサー付き障害物とは、標旗間に広告やスポンサー製品、またはそれを表現するような描写がある障害物のことを言う。障害物のソデに表示された広告あるいは製品描写の面積が0.5㎡を超える場合も、スポンサー付き障害物とみなされる。障害物のソデに0.5㎡以内の面積で広告が表示されている場合は、スポンサー付き障害物とみなさない。スポンサー付き障害物の個数は、障害物の飛越回数総数の30%（切り上げて整数とする）までとする。

本項目は世界選手権大会、大陸選手権大会、FEI ワールドカップ™ ファイナル、FEI が指定する他の競技会や競技にも適用する。技術代表は安全性と技術的適性の観点から、すべての障害物デザインおよび構造を承認しなければならない。

スポンサー付き障害物の飛越回数は、障害馬術委員長および FEI コマーシャル部門ディレクター、FEI 障害馬術部門ディレクターの合意を得て50% までに増やすことができる。

4. 一般規程第102条6に即して区分けされた競技会の範疇で行われるいかなる競技でも、第1ラウンドでの障害物の高さは：（以前の第200条8より移動）
 - (i) CSI1* 競技会では1.40m まで；
 - (ii) CSI2* 競技会では1.45m までとする。この条項は六段障害飛越競技とピュイッサンス競技には適用しない。
5. 六段障害飛越競技、ピュイッサンス競技、パワーアンドスキル競技を除いては、いかなる場合も障害物の高さが1.70m を超えてはならない。幅障害は2m を超えるものであってはならないが、例外としてトリプルバー（三段横木）の最大幅は2.20m とする。この制限は1回あるいは数回のジャンプオフにも適用される。水壕障害については、踏切部分を含めて奥行が4.50m を超えてはならない。
6. 横木とその他の障害物構成パーツは、掛け金（カップ）で支えるものとする。横木は掛け金の上で回転し得る状態になければならず、この場合、掛け金の深さは18mm 以上、30mm 以内とする。ブランク、欄干、障壁、ゲートなどの掛け金については、通常の掛け金よりも開いているか、あるいは平らなものでなければならない。

7. この障害馬術規程と最終実施要項に記載された障害物の高さとの制限は、細心の注意を払って遵守しなければならない。しかし、障害物に使われている材料や設置された場所によって規定の大きさを多少超えるような場合は、規定の上限を超えたとはみなされないが、その許容範囲は高さ5cm、幅10cm までとする。
8. 本障害馬術規程に明記されたもの以外で、競技に使われる障害物については、実施要項に明示しなければならない。

第209条 垂直障害

1. その構造のいかんを問わず、同一垂直面で過失が判定される場合にのみ、垂直障害と称することができる。

第210条 幅障害

1. 幅障害は高さとの両方で飛越に努力を要するように造られた障害物である。幅障害の奥の横木や、トリプルバーの中央と奥の横木には FEI 認可のセーフティーカップを使用しなければならない。競技アリーナおよび練習用馬場では認可されたセーフティーカップの使用が義務づけられる。
2. セーフティーカップに関する規則の遵守については審判長が責任を負う。外国人審判員はこれに関わるあらゆる規則違反を FEI へ報告する。競技会で使用される FEI 認可のセーフティーカップ業者の名称を実施要項に記載する。

第211条 水濠障害、垂直障害を伴った水濠障害、およびリバプール

1. 障害物を水濠障害と称するには水濠の手前、中間、着地側にいかなる障害物も設置してはならない。水濠障害の奥行は2m 以上とし、掘り下げる必要がある。水濠障害設営の詳細については、FEI ウェブサイトに掲載されている国際障害馬術競技会メモランダムを参照のこと。

2013年1月1日発効：水濠障害が国際障害馬術競技会メモランダムに記載の規格を満たさない場合は、障害馬術規程第211条10に記載されている通り、垂直障害を水濠の上に設置しなければならない。

2. 踏切側には高さが40cm 以上、50cm 以内の踏切（生垣、小さい壁）を設置しなければならない。水濠障害正面の幅は、奥行より30% 以上広くななければならない。

3. オリンピック大会、地域大会、FEI 選手権大会、CSIO、CSI では、厚さ約1cm 対比色のプラスティシーン（即ち芝馬場であれば白色のプラスティシーン；砂馬場であれば彩色したプラスティシーン）で覆った幅6cm 以上、8cm 以内の着地板で水濠障害の着地側限界を明示しなければならない。このプラスティシーンは馬が踏んだときにはその都度、取り替える。馬が跡を残したときにはいつでも取り替えられるよう、予備の着地板と共にプラスティシーンを幾つか準備しておく必要がある。着地板は水際の地面（即ち砂地か草地に直接）に正しく固定しなければならない。
4. 水濠障害の底がコンクリートや硬い素材でできている場合は、ヤシ製あるいはゴム製のマットのような柔らかい素材で覆わなければならない。
5. 水濠障害での過失は次の通り：
 - 5.1. 水濠障害の限界を示す着地板に馬の一蹄またはそれ以上の蹄がのった場合。蹄または蹄鉄が着地板に接触して跡を残した場合は過失である。球節あるいはブーツの跡は過失とならない。
 - 5.2. 馬の一蹄またはそれ以上の蹄が着水した場合
6. 生垣や踏切部分にぶつかったり、これを転倒または移動させても過失とはならない。
7. もし4本の標旗のうち1本を落下または移動させた場合は、水濠審判員が標旗のどちら側を馬が通過したか見極めて、それが逃避にあたるか否かを判断する。逃避と判断した場合はベルを鳴らし、落下または移動した標旗が復旧されるまで計時を止め、障害馬術規程第232条に則って6秒を加算する。
8. 水濠障害審判員の決定は最終的なものである。このため水濠障害審判員は競技場審判団メンバーでなければならない。
9. 水濠障害審判員は、水濠障害で減点のあった馬の個体識別番号と減点の理由を記録しなければならない。
10. 高さ1.50m までの垂直障害のみオープン水濠障害の上に設置できる。これに使用する横木の数に制限はないが、FEI 認可のセーフティーカップを使用する。垂直障害はこの水濠障害正面から2m 以内に設置することとする。この障害物は水濠障害ではなく垂直障害として審査される。その為、限界を指定する着地板やその他の措置を講じる必要はない。着地板が使用されている場合は視覚的補助と考え、これに何らかの跡が残っても減点とはならない。踏切側の障害構成パーツが移動した場合でも同様に判断する。
11. 障害物の下、手前あるいは背後に水を用いる場合（いわゆる「リバプール」）には、水の部分を含めたこの障害物の奥行は2.00m 以内とする。
12. 投光照明のもとで行われる競技で水濠障害を使用できるか否かは、技術代表、もしくは技術代表が不在の場合は外国人審判員の判断に任される。

第212条 コンビネーション障害

1. ダブル、トリプルもしくはそれ以上のコンビネーション障害とは、2個あるいはそれ以上の障害物の集合を意味し、各障害間距離は7m～12mとして（ただし、基準C採用のハンティング競技やスピードアンドハンディネス競技の場合、および障害間距離が7m未満の固定障害を除く）、2回以上の連続飛越を必要とするものである。障害間距離は、障害物底部の着地側から次の障害物底部の踏切側までを測定する。
2. コンビネーション障害では、いかなる障害物も周回することなく、各障害物を別々に、かつ連続して飛越しなければならない。コンビネーション障害の各障害物における過失は個別に減点される。
3. 拒止、逃避があった場合、選手はそのコンビネーション障害が完全閉鎖か一部閉鎖（障害馬術規程第214条を参照）、あるいは六段障害飛越競技かオブスタクル・イン・ライン競技でない限り、このコンビネーション障害をすべて再飛越しなければならない。
4. コンビネーション障害を構成する各障害物における過失と再飛越の際の過失は別々に減点され、合算される。
5. コンビネーション障害では、トリプルバーは最初の障害物にのみ使用することができる：

第213条 バンク、堆土、傾斜路

1. 障害馬術規程第213条2に記載の場合を除き、バンク、堆土、傾斜路、サンカンロードはそれに障害物が設けられていなくても、また飛越方向がどちらからであってもコンビネーション障害とみなされる（障害馬術規程第212条を参照）。
2. 障害物が設置されていないか、あるいは1本か数本の横木のみがその上に設置されているバンクや堆土は、1回で飛越しても良い。この方法で飛越しても減点の対象とはならない。
2. 高さ1m以内のテーブルバンクを除き、バンクや堆土、サンカンロード、崖錘、スロープ、傾斜路を屋内競技会に使用してはならない。

第214条 閉鎖コンビネーション障害、一部閉鎖コンビネーション障害、および一部開放コンビネーション障害

1. 四方を囲まれており、飛越以外には通過の方法がない場合には、このコンビネーション障害を完全閉鎖障害とみなす。
2. 閉鎖コンビネーション障害とは出入りのできる羊用囲い（四角形または六角形）、もしくはこれに類似するもので、競技場審判団が閉鎖コンビネーション障害と判断したものとする。コンビネーション障害の一部が開放でもう一方が閉鎖である

場合は、一部開放かつ一部閉鎖とみなす。拒止や逃避、落馬が生じた場合は次の要領で対処する（障害馬術規程第219条を参照）：

- 2.1. 閉鎖部分で不従順または落馬が生じた場合、選手はコースの表示方向へ飛越して出なければならない。
- 2.2. 開放部分で不従順または落馬が生じた場合、選手はそのコンビネーション障害のすべてを再飛越しなければならない。再飛越しない場合は失権となる（障害馬術規程第241条3.15を参照）。

不従順により障害物の落下と／あるいは移動が生じた場合は、タイム修正の6秒が適用される。一度、障害物の囲いの中に入って拒止が生じた場合には、選手はコースの表示方向へ飛越して出なければならない。計時が再開された時点で6秒の減点が加算され、選手は走行を再開する。

3. 競技場審判団は競技前にコンビネーション障害を閉鎖とするか一部閉鎖とするかを決定しなければならない。この決定はコース図に記載される。
4. コンビネーション障害が閉鎖か一部閉鎖なのかコース図に明記されていない場合は、開放コンビネーション障害とみなし、しかるべく審査される。

第215条 選択障害とジョーカー

1. 競技でコース上の2つの障害物に同一番号が付けられている場合は、選手はいずれの障害物を飛越するか選択できる：
 - 1.1. 障害物の落下や移動を伴わずに拒止や逃避が生じた場合は、次の試行に際して選手は拒止あるいは逃避のあった障害物を飛越する義務はない。飛越する障害物を選択できる。
 - 1.2. 拒止や逃避によって障害物の落下や移動が生じた場合は、その落下あるいは移動した障害物が復旧され、競技場審判団がスタートの合図を出すのを待って、選手は走行を再開しなければならない。飛越する障害物を選択できる。
2. 選択障害の各々に赤色と白色の標旗を設置しなければならない。
3. ジョーカーは難しい障害物であり、ホースマンシップと公平性を念頭においてデザインしなければならない。これはアキュムレーター競技かトップスコア競技でのみ使用できる。

第4章 走行中の減点

第216条 減点－概略

走行中に次のようなことが発生した場合は減点となる：

1. 障害物の落下（障害馬術規程第217条を参照）と水濠障害における馬の肢の着水、もしくは水濠障害限界を示す着地板に肢もしくは蹄鉄の跡が残った場合
2. 不従順、拒止、逃避、あるいは反抗（障害馬術規程第219条を参照）
3. 経路からの逸脱（障害馬術規程第220条を参照）
4. 馬の転倒と／あるいは落馬（障害馬術規程第224条を参照）
5. 許可のない援助（障害馬術規程第225条を参照）
6. 規定タイムあるいは制限タイムの超過（障害馬術規程第227条と第228条を参照）

第217条 障害物の落下

1. 馬または選手の過失により、次のようなことが発生した場合は障害物の落下とみなす：
 - 1.1. 障害物全体あるいは同一垂直面上の上段が落下した場合は、落下したパーツが他のパーツに引っかかって落ちなかった場合でも落下とみなす（障害馬術規程第218条1を参照）。
 - 1.2. 少なくとも障害物の片側が掛け金のいかなる部分からも外れている場合。
2. 飛越方向を問わず、飛越中に障害物の一部や標旗に接触したり移動させてしまっても、障害物の落下とはみなされない。疑念がある場合は、競技場審判団が選手に有利となるよう判断するべきである。不従順による障害物と／あるいは標旗の落下や移動は、拒止としてのみ減点される。

不従順の結果、障害物（標旗の場合を除く）の移動が発生した場合はベルを鳴らし、復旧される間は計時を止める。この場合は落下とみなされず、不従順でのみ減点され、障害馬術規程第232条に則ってタイム修正される。

3. 障害物の落下に対する減点は基準 A と基準 C に記載の通り（障害馬術規程第236条と第239条を参照）。
4. 落下した障害物の一部が他の障害物を飛越する際に妨げとなる場合はベルを鳴らし、これを除去してコースの走行が可能となるまで計時を止める。
5. 適正に復旧されなかった障害物を選手が正しく飛越した場合は減点とならない。しかしこの障害物を落下させた場合は、競技で採用されている基準に従って減点される。

第218条 垂直障害と幅障害

1. 垂直障害もしくは障害物の一部が2つ以上のパーツで構成されており、これらが同一垂直面上で積み上げられている場合は、最上部が落下した時にのみ減点となる。
2. 一回の飛越で通過しなければならない幅障害が、同一垂直面上に位置しない複数のパーツで構築されている場合は、落下したパーツの個数や位置に関わりなく最上段にある1個か複数個のパーツが落下した場合にのみ一過失として減点される。障害物の空間をうめる目的で使われる木や生垣は、減点の対象とならない。

第219条 不従順

1. 次に述べる行為は不従順とみなされ、減点となる（障害馬術規程第236条と第239条を参照）：
 - 1.1. 拒止
 - 1.2. 逃避
 - 1.3. 反抗
 - 1.4. コースのいかなる場所であれ、またいかなる理由があろうと、巻乗りと思われるもの、もしくは連続巻乗りを行った場合。コース上で要求されていない限り、直前に飛越した障害物の周囲を回るのも不従順である。
2. 上記の記載に関わらず、次に述べる行為は不従順とみなされない：
 - 2.1. 逃避や拒止の後に、（障害物が復旧されているか否かに関わらず）飛越態勢に入るために行う45秒以内の巻乗り。

第220条 経路からの逸脱

1. 選手が次のような走行を行った場合は経路からの逸脱とみなされる：
 - 1.1. 発表されたコース図通りの走行をしなかった場合。
 - 1.2. スタートラインやフィニッシュラインの標旗間を正方向から通過しなかった場合（障害馬術規程第241条3.6と第241条3.17を参照）。
 - 1.3. 回転義務地点を通らなかった場合（障害馬術規程第241条3.7を参照）。
 - 1.4. 一部の特別競技を除いて、指定された順序あるいは方向へ障害物を飛越しなかった場合（障害馬術規程第241条3.10と第241条3.11を参照）。
 - 1.5. コースの一部ではない障害物を飛越したり飛越しようとした場合、あるいは指定の障害物を飛越しなかった場合。コースに含まれない障害物は閉鎖されるべきであるが、仮にアリーナ関係者がこれを閉鎖していなかった場合でも、コースの一部でない障害物を飛越した選手は失権となる。
2. 経路からの逸脱を修正しない場合は、その人馬コンビネーションは失権となる（障害馬術規程第241条3.6、第241条3.7、第241条3.17を参照）。

第221条 拒止

1. 飛越しなければならない障害物の前で馬が止まった場合は、障害物が落下もしくは移動する、しないに関わらず拒止とみなされる。
2. 回転義務地点や障害物の手前で止まっても、後退したり障害物を倒したりせず、直ちにその場から障害物を飛越した場合は減点されない。
3. この停止が長引いて、馬が自発的にであろうとなかろうと一歩でも後退した場合は拒止とみなされる。
4. 馬が滑り込みながらも障害物を押し倒して通り過ぎた場合、ベル担当の審判員はこれが拒止か障害物の落下かを速やかに判断しなければならない。当該審判員が拒止と判断した場合は直ちにベルを鳴らし、選手は障害物が復旧された時に直ちに再試行できるよう準備しなければならない（障害馬術規程第232条と第233条を参照）。
- 4.1. 審判員が拒止とみなさなかった場合はベルを鳴らさず、選手は走行を継続しなければならない。選手は障害物の落下で減点される。
- 4.2. コンビネーション障害では、ベルが鳴った後にコンビネーションの別の障害物を飛越しても失権の対象とはならず、またその障害物を落下させたとしても減点されない。

第222条 逃避

1. 馬が選手のコントロールから逃れ、飛越しなければならない障害物や、通過しなければならない回転義務地点を避けた場合は逃避とみなされる。
2. 馬が2本の赤標旗、あるいは2本の白標旗の間を飛越した場合は、障害物を正しく飛越したとはみなされない。選手は逃避として減点され、再度、障害物を正しく飛越しなければならない。
3. 飛越しようとしている障害物、コンビネーションの一部、フィニッシュライン、もしくは回転義務地点の延長線上を馬体全体、あるいはその一部が通過した場合は逃避とみなされ、しかるべく減点される。

第223条 反抗

1. 馬が前進を拒んだり、何らかの理由で止まったり、1回もしくは数回にわたって多少なりとも半回転をしたり、もしくは理由を問わず後肢で立ち上がった後退した場合は反抗とみなされる。
2. 障害物が正しく復旧されていない場合や予期せぬ状況を競技場審判団へ知らせる場合を除き、いかなる時、あるいは理由であれ、選手が馬を止めた場合は反抗と

なる（障害馬術規程第233条3.2を参照）。障害馬術規程第240条3.3に記載された場合を除き、反抗は拒止として減点される。

第224条 落馬、および馬の転倒

1. 選手の意志の有無に関わらず、選手の身体が馬体から離れ、地面に接触するか、あるいは鞍上に戻るためには何らかの支えまたは外部からの援助が必要となった場合は、落馬とみなされる。

選手が落馬とならないよう何らかの形で体を支えたり、外部から援助を受けたことが明白でない場合は、選手に有利なように計らう。

2. 馬の肩と後躯がともに地面に着いている、あるいは肩と後躯がそれぞれ障害物と地面に着いた場合は、転倒とみなされる。

第225条 許可のない援助

1. スタートラインを正方向より通過してから最終障害を飛越してフィニッシュラインを通過するまでに、援助の依頼があったかどうかに関わらず、選手や馬を助ける目的で第三者による物理的な介入（注：走行中に競技場の内外から鞭などを渡すなどの行為）があった場合は、許可なき援助とみなされる。
2. 例外的に、競技場審判団は選手が徒歩でアリーナへ入場したり、人から援助を受けることを認め、許可なき援助とみなさない場合もある。
3. 走行中に馬上の選手に対して馬装や頭絡の調整を支援したり、もしくは鞭を手渡す行為は当該選手の失権となる。走行中に馬上の選手に保護帽と／あるいは眼鏡を手渡すことは許可なき援助とはみなされない（障害馬術規程第241条3.20を参照）。

第5章 タイムと速度

第226条 走行タイム

1. 走行タイムとは選手がコースを完走し終わるまでの時間と、タイム修正（障害馬術規程第232条を参照）がある場合はこれを加算した時間であり、1/100秒まで記録する。
2. 騎乗している選手がスタートの合図後にスタートラインを正方向から通過した時点、あるいは45秒のカウントダウンが終了した時点のいずれか早い方をもって走行開始とし、計時を開始する。障害馬術規程第203条1.2を参照のこと。走行タイムは、騎乗している選手が最終障害を飛越後にフィニッシュラインを正方向から通過する時点までとする。

3. 選手にはっきり見えるディスプレイで、45秒のカウントダウンを表示しなければならない。

第227条 規定タイム

1. 各競技における走行の規定タイムは、障害馬術規程第234条と付則1に定めるコース全長と速度に対応して決定される。

第228条 制限タイム

1. 規定タイムが設定されているすべての競技において、制限タイムはその規定タイムの2倍とする。

第229条 計 時

1. 競技会で行われるどの競技でも、計時は同じシステムを使うか、あるいは同一タイプの計時器を使用しなければならない。状況により FEI 障害馬術部門ディレクターが例外を認めた場合を除き、オリンピック大会、地域大会、FEI 選手権大会、FEI ワールドカップ™ ファイナル、CSIO、CSI では、FEI 承認計時器の使用が義務づけられている。タイムキーパーは馬番号と走行に要した時間を電子計時システムを使用して記録しなければならない。タイムは1/100秒まで記録しなければならない。
2. 電子計時システムが故障した時に備えて、2個のデジタル・ストップウォッチを用意し、またもう1つを不従順でベルが鳴らされてから走行再開までの時間や中断、連続している2個の障害間の所要時間、反抗の制限タイムを計測するために用いる。審判長あるいは競技場審判団メンバー1名は、デジタル・ストップウォッチを持たなければならない。
3. ストップウォッチを使用して時間を計測する競技では、時間の記録を1/100秒まで行う。タイムキーパーが2名配置されている場合は1人の測定時間のみを公式計時とみなし、2人目の測定時間はバックアップとして用いる。
4. 電子計時器が故障した場合、これにより影響を受けた選手のタイムは、ストップウォッチで1/100秒まで測定する。(詳細に関しては FEI ウェブサイトにて計時システムの認証規定を参照のこと。)
5. 選手の走行タイムの確定にビデオ記録は使用しない。
6. 選手のスタートラインと／あるいはフィニッシュライン通過が競技場審判団席からはっきり判断できない場合は、スタートラインとフィニッシュラインに各々役員を1名配置するなど、1～2名の役員をおいて選手の通過を旗で合図させなけ

ればならない。選手が走行を完了するのに要した時間は競技場審判団席にて記録する。

第230条 計時の中断

1. 計時が中断されている間、選手はベルが鳴って走行の再開が許可されるまで自由にアリーナ内を移動することができる。

時計が止められた地点に選手が戻った時点で、時計が再スタートされる。例外として、不従順による障害物の落下や移動の場合は障害馬術規程第232条が適用される。

2. 計時の開始と停止の責務は、唯一、ベルを担当する審判員が負う。使用される計時器は、この操作に必要な条件を満たすものでなければならない。タイムキーパーはこの性能に責任を負う必要はない。
3. 電子計時システムは、選手の走行タイムを記録するばかりでなく、タイム修正があればこれも含めなければならない。

第231条 計時中断中の不従順

1. 走行タイムの計測中断は、障害馬術規程第232条と第233条の条項に従うこととする。経路からの逸脱、逃避、あるいは拒止の場合は計時を止めない。
2. 計時中断中の不従順は減点されない。ただし、障害物の落下を伴う拒止の後に2回目の拒止があった場合を除く。
3. 失権に関する条項は計時中断中も有効である。

第232条 タイム修正

1. 不従順の結果、選手が水濺障害や自然障害の限界を示す標旗、あるいは障害物を移動させたり落下させた場合、もしくは標旗の落下によって障害物の性質が変わってしまった場合はベルが鳴らされ、障害物が再構築されるまで計時が止められる。障害物が再構築された段階で、コースの準備ができ、選手が走行を継続できる旨を知らせるベルが鳴らされる。選手は拒止に対して減点され、走行終了に要した時間に6秒のタイム修正が加算される。拒止があった障害地点で、馬が地面を離れた瞬間に時計が再スタートとなる。落下を伴う不従順がコンビネーションの2つ目以降の障害物で発生した場合には、当該コンビネーションの最初の障害物の踏切で馬が地面を離れた時に時計が再スタートとなる。

第233条 走行中の停止

1. 何らかの理由や予期せぬ事態により選手が走行を継続できない場合は、ベルを鳴らして選手の走行を止めるべきである。選手が停止しようとしていることが明らかになった段階で直ちに計時を止める。コースの準備ができた段階でベルを鳴らし、選手が走行を停止した地点に戻った時に計時を再開する。減点はなく、当該選手の走行時間に6秒の加算もない。
2. 選手がベルを鳴らされても走行を停止しない場合は本人の責任にて競技を継続することとなり、計時を止めない。競技場審判団は、その選手が指示を無視して走行を停止しなかったことで失権とするか、状況によって走行の続行を許可するかを決定しなければならない。選手が失権にならず、走行の続行を認められた場合は、停止前の成績とその後の成績とがカウントされる。
3. 飛越する障害物が正しく構築されていない旨を競技場審判団に伝えるために、選手が自ら走行を停止した場合や、予期せぬ事態により選手が不可抗力で、通常の状況下では走行を継続できなくなった場合などは、直ちに計時を停止しなければならない。
- 3.1. もしその障害物の寸法が正しく、また正確に復旧されており、あるいは予期せぬ事態との申し立てを競技場審判団が認めなかった場合、当該選手は走行中の停止で減点され（障害馬術規程第223条1を参照）、走行タイムに6秒が加算される。
- 3.2. もし障害物や障害物の一部が再構築を要する状態であったり、予期せぬ事態が競技場審判団により認められた場合、選手は減点されない。中断した時間は差し引かれ、選手が走行を中断した地点に戻るまで計時は止められる。このような場合に選手の対応が遅れた場合、この遅れは斟酌され、同選手の記録タイムから妥当と思われる秒数が差し引かれる。

第234条 速度

1. 国際競技における速度は次の通り：
 - 1.1. 最低速度350m /分、最高速度400m /分
屋内アリーナでは速度を325m /分まで落としてもよい。
 - 1.2. ピュイッサンス競技／パワーアンドスキル競技：最低速度なし
 - 1.3. グランプリ競技：
屋外では最低速度375m /分、最高速度400m /分
屋内では350m /分
 - 1.4. ネーションズカップ：
5* と4* の屋外ネーションズカップ競技では400m /分
3* の屋外ネーションズカップ競技では375m /分
2* と1* のネーションズカップ競技、およびすべての屋内ネーションズカップ競技で350m /分

第6章 減点基準

第235条 過失

1. スタートラインとフィニッシュラインの間で発生した過失を対象とする。
例外：最終障害の落下は、選手がアリーナから退場する時点、もしくは次の選手に走行開始を合図するベルが鳴るまでのいずれか早い時点までに、その最上段部分がこれを支えるものから片端あるいは両端とも落下した場合に、過失とみなされる。過失の定義は、障害馬術規程第217条と第218条に従う。
2. 走行が中断されている間の不従順については減点されない（障害馬術規程第231条3を参照）。
3. スタートの合図が出てから選手が正方向にてスタートラインを通過するまでに発生した不従順や落馬などは、減点対象とならない。

第236条 基準A

1. 過失は本章に示した基準に従って減点、あるいは失権として科される。

過失	減点
(i) 1回目の不従順	減点4
(ii) 飛越中の障害物の落下	減点4
(iii) 水濠障害で馬の四肢あるいはそれ以上の肢が着水、または着地側で水濠の限界を示す着地板に肢もしくは蹄鉄の跡が残った場合	減点4
(iv) すべての競技において1回目の馬の転倒、選手の落馬、あるいは人馬転倒	失権
(v) 2回目の不従順、あるいは障害馬術規程第241条に定める他の違反行為	失権
(vi) 制限タイムの超過	失権
(vii) 第1ラウンドと第2ラウンド、タイムレースでないジャンプオフでの規定タイム超過	4秒ごとに減点1
(viii) タイムレースのジャンプオフにおける規定タイム超過	1秒ごとに、あるいは端数につき減点1

2. 不従順の減点は、同一障害だけではなく全走行を通して累積される。

第237条 基準Aでのスコア

1. 障害減点とタイム減点を加算したものが、選手の走行スコアとなる。第1位と／あるいはその他の順位で同点がでた場合は、当該競技について定められた条件に従い、走行タイムが順位決定に勘案される場合がある。

第238条 基準Aに基づく採点方法

1. タイムレースとしない競技

- 1.1. 同減点の選手は同順位となる。実施要項に定める条件により、第1位で同減点の場合はタイムレースでないジャンプオフを1回もしくは2回実施することができる。
- 1.2. これはタイムレースとせず、規定タイムを設けた競技ではあるが、第1位で同減点となった場合はタイムレースのジャンプオフを1回行う。他の選手については、最初の走行における減点によって順位を決定する。
- 1.3. これはタイムレースとせず、規定タイムを設けた競技ではあるが、第1位で同減点となった場合はタイムレースではない1回目のジャンプオフを行う。それでも第1位で同減点がでた場合は、タイムレースで2回目のジャンプオフを行う。他の選手については1回目のジャンプオフでの減点と、必要であれば最初の走行での減点で順位を決定する。

2. タイムレース競技

- 2.1. どの順位についても同減点の選手がでた場合は、走行に要したタイムに従って順位を決定する。第1位で減点とタイムが同じ場合は、短縮コースでジャンプオフを1回行うことができ、実施要項の条項に則って障害物の高さと／あるいは幅を増すことができる。
- 2.2. これはタイムレース競技であるが、第1位で同減点となった場合はタイムレースのジャンプオフを1回行う。他の選手については最初の走行での減点とタイムで順位を決定する。マイナー競技（一般規程を参照）では、実施要項にその旨を記載すれば基準Cに従ってジャンプオフを行うことができる。
- 2.3. 第238条2.2と同じく、これはタイムレース競技であるが、タイムレースで最初のジャンプオフを行っても、なお第1位で同減点の選手がでた場合は、

タイムレースで2回目のジャンプオフを行う。他の選手については最初のジャンプオフでの減点とタイム、そして必要であれば最初の走行での減点とタイムで順位を決定する。

3. タイムレースで順位が決定されるすべての競技において、第1位で減点とタイムが同じ場合は、実施要項の条項に則って障害物の高さと／あるいは幅を増した短縮コースでジャンプオフを1回行うことができる。実施要項にジャンプオフに関する条項を定めていない場合は、ジャンプオフなしの競技と考える（障害馬術規程第245条6を参照）。
5. 障害馬術規程第238条1.1あるいは第238条2.1に則って実施される競技では、いかなる場合もジャンプオフは2回までとする。

第239条 基準C

1. 基準Cでの過失は秒数に換算されて走行に要した時間に加算されるか、あるいは失権として科される。
2. 基準Cにおける減点

過失	減点
飛越時の障害物の落下、馬の四肢あるいはそれ以上の肢が水濠障害で着水、もしくは着地側で水濠の限界を示す着地板を踏んだ場合	4秒（二段階走行競技、ノックアウト競技、基準Cで行われるジャンプオフでは3秒） FEI 障害馬術部門ディレクターにより、屋内競技では落下に2秒加算とする例外を認める場合がある。
(i) 1回目の不従順	なし
(ii) 落下と／あるいは障害物の移動を伴う1回目の不従順	6秒のタイム修正
(iii) 2回目の不従順、もしくは障害馬術規程第241条に定める他の違反	失権
(iv) すべての競技において最初の馬の転倒、落馬、あるいは人馬転倒	失権

3. 基準Cでは規定タイムはない。以下の制限タイムを適用できる：

- (i) 3分：コース全長が600m 以上の場合、あるいは
- (ii) 2分：コース全長が600m 未満の場合

制限タイムの超過……………失権

4. 基準 C に基づくスコア

走行に要した時間（タイム修正がある場合はこの秒数を含める）に、障害物の落下1個につき4秒（ジャンプオフ、あるいは二段階走行競技の二段階目については3秒）を加算し、選手の走行スコアを秒数で示す。

- 5. 基準 A あるいは基準 C のスピード競技で馴致を行いたいと希望する選手は、当該競技の開始前に組織委員会へ連絡しなければならない。馴致走行を希望する者は当該競技の最初に出場する。上記に従わない選手は競技場審判団により失権とされる場合がある（障害馬術規程第241条4.4を参照）。
- 6. 第1位で同点の場合は、競技会実施要項にジャンプオフに関する特定条項がない限り、等しく第1位となる。

第7章 罰金、イエロー警告カード、失権、失格

第240条 罰金とイエロー警告カード

（以前の第242条が第240条に移動し、以前の第240条「失権」は第241条へ移動）

- 1. 審判長、上訴委員長、チーフスチュワードは一般規程第169条7に則り、イエロー警告カードを出す権限を有する。

以下の場合、妥当とみなされれば審判長と上訴委員長が、一般規程に則って、罰金を科すことがある：

- 1.1. 失権後、速やかにアリーナを去らない選手
- 1.2. 走行終了後、速やかにアリーナを去らない選手
- 1.3. 失権または棄権した後に、アリーナから退場するまでに2回以上、単独障害の飛越を試みたり、誤った方向から飛越した選手
- 1.4. フィニッシュラインを通過した後に、1個あるいは複数の障害物を飛越して失権となった選手、または競技場審判団の許可なしにマスコミ向けに障害物を飛越した選手（障害馬術規程第202条6を参照）

- 1.5. 練習用馬場で組織委員会が準備したものと異なる障害物を使用した選手（障害馬術規程第242条2.6と第201条4を参照）
- 1.6. アリーナ内に設けられた練習用障害物を許可された回数以上に飛越したり、飛越しようとした選手（障害馬術規程第202条4、第242条2.3、第262条1.9を参照）
- 1.7. アリーナへの入場に際して、競技場審判団あるいは役員に敬礼を怠った選手（障害馬術規程第256条2.1を参照）
- 1.8. 個体識別番号を付けていない反則が度重なった場合（障害馬術規程第282条2を参照）
- 1.9. 広告規定（一般規程第135条も参照）に違反したり、障害馬術規程第256条1.7に記載の規則に従わない選手
- 1.10. 組織委員会の指示を軽視する選手
- 1.11. 変形させる目的で障害物に触れた選手
- 1.12. 役員の指示に従わなかったり、競技会役員やその他競技会関係者（他の選手、FEI職員あるいは代表者、ジャーナリスト、観客など）に対して不穏当な行動をとった選手
- 1.13. 警告を受けても違反を繰り返す選手
- 1.14. 服装や馬装に関する諸規則に違反する選手
2. 審判長あるいは上訴委員長により科された罰金は、すべて FEI から当該 NF 宛に請求書が送られ、FEI に支払われるものとする。

第241条 失 権

1. 規程もしくは競技条件に別段の記載がない限り、失権とは、議論となっている競技において選手及び当該馬にて競技を継続できないことを意味する。
2. 選手は棄権したり失権となった後に、単独障害を1個飛越する権利がある。ただし、その競技のコース中にある障害物とする。しかしながら、これは落馬による失権には適用しない。
3. 障害馬術競技において選手が失権となる事由を以下に示す。競技場審判団は以下の場合に失権を適用しなければならない：
 - 3.1. 競技場審判団が許可した練習用障害物の場合を除き、走行を開始する前にアリーナ内の障害物を飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第202条3を参照）
 - 3.2. スタートの合図が出される前に走行を開始し、コース上の第1障害を飛越した場合（障害馬術規程第202条5と第203条1.2を参照）

- 3.3. 走行タイムの計測が始まってから45秒以内に第1障害を飛越しなかった場合。ただし、不可抗力による場合を除く（障害馬術規程第203条1.2を参照）。
- 3.4. 走行中に馬が継続して45秒間反抗した場合（障害馬術規程第223条2を参照）
- 3.5. 次の障害物を45秒以内に飛越しなかった場合、もしくは最終障害を飛越してフィニッシュラインを通過するまでの所要時間が45秒を超えた場合
- 3.6. スタートラインで標旗間を正しい方向から通過せずに、第1障害を飛越した場合（障害馬術規程第220条1.2を参照）
- 3.7. 回転義務地点を通過しなかった場合、あるいはコース図上に継続したラインで示された経路をとらなかった場合
- 3.8. 走行中にコースの一部ではない障害物を飛越しようとしたり、あるいは飛越した場合（障害馬術規程第220条1.5を参照）
- 3.9. コース上の障害物を抜かした場合（障害馬術規程第220条1.5を参照）、あるいは逃避や拒止の後にその障害物を再飛越しなかった場合
- 3.10. 順序を間違えて障害物を飛越した場合（障害馬術規程第220条1.4を参照）
- 3.11. 誤った方向から障害物を飛越した場合（障害馬術規程第220条1.4を参照）
- 3.12. 制限タイムを超過した場合（障害馬術規程第236条と第239条を参照）
- 3.13. 拒止の後に、落下した障害物が復旧されるのを待たずに飛越したり、飛越しようとした場合
- 3.14. 走行中断の後、ベルが鳴るのを待たずに障害物を飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第203条3を参照）
- 3.15. コンビネーション障害の閉鎖部分である場合を除き（障害馬術規程第214条を参照）、拒止または逃避の後にコンビネーションのすべての障害物を再飛越しなかった場合（障害馬術規程第212条3を参照）
- 3.16. コンビネーションの各障害物を別々にかつ連続して飛越しなかった場合（障害馬術規程第212条2を参照）
- 3.17. （一部の特別競技を除き）最終障害を飛越した後にフィニッシュラインの標旗間を騎乗で正方向から通過せず、アリーナを出た場合（障害馬術規程第226条2を参照）
- 3.18. スタート前も含め、競技場審判団の許可なく選手と／あるいは馬がアリーナを出た場合
- 3.19. スタート前も含め、放馬した馬が走行を終了する前にアリーナから出た場合
- 3.20. 走行中に保護帽と／あるいは眼鏡以外の物を騎乗したまま受け取った場合

- 3.21. 長さ75cm を超える鞭、あるいは末端に重りの付いている鞭を競技会場もしくはその近辺で使用した場合。鞭の代替品も使用禁止。（この条項に関する例外は、障害馬術規程第257条2.2を参照）
- 3.22. 選手もしくは馬に競技を終了できないような事故が起こった場合（障害馬術規程第258条を参照）
- 3.23. 閉鎖コンビネーション障害を正しい方向から出なかったり、閉鎖コンビネーション障害を移動させた場合
- 3.24. 走行中の2回目の不従順（障害馬術規程第236条と第239条を参照）
- 3.25. 走行中の選手の落馬あるいは馬の転倒（障害馬術規程第224条、第236条、第239条を参照）
- 3.26. 何らかの理由により選手あるいは馬が競技続行に不適格であると競技場審判団が判断した場合
- 3.27. 走行終了後にアリーナ内にある障害物を飛越したり、あるいは飛越しようとした場合（プレス向けに障害物を1個飛越する許可については、障害馬術規程第202条6を参照）
4. 次の場合に失格となるかは競技場審判団の判断に任される：
 - 4.1. 選手の名前と／あるいは出場番号が呼ばれてもアリーナへ入場しなかった場合
 - 4.2. 騎乗してアリーナに入場、あるいはアリーナから退場しなかった場合
 - 4.3. 上記3.20の場合を除き、許可されない物理的援助を受けた場合
 - 4.4. 事前に組織委員会に通知することなく、基準 A あるいは基準 C 採用のスピード競技で馬を馴致させた場合
 - 4.5. 走行中にベルが鳴っても停止しなかった場合（障害馬術規程第203条2と第233条2）

第242条 失格

1. 失格とは選手、その騎乗馬（1頭、もしくは複数頭）、あるいは人馬共に当該競技またはその競技会全般において出場資格を失うことを意味する。失格は時間を遡って効力を有することができる。
2. 次の場合に競技場審判団は失格を科すことができる：
 - 2.1. 競技開始後に選手が徒歩でアリーナへ入場した場合
 - 2.2. 競技場審判団の許可なく、アリーナ内で練習したり障害物を飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第202条2、第202条5、第202条6を参照）
 - 2.3. アリーナ内の練習用障害物を許可された回数以上に飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第202条4、第240条1.6、第262条1.9を参照）
 - 2.4. アリーナ内にある障害物や、次の競技に使用される障害物を飛越したり、飛越しようとした場合（障害馬術規程第202条5を参照）

- 2.5. 競技場審判団の許可を得なかったり、正当な理由なしにジャンプオフを前にして競技を棄権した場合
- 2.6. 競技会開催中に、組織委員会が用意したものとは異なる障害物を使って練習を行った場合（障害馬術規程第240条1.5と第201条4を参照）
- 2.7. 練習用馬場に設置された障害物を誤った方向から飛越した場合、あるいはアリーナ内に練習用障害物が設置されているときにこれを誤った方向から飛越した場合（障害馬術規程第201条4と第202条4を参照）
- 2.8. 獣医規程の付則 XI（知覚過敏処置に関する標準検査方法）にて対象となっている事例を含め、競技場審判団メンバー、上訴委員会メンバー、もしくはスチュワードから報告のあった馬への虐待行為と／あるいは残虐な扱いすべて
3. 失格措置が必須である場合
- 3.1. 脇腹や口、鼻からの出血、あるいは拍車や鞭の過剰使用を示唆する兆候が馬体のいずれかの部位で認められる馬（明らかに馬が舌や唇を噛んだためと思われる口の出血などマイナーな事例では、口をすすがせたり血を拭き取る行為を役員が認め、当該選手の競技継続を認可する場合がある。口でこれ以上の出血が確認された場合は失格となる。）
- 3.2. 競技会場のいかなる場所においても、許可されていない障害物を飛越したり、あるいは競技会期間中にどのような目的であれ、馬と共に競技会場を出ることは許可されない。このような行為は失格となる。

第243条 馬に対する虐待行為（一般規程第142条も参照）

1. 様々なやり方の肢たたきを含め、いかなる形態においても馬に対する残忍行為、非人道的行為、虐待行為をとることは厳しく禁止される（障害馬術規程第242条2.8を参照）。

競技場審判団の見解により馬への虐待行為であるとみなされた行為、あるいは一連の行為に対して、一般規程に則って次の科罰のいずれか、あるいは複数の科罰が科される：

- (i) イエロー警告カード（一般規程第142条を参照）
- (ii) 罰金
- (iii) 失権
- (iv) 失格

2. 次の行為は馬に対する虐待行為とみなされる：

- 2.1. 馬の肢たたき

「肢たたき」という用語は、競技において馬がより高く、かつ注意深く障害物を飛越するように導くある種の人為的技巧と解釈される。肢たたきとなり得る例をすべてここに挙げることは無理であるが、概して言えば、選手と／あるいは騎乗していない助手（この場合も選手の責任）が手に持った物で馬の肢をたたくこと（何であれ、誰がやろうとも）、または意図的に馬がぶつかるとような物を設けること、例えば必要以上に障害物を高くしたり／あるいは幅を広くすること、不適正なグラウンド・ラインを置くこと、速歩通過用横木やコンビネーション障害の間隔を狂わせたり、馬を障害物前で急に止めたり追うこと、あるいは馬が肢をぶつけなければ飛べないような向け方をするなどと言う。

競技場審判団の管轄する期間中に、肢たたきやその他いかなる形態であっても虐待的調教が行われた場合、当該選手と馬は少なくとも24時間、すべての競技から失格となる。更に競技場審判団は、状況に鑑みて妥当と思われる場合には、当該選手と／あるいは馬を競技会全般から失格とするなどの措置をとることできる。

2.2. 鞭の過剰使用

- 鞭は騎乗者の感情のはけ口として使用してはならない。そのような使い方は常に過剰使用となる。
- 失権した後に鞭を使用してはならない。
- 鞭を逆さに使ってはいけぬ（例えば右手で鞭を持って左脇腹を打つような行為）。馬の頭部を鞭で打つ行為は、常に鞭の過剰使用とみなす。
- 4回以上続けて馬を打ってはいけぬ。馬の皮膚が破れた場合には、常に鞭の過剰使用とみなされる。

鞭を誤用したり過度に使用したと確認された選手は失格となり、競技場審判団の判断により罰金が科されることもある。

2.3. 他の形態での虐待行為

他のいかなる形態での虐待行為（例えば肢の知覚過敏処置や知覚鈍麻処置、禁止されている調教方法の採用、拍車の過剰使用、また獣医規程や他の FEI 諸規程に明記されている他の事例など）も禁止され、本規程に基づいて的確に罰せられなければならない。

第244条 ブーツとバンテージ規制

1. スチュワード業務 - ブーツおよびバンテージ規制（障害馬術規程第257条2.3と獣医規程の付則Xも参照のこと）

グランプリ競技、ネーションズカップ競技、および各競技会で最高賞金額が設定されている競技では、全頭についてブーツとバンテージの検査を行わなければならない。他の競技でもブーツとバンテージの検査を行うことが推奨される。

ブーツとバンテージ規制の手順については、獣医規程と障害馬術スチュワード・マニュアルを参照のこと。

第8章 ジャンプオフ

第245条 ジャンプオフ—概略

1. 同一競技において1回またはそれ以上の走行を経て、第1位同点となった選手のみがジャンプオフに出場できる。選手は、該当競技に使用した同一馬でジャンプオフに出場しなければならない。
2. 原則として、ジャンプオフは本競技で使われたルールと基準、およびその種の競技で適用されるジャンプオフ規程に則って行わなければならない。しかし、基準A採用のマイナー競技のジャンプオフについては、その旨が実施要項に記載してあれば基準Cで審査を行うこともできる。いかなる場合も、ジャンプオフは本競技の走行が終了した後、直ちに行わなければならない。
3. 実施要項に明記してある場合、組織委員会は、走行を減点なしで完走した選手はその走行後直ちにジャンプオフへ進むよう定めることができる。この場合は、ジャンプオフ・コース走行開始の合図として、ベルをもう一度鳴らさなければならないが、これに際しては障害馬術規程第203条1.2の45秒ルールを適用する。ジャンプオフへ出場資格を得た選手は、本走行を終了してからジャンプオフの前にアリーナから退出することはできない。この種のジャンプオフは、障害馬術規程第238条1.2あるいは第238条2.2に従い、基準Aで行われる競技でのみ認められ、グランプリ競技や最高賞金額が設けられている競技では許可されない。本走行で減点なしで完走した選手がいない場合は、適宜、第238条2.1あるいは第238条2.2に従って順位を確定する。
4. 障害馬術規程に別段の定めがない限り（パワーアンドスキル競技参照）、いかなる競技も3回以上のジャンプオフを行ってはならない。
5. 実施要項または障害馬術規程で特に決められている場合を除き、ジャンプオフのスターティングオーダーは、1回目の走行のスターティングオーダーと同じでなければならない。

ジャンプオフのある1回走行競技の本ラウンド・スタート前に落鉄した馬については、これより後のスターティングオーダーが与えられる。ジャンプオフでスタート前に落鉄した場合は、3頭分後ろのスターティングオーダーが与えられる。蹄鉄の装着がこの時までには終了していない場合は、競技場審判団の判断で、スターティングオーダーをさらに繰り下げるか失権とするか決定される。

6. 第1位で同点となった場合は、実施要項の条項に則ってジャンプオフを1回行うことができる。実施要項にジャンプオフの条項がない場合は、ジャンプオフを行わない競技と考える。

第246条 ジャンプオフでの障害物

1. ジャンプオフでの障害物は、障害馬術規程第208条4に定める限度内で、高さと／あるいは幅（部分的もしくは全体的に）を変更できる。しかしながら、ジャンプオフ用障害の寸法を増すことができるのは、複数の選手が飛越減点なしで本走行を終え、同点で第1位となっている場合のみとする。
2. 本競技でコンビネーション障害が使われている場合は、ジャンプオフにもコンビネーション障害を最低1個は含めなければならない。
3. ジャンプオフに使われる障害物の数は6個（コンビネーション障害は1つと数える）まで減らすことができる。
4. ジャンプオフでは障害物の形、タイプ、色を変えてはならないが、コンビネーション障害の一部を取り除いても構わない。コンビネーション障害がトリプル、あるいは4個の障害物で構成されている場合は、中央の障害物だけを除くことはできない。
5. ジャンプオフ用障害物の飛越順序は、本走行のコースから変更してもよい。
6. ジャンプオフにおいては、コンビネーションの障害間距離を変更してはならない。
7. ジャンプオフ用コースには、最大2個まで単独障害を追加することができる。この追加障害物については2個とも、コース下見に際してコースに設置されていなければならない。これらの障害物は幅障害2個、垂直障害2個、あるいは幅障害1個と垂直障害1個のコンビネーションの何れでもよい。垂直障害はどちらの方向に飛越してもよいのか、あるいは一方向のみなのかをコース図と障害物自体にも明示しなければならない。本走行のコースに含まれていた障害物をジャンプオフにて逆方向から飛越する場合、この障害物は追加が認められる2個の障害物の一つとみなされる。

第247条 ジャンプオフでの失権あるいは出場辞退

1. ジャンプオフで失権となった選手は、ジャンプオフを完走した選手の次に順位付けられる。
2. 競技場審判団の許可を得てジャンプオフへの出場を辞退した選手は、いかなる場合もジャンプオフで失権した選手、あるいは正当な理由でコース走行中に棄権した選手の次に順位付けられる。正当な理由なしにコース走行中に棄権した選手や、意図的に失権となるような行動をとった選手については、このジャンプオフへの出場を辞退した選手と同順位とする。
3. 順位決定のジャンプオフ前に、2名またはそれ以上の選手がジャンプオフ出場を辞退した場合、競技場審判団はこの申請を受け入れるか退けるべきかを決定する。競技場審判団がこの出場辞退を認める場合は、組織委員会がくじ引きでトロフィーの授与先を決め、賞金は合計して選手間で等分する。競技場審判団から

競技続行の指示があったにもかかわらず選手らが従わなかった場合は、トロフィーの授与はなく、当該選手らは賞金のみを受け取り、順位はジャンプオフを行ったものとして、その最下位となる。

第9章 順位

第248条 個人順位と表彰

1. 個人選手の順位は、競技で採用されている基準とプログラムに記載されている条件、あるいはコース図に示された変更事項に従って決定される。
2. 入賞する可能性がない選手については、競技場審判団の判断で、その走行中のどの時点でも走行中止を命じられることがある。
3. 競技の第1ラウンドを完走できない選手は、一部の特別競技を除き、受賞する権利はない。
4. 予選競技で入賞した選手は、予選で出場資格を得た決勝競技への出場を辞退した場合でも、予選競技での受賞を維持できる。
5. 入賞した選手は、その入賞馬とともに表彰式に参加しなければならない。しかし安全上の理由から、競技場審判団が例外を設けることもある。入賞した選手が正当な理由なしに表彰式へ出席しなかった場合は、競技場審判団の判断により、組織委員会からの賞の授与保留が認められることがある。従って、組織委員会は実施要項とプログラムに表彰式への出席を求める入賞者数を公表しなければならない。実施要項あるいはプログラムに出席すべき人数が記載されていない場合は、入賞したすべての人馬が表彰式に出席しなければならない。
6. 競技スポンサーから提供された馬着を除き、表彰式で馬着を使用することは認められない。しかし特別な状況下では、競技場審判団がこの規則を緩和できる。

第10章 選手と馬

第249条 CSIO への招待

1. NF への公式招待状は、チーム監督1名とチーム獣医師1名、選手4名～6名、馬8頭～15頭、各選手に1名のグルームで構成する公式チームに対して送られる。

組織委員会が選手4名と馬8頭で構成するチームを招待する場合は、招待する外国人選手総数が前年度の招待者数を下回ってはならない。

CSIO 競技会と称するには、公式チームとして3チーム以上（開催 NF チームを含む）の参加がなければならない。

CSIO へのチームエントリーが5NF に満たない場合は、（主催 NF チームを含め）1NF につき2チームまで招待できる。競技会の開始前、遅くともテクニカル・ミーティングにて、2チームを参加申込した NF はどちらのチームで FEI ネーションズカップ™ ポイントを取得するか決定しなければならない。

2. ヨーロッパにおける CSIO 競技会

（主催 NF チームを含み）10チーム以上が招待される場合、組織委員会は障害馬術規程第249条5に則って個人選手を外国から招待することができる。

（主催 NF チームを含み）8チームもしくは9チームが招待される場合は、3名までの個人選手を外国から招待することができる。

（主催 NF チームを含み）7チーム以下の招待の場合は、外国から個人選手を招待することはできない。

3. 北米における CSIO 競技会

（主催 NF チームを含み）5チーム以上が招待される場合は、障害馬術規程第249条5に則って個人選手を外国から招待することができる。

（主催 NF チームを含み）4チームが招待される場合は、外国から2名までの個人選手を招待することができる。

（主催 NF チームを含み）3チーム以下の招待の場合は、外国から個人選手を招待することはできない。

4. 各組織委員会は招待した NF 名称と、招待された NF が何らかの理由で参加できなかった場合のリザーブとして少なくとも3NF の名称を、実施要項ドラフトの添付書類に記載しなければならない。参加できない旨の連絡が入った場合、組織委員会は直ちにリザーブ・リストに掲載されている1NF へ連絡しなければならない。組織委員会は招待した NF が辞退する場合を考慮し、二重のノミネートエントリー締切日を設けるよう推奨する。FEI ネーションズカップ™ シリーズの一環である競技会の組織委員会は、このシリーズに限定した規定に従い、チームを招聘しなければならない。

5. チームに属する選手に加えて、あるいは完全なチームを派遣できない NF から1～2名の個人選手が、公式チームと同条件で招待される場合がある。CSIO 競技会では個人選手に対する個別招待は認められない。

6. CSIO に主催 NF から出場できる個人選手数は、次の表に従って決定される。

（障害馬術規程第249条2、第249条3、第249条5、第249条6、第249条7、第249条8）（以前の付則2から移動）

外国人選手数 (チーム+個人)	ナショナルチームに加えて 出場できる主催 NF からの 個人選手数上限	公式チームの選手数上限
20名まで	30名	6名
21～30名	24名	6名
31名以上	18名	6名

7. 5* / 4* ネーションズカップを行う CSIO 競技会では、7チーム以上を外国から招待しなければならない。極めて例外的に、また FEI 事務総長から明確な許可がある場合に限り、外国からの招待チーム数を7チーム未満とすることができる。
8. FEI はワイルドカードとして、組織委員会が招待する外国チームのうち1チームを指名する権限がある。

第 2 5 0 条 CSI への招待

1. CSI に関しては、NF の合意を得て、組織委員会が招待する個人選手数と馬の頭数を実施要項と招待状に記載しなければならない。

第 2 5 1 条 参加申込（一般規程第116条も参照）

1. FEI ワールドチャレンジ競技を除き、いかなる選手および馬も、国際競技会への参加許可を得るには FEI および自国 NF への登録が必要であり、また必要に応じて開催 NF (CSI1* と CSI2* 競技会) への登録も必要である（一般規程第113条も参照）。
2. 競技会に参加申込できる馬の頭数は、実施要項と障害馬術規程に従わなければならない。
3. 国際競技会に招待あるいは指名された選手の参加申込は、いずれも各々が所属する NF を通してのみ行うことができる。選手が参加申込を行う競技会に出場できる年齢に達していることを確認するのは、その選手が所属する NF の責務である。実施要項の記載事項および障害馬術規程に従って所属 NF が選考した外国人選手については、組織委員会は全員を受け入れなければならない。組織委員会は、NF からの参加申込以外のいかなる参加申込も受け付けてはならない。
4. 各 NF は、出場資格を得た馬を選考して参加申込を行う責任がある。これには参加申込を行う競技会への出場能力と参加適性とその馬にあるかという点も含まれる。当該馬が参加申込を行う競技会に出場できる年齢に達していることを確認するのは、その所属 NF の責任である。
5. 参加申込を行えるチーム数と個人選手数は、障害馬術規程に定める。

6. 各 NF は、障害馬術委員会が策定して理事会が承認し、また必要に応じて国際オリンピック委員会（IOC）が承認した条件のもとで出場資格を得た選手のみ、世界選手権大会とオリンピック大会へ参加申込できる。
7. 公式チームとして認められる選手数／頭数を超えて NF が参加申込をした場合は、遅くとも1回目のホースインスペクション終了時点までに、公式チームとして選考する人馬をチーム監督が指定しなければならない。
8. 組織委員会はいかなる場合も、選手権大会に出場資格のある選手あるいはチームの参加申込数を制限してはならない。理事会が必要と判断した場合は、参加申込数を制限することができる。
9. 選手権大会と大会（オリンピック大会を含む）への参加申込は、一般規程第116条4.1と第116条4.2、障害馬術規程第251条9.3に定める3段階の手順を踏まなければならない。CSIO を含む他の競技会については、一般規程第116条4.2（ノミネートエントリー）は任意であるが、NF／組織委員会が実施要項の中で独自の締切り日を指定することがある。
- 9.1. 参加意思申込－一般規程第116条4.1を参照
- 9.2. ノミネートエントリー－一般規程第116条4.2を参照
- 9.3. デフィニットエントリー
これは実施要項に記載された期日までに組織委員会の元へ届かなければならない。この期日は当該競技会開始の4週間前より早くてはならず、また4日前を過ぎては認められない。これは競技会に派遣される選手と馬の最終選考である。デフィニットエントリーではノミネートエントリーリストに載せた選手数／頭数を超えて記載してはならず、ノミネートエントリーの選手名／馬名リストから選考しなければならない。組織委員会がデフィニットエントリーを受領した後の馬と／あるいは選手の交代は、組織委員会の明確な許可があった場合に限り行うことができる。組織委員会は実施要項に馬と選手の交代が認められる最終期日を明記しなければならない、この期日はホースインスペクションの日より後であってはならない。
10. 参加申込書には、一般規程第116条5に定める情報を含めなければならない。選手の誕生年も記入する必要がある。
11. 仮に NF がノミネートエントリーに記載した数以上の選手と／あるいは馬を派遣してきた場合には、例え障害馬術規程と実施要項でそのような参加を認めている場合であっても、組織委員会としては彼等に宿泊施設／厩舎を提供することも、競技会への参加を認める義務もない（一般規程第116条6）。
12. 競技会において選手は騎乗馬のいずれか、あるいは全頭について出場を辞退することはできるが、事前にこの競技会へ参加申込を行っていない馬を組織委員会と競技場審判団の許可なく追加することはできない（一般規程第116条7）。
13. NF は、チームのノミネートエントリーを行ったものの、そのチーム派遣が不可能となった場合は速やかに組織委員会へ通知しなければならない（一般規程第116条8）。
14. いずれの競技会においても、NF がデフィニットエントリーを行ったにもかかわらず妥当な理由もなく参加しなかったチーム、あるいは個人選手については、外国人審判員／技術代表が FEI 事務総長へ報告し、FEI 裁定機関の審議に委ねる。参加意思申込を行ったにもかかわらず、納得できる説明もなく選手を派遣してこなかった NF については、罰金が科されることがある。当該競技会に

参加できなかった理由として、同時期に行われていた他の競技会への出場は有効と認められない。しかしながら一般規程には反するものの、CSI にデフィニットエントリーをしていた選手が、同じ週末に開催される CSIO に派遣予定であった選手（正当な理由で出場不可となった場合）の交代要員として選考された場合は、この間際になっての指名を当初予定していた CSI へ参加できなかった正当な理由として勘案される。

15. NF は、同じ週末に競技を開催する2つ以上の組織委員会に、同一選手をデフィニットエントリーすることはできず、これに違反した場合、当該選手は参加する競技会から失格となる。ただし、一般規程には反することとなるが、関連する両組織委員会が同意した場合を除く（例外については障害馬術規程第251条14を参照）。同一週末に開催される2つ以上の競技会に参加申し込んだ選手の馬は、それぞれの競技会のホースインスペクションに臨場しなければならない（障害馬術規程第280条2.1.1も参照）。
16. デフィニットエントリーの期日以降の参加辞退あるいはノーショウは、その参加辞退やノーショウの結果として組織委員会が被った財務上の損失（厩舎費用やホテル代など）について、組織委員会への弁償が義務づけられる。
17. 異なる5つ以上の NF から16名以上の外国人選手を受け入れる国内障害馬術競技（CSN）は、自動的に CSI とみなされ、FEI 規程に基づく諸条件を満たす義務を負う。

第252条 スターティングオーダー

1. スターティングオーダーの抽選
 - 1.1. 選手権大会／CSIO - チームと個人選手
 - 1.1.1. 国籍に関係なく、チームに加えて参加申込を行った個人選手のスターティングオーダー決定の抽選を最初に行う。
 - 1.1.2. 2回目の抽選を行い、チームで参加申込しているNFのスターティングオーダーを決める。その後、各チーム監督はチーム内の選手のスターティングオーダーをNFのスターティングオーダーに応じて決定する。これらのチーム選手は、既に決まっている個人選手のスターティングオーダーの間に順番に組み込まれる。
 - 1.1.3. もし個人選手が一競技に2頭以上で出場する場合には、競技場審判団はできる限り、10名以上の間隔をあけてその選手のスターティングオーダーを設定するように調整する。
 - 1.1.4. スターティングオーダーの発表後にチーム監督が選手と馬を変更するような場合には、同一選手が2頭の馬を近い間隔で騎乗せざるをえない状況も生じ得る。この場合、監督は競技場審判団もしくは組織委員会に競技開始の遅くとも1時間前までに連絡しなければならない。競技場審判団は、該当選手についてのみスターティングオーダーを変更する場合がある。
2. CSIO と CSI では、選手のスターティングオーダーを決定する抽選を行わなければならない。この場合は、同一 NF の選手が2名続いて走行することのないよう、

選手の国籍を考慮する。1名またはそれ以上の選手が2頭乗りをする際に、2頭間のスターティングオーダーが近すぎる状況が発生した場合は、競技場審判団が独自の権限で、あるいは選手かチーム監督の要請に基づき、これらの選手に関する限り、そのスターティングオーダーを変更することができる。

3. スターティングオーダーを選手名や馬名のアルファベット順で抽選することはできない。
4. 団体競技に関しては、その都度、別の抽選を行わなければならない。
5. 個人競技におけるスターティングオーダーのローテーション
ローテーションは必須であるが、適用するローテーション・システムは組織委員会の判断に任される。プログラム中に記載された個人競技におけるスターティングオーダーをローテーション化するには、次に定める手順に従うことが推奨される。
 - 5.1. 選手が個人競技において2頭または3頭の馬に乗ることが許される競技会では、以下の手順を採用して、プログラムに記載されている個人競技のスターティングオーダーをローテーションさせることができる。
 - 5.1.1. 実施要項にて、その競技会を通して同一馬が1日に2回以上、個人競技に出場することを認めている場合は、頭数を個人競技数で割る。
 - 5.1.2. 実施要項にて、その競技会を通して同一馬が1日に1回だけ個人競技に出場できると定める場合は、頭数を個人競技が行われる日数で割る。
 - 5.2. 実施要項にて選手が各個人競技で1頭の馬にのみ騎乗できると定める競技会では、選手がくじを引いて、その順番に当該選手の馬に連続する番号がつけられる：
1番目の選手：1、2、3（この選手の馬番）
2番目の選手：4、5
ローテーションは上記の5.1.1および5.1.2と同様の手順であるが、この場合は選手数を個人競技数あるいは個人競技が行われる日数で割る（以前の付則6より移動）。
6. グランプリ競技でのスターティングオーダー
「グランプリ」の名称は国際障害馬術競技会において、CSIYやCSIJ、CSI3*などの各カテゴリーにつき一度しか使用できない。グランプリ競技のスターティングオーダーは、次の方法のいずれかにより決定しなければならない：
 - 6.1. スターティングオーダーを個別の抽選で決定する。
 - 6.2. 競技会で最優秀選手あるいは最優秀人馬コンビネーションの特別ランキングが設けられている場合は、グランプリ競技に至るまでのランキングのリバースオーダーをスターティングオーダーとすることができる。

- 6.3. 組織委員会は選手を3グループに分けることができる。その場合は、各グループ内でのスターティングオーダーを決定する抽選を行わなければならない。ロレックス・ランキングでトップの選手らは最終グループでの出場が認められる。
- 抽選の際には審判長の臨席が必要である。
- 抽選の方法は実施要項に記載しなければならない。

第253条 出場選手の申告

1. CSIO では、第1競技開催の前日に、チーム監督がチームメンバー（選手と馬）、および個人選手名とその騎乗馬名を書面に事務局へ申告しなければならない（障害馬術規程第249条を参照）。チーム出場者として申告された選手と／あるいは馬が事故や病気で出場できない場合、競技会の第1競技開始の1時間前までであれば、チーム監督が個人選手から（もし出場者がいる場合）代替の者を出すことができる。交代された選手またはチーム馬は個人競技に出場することはできない。すべての競技会において、チーム監督（CSIO）または個人選手（CSIO、CSI）は、組織委員会の定めた時刻に翌日の競技に出場する選手を組織委員会へ申告する。

第254条 馬の参加と頭数

（新規第254条1は全文が以前の第200条7より移動）

1. 馬の年齢
 - 1.1. オリンピック大会と世界選手権大会に参加申込を行う馬は、9歳以上でなければならない。大陸選手権大会、FEI ワールドカップ™ ファイナル、地域大会、地域選手権大会に参加申込を行う馬は、8歳以上でなければならない。例外として、ラテンアメリカ（中米と南米）で行われる地域大会と地域選手権大会では、これら地域大会と地域選手権大会での障害物の高さが1.40m 以内であることを条件として、7歳から馬の参加申込を行うことができる。CSIO3* ～5* 競技会、CSI3* ～5* 競技会、そして FEI ワールドカップ™ ファイナルを除くすべての FEI ワールドカップ™ 競技会に参加申込を行う馬は、7歳以上でなければならない。しかしながら、6歳から参加できるヤングホース対象の CSI をこれらの競技会で開催することはできる。CSIO1* と CSI1* /2* 競技会に参加申込を行う馬は、6歳以上でなければならない。FEI ネーションズカップ™ シリーズの一環ではない CSIO2* に参加申込を行う馬は、6歳以上でなければならない。FEI ネーションズカップ™ シリーズの一環である CSIO2* に参加申込を行う馬は、7歳以上でなければならない。
 - 1.2. 馬の年齢 – 北半球と南半球
 - 1.2.1. 国内競技会

北半球で競技に参加している南半球産の馬については、その公式誕生日は8月1日であるため、1歳若い馬を対象とする国内競技への参加を認めるべきである。南半球で競技に参加している北半球産の馬については、その公式誕生日は1月1日であるため、1歳上の馬を対象とする競技への参加を認めるべきである。

1.2.2. ヤングホース対象の国際競技（5歳 * /6歳/7歳/8歳）

*5歳馬対象の競技は、FEI が特別認可を出さない限り、ヤングホース対象の FEI 世界ブリーディング障害馬術選手権大会においてのみ開催できる。

北半球で国際ヤングホース競技に参加する南半球産の馬については、その公式誕生日は8月1日であるため、1歳若い馬を対象とするヤングホース競技への参加が認められる（例えば、南半球産の8歳馬は、北半球では7歳馬のカテゴリーに出場する）。南半球で国際ヤングホース競技に参加している北半球産の馬については、その公式誕生日は1月1日であるため、1歳上の馬を対象とするヤングホース競技への参加が認められる（例えば、北半球産の5歳馬は、南半球では6歳馬のカテゴリーに出場する）。

2. CSIO と CSI では、実施要項で各選手が騎乗を許される馬の頭数を特定しなければならないが、上限は3頭とする。CSI あるいは CSIO 競技会では、CSI あるいは CSIO に参加申請した選手に限定して参加できるヤングホース対象競技も行うことができる。このような競技では、選手は CSI あるいは CSIO で認められる3頭に加えて、2頭の馬を参加申込できる。これら追加馬の出場は、ヤングホース競技に限定される。同じ週末に異なるカテゴリーの CSI が複数行われる競技会では、各選手が騎乗を許される馬の頭数をカテゴリーごとに3頭までと限定しなければならない。これらの競技会において、別個にヤングホース対象の CSI (CSIYH) を開催できる。CSIYH へ参加申込する選手は、ヤングホース競技に特定して馬を3頭参加申込することが認められる。これは同一会場において数週間続けて週末に行われる CSI 競技会には適用しない。この種の競技会では、各 CSI の期間中に選手はカテゴリー（スモール/ミディアム/ビッグツアー）ごとに4頭までの馬で参加できる。CSIYH 競技会へ選手1名につき6頭までの馬を参加申込でき、そのうち3頭までを各 CSI の各年齢カテゴリーで競技に参加させることができる。実施要項で六段障害飛越競技と/あるいはビュイッサンス競技、種牡馬を対象とするダービーと/あるいは特別競技の開催がうたわれている場合は、これらの競技の各々について馬を追加することが認められることがある。この追加馬の参加は、これらの競技への出場に限定する。
3. CSIO では、各選手が障害馬術規程第254条2に明記された騎乗できる最大頭数を超えない条件で、チーム監督が競技会開催中、公式チームの馬の変更を行うことができる。この方法で変更した場合は撤回できない。
4. CSIO と CSI で個人選手の馬の変更が認められるのは、当該馬同士が同じ NF に所属する場合だけであり、また実施要項の条項に従い、競技会開催中に各個人

選手が騎乗を許される馬の頭数範囲内に限られる。この方法で変更した場合は撤回できない。

5. CSIO では、各選手ともグランプリ競技、もしくはグランプリ競技がない場合は最高額の賞金が授与される競技において、1頭の馬にのみ騎乗できる。グランプリ競技に加えて、これと同額かそれより高額の賞金が授与される競技が併せて開催される場合、選手はこれらの競技につき各々1頭の馬にのみ騎乗できる。ただし、各選手とも2頭以上の馬に騎乗できるダービー競技の場合を除く。
6. 上記項目は CSI にも適用する。しかし上記5で示したグランプリ競技、あるいはこれに類する競技への参加申込が30名以下の場合、組織委員会が各選手に当該競技での2頭乗りを許可することもある。ただし、出場者総数はグランプリ競技あるいは当該競技に認められる上限を超えない場合とする。

第255条 チルドレン、ジュニア、ヤングライダー（付則9と付則12も参照）

1. 下記2と3に記載する除外規定には制約されるが、選手はその所属する NF から明確な許可がある場合には、12歳の誕生日を迎える年から一部のシニア競技に参加することができる。
2. ジュニア、ポニーライダーあるいはチルドレンは、同一競技会において各々のカテゴリー競技とシニア競技の両方に参加することはできない。
3. 選手は18歳の誕生日を迎える年まで、次の競技には参加できない：
 - CSI3* ～ CSI5* でのグランプリ競技
 - CSIO1* ～ CSIO5* でのグランプリ競技
 - ネーションズカップ競技
 - FEI ワールドカップ™ 競技
 - パワーアンドスキル競技
 - ダービー競技
 - 上述以外で最高賞金額がでる競技

選手は12歳の誕生日を迎える年から、CSI1* 競技会と CSI2* 競技会に出場することができるが、最初のコースの障害物が高さ1.20m 以内である場合に限る。

選手は14歳の誕生日を迎える年から、CSI1* 競技会の全競技と、CSI2* 競技会でも最初のコースの障害物が高さ1.40m 以内である場合には出場することができる。

選手は16歳の誕生日を迎える年から、CSI2* 競技会の全競技に出場することができるが、最初のコースの障害物が高さ1.45m 以内である場合に限る。

第256条 服装、保護帽、敬礼

1. 服装

- 1.1. 選手は観客の前に出るときには正しい服装でなければならない。競技中および表彰式においては障害馬術規程第256条1.5と第256条3.1.2.1 (e) に合致した服装が求められる。
- 1.2. コースの下見に際しては身だしなみの整った服装でなければならない。いかなる場合でも長靴、白色の乗馬ズボン、白または色の薄いシャツ、白いタイを着用しなければならない。いかなる場合も襟と袖口は白色でなければならない。
- 1.3. 悪天候の場合、競技場審判団は外套または防水服の着用を許可することもある。非常に暑い天候の場合は、競技場審判団が選手に対してジャケットなしで競技に臨むことを認める場合もある。
- 1.4. 軍人、警察官、憲兵隊員、軍関係者または国立生産牧場の職員を含め、障害飛越を行う者はすべて、3点で固定された顎紐付きの硬質保護帽を適正に着用することが義務づけられる。練習および練習用馬場、あるいは競技会場のいかなる場所においても、馬を運動させる者はこの保護帽着用が強く推奨される。しかしながら、ジュニアとチルドレン、ポニーライダーについては、騎乗中は常に3点で固定された顎紐のついた保護帽を着用することが義務づけられ、ヤングライダーについてはこれが推奨される。

2013年1月1日付けで、第256条1.4は以下の文章に変更となる：

騎乗している間は、常に3点固定式の顎紐付き硬質保護帽を適正に着用することが、全員に義務づけられる。この規則の例外として、シニア選手は式典時に保護帽を外すことが認められる。

- 1.5. 民間人はユニフォームか所属 NF の承認した服装、赤か黒のジャケット、白または淡黄褐色の乗馬ズボン、黒または茶色の長靴の着用が求められる。他の暗色長靴の着用は FEI の判断で認められる場合がある。白のタイかチョーカー、あるいはハンティング・ストックと、白または色の薄いシャツを着用しなければならない。シャツは長袖でも半袖でもよいが、白の襟つきであることと、長袖シャツの場合は白い袖口が必要である。ジャケットを着用しない場合は、袖付きのシャツを着用しなければならないが、長袖でも半袖でもよい。
- 1.6. 軍人、警察官、憲兵隊員、軍関係者または国立生産牧場の職員は、民間人と同じ服装かもしくは制服を着用することができる。
- 1.7. 競技場審判団の判断により、服装が不適切な選手については競技への参加が認められない場合もある。

- 1.8. 地域選手権大会、大陸選手権大会、世界選手権大会のネーションズカップ競技、およびオリンピック大会と地域大会の競技では、NFの公式ジャケットのみ着用できる。襟が同色である黒や赤、紺、緑色のジャケットは登録できない。

チームメンバーのジャケットは同一色でなければならない。この規則に従わない選手は、競技場審判団により1,000スイスフランの罰金が科される。更に、当該選手はアリーナからの退場を求められ、規則に準拠したジャケットを着用するまでは競技参加を認められない。

- 1.9. 色彩について議論が生じた場合は FEI 事務総長に付託し、この事務総長の決定が最終となる。

2. 敬 礼

- 2.1. 審判長が別段の指示を出さない限り、競技場審判団の管轄下にてアリーナで行われるすべての競技において、各選手は敬意の意味合いで主審に敬礼をしなければならない。競技場審判団は敬礼を怠った選手の走行開始を拒否することができる。更に競技場審判団は、当該選手に罰金を科すこともある（障害馬術規程第240条1.7を参照）。特別な理由により、競技場審判団は組織委員会と協議の上、各競技の開始前に選手の敬礼を必要とするか否かを決定する場合がある。国家元首が臨席しているときには、組織委員会が審判長の了承を得て、敬礼は国家元首に対して行うよう出場選手に指示しなければならない。また役員席に特別な来賓がある場合にも同様な処置をとることがある。

- 2.2. 選手はパレードの間、表彰式、あるいは国歌が流れる間は敬礼するものとする。

- 2.3. 特別な理由により、競技場審判団が敬礼は不要であるとの決定を下すことがある。

- 2.4. 男性の選手は敬礼の際に脱帽する必要はない。鞭を上げるか頭を下げることで敬礼をしたとみなされる。

3. 選手および馬につける広告と宣伝（一般規程第135条を参照）

- 3.1. IOCの後援を受けて行われる地域大会やオリンピック大会（オリンピック大会におけるオリンピック馬術競技規程を参照）を除くすべての競技会において、選手は下記に示す通り、衣類や装具のメーカー識別表示（名称と／あるいはロゴ）、あるいはスポンサーのこれに類するものを身につけることができる：

3.1.1. メーカーの識別表示

- 3.1.1.1. 競技場内にいる場合、あるいは表彰式の際に、スポンサー企業ではない衣類や装具メーカーを特定する名称やロゴの表示は、衣服と装具につき各1ヶ所、3cm以下の表面積とする。

3.1.2. スポンサーの識別表示

- 3.1.2.1. 競技場内にいる場合、あるいは表彰式の際に表示できる選手スポンサーの名称と／あるいはロゴは、以下の表面積を超えない範囲とする：
 - a) 鞍下ゼッケンの側面は両側とも200cm²
 - b) ジャケットあるいは上着の両側各々に胸ポケットの高さで80cm²
 - c) シャツおよびハンティング・ストックの襟両側、女性のブラウスの襟では中央部分で16cm²
 - d) フライボンネット（虫よけ）でのロゴは75cm²
 - e) 民間人は硬質保護帽の中央部分に垂直にスポンサー・ロゴを表示できる。このロゴは長さ25cm、幅5cm 以内とする。（以前の第256条1.6から移動）
 - f) 乗馬ズボン左脚で縦方向で一ヶ所80cm²（長さ20cm、幅4cm 以内）
- 3.1.2.1.1. 上記の記載に関わらず、FEI 選手権大会の組織委員会は、実施要項にてこのような名称やロゴの表示を禁止することができるが、障害馬術規程第256条3.1.2.1に示した限度内でのチームスポンサーと／あるいは NF スポンサーの名称とロゴについては例外とする。
- 3.1.2.1.2. 上記の記載に関わらず、CIO の組織委員会は、ネーションズカップ競技の実施要項にて、このような名称やロゴの表示を禁止することができるが、障害馬術規程第256条3.1.2.1に示した限度内でのチームスポンサーと／あるいは NF スポンサーの名称とロゴについては例外とする。
- 3.1.2.2. すべての FEI 競技会において、組織委員会は競技と／あるいは競技会スポンサーの名称と／あるいはロゴを、競技エリアにいる組織委員会運営員の衣服、および馬が競技エリアにいる場合や表彰式の際に使用する馬着にも表示できる。選手のゼッケンに付ける名称と／あるいはロゴのサイズは100cm²以内とする。
- 3.1.3. 選手の所属国識別
- 3.1.3.1. 競技エリアにいる場合や表彰式の際に、選手の国名やロゴ、国の象徴と／あるいは国旗、および／あるいは選手の NF ロゴもしくは名称を以下の表面積を超えない範囲で表示できる：
 - (i) ジャケットあるいは上着の両側各々に胸ポケットの高さで適度な大きさ
 - (ii) 鞍下ゼッケンの側面は両側とも200cm²
 - (iii) 硬質保護帽の中央部分に垂直に（障害馬術規程第256条3.1.2.1.e の仕様を参照）

- (iv) 乗馬ズボン左脚に縦方向で一ヶ所80㎢（長さ20cm、幅4cm 以内）
- (v) フライボンネット（虫よけ）でのロゴは75㎢

表示方法と見える度合いが3.1.2.1と3.1.3.1に記載の表面積に合致している限り、選手の国名を選手スポンサー、チームスポンサーと／あるいは NF スポンサーの名称と／あるいはロゴと併せて表示できる。

3.1.4. 選手の氏名

- 3.1.4.1. 競技エリアにいる場合や表彰式の際に、乗馬ズボン左脚に縦方向で一ヶ所80㎢以内（長さ20cm、幅4cm 以内）の表面積で選手名を表示できる。

- 3.2. 本条項に別段の記載がない限り、競技エリアにいる間または演技中に、いかなる選手、役員、馬についても広告や宣伝を身につけることはできず、騎乗用具にも表示できない。しかしながらコース下見の際に、上着の前後であれば400㎢以内、ヘッドギアでは50㎢以内で選手は自分のスポンサー、チームスポンサーと／あるいは NF スポンサーのロゴと／もしくは国名を表示することができる。

- 3.3. 適用される放映契約、インターネット契約、あるいはこれに類する法規や合意によって認められていれば、障害物とアリーナの側面に広告を表示することができる。スポンサー付き障害物の規格詳細は、障害馬術規程第208条3に網羅されている。

- 3.4. 書面による別段の FEI 合意がない限り、本条項でいう競技エリアとは、選手が審査される場所と馬がホースインスペクションを受ける場所すべてを含む。これには練習用馬場を含めない。

第257条 馬 装

- 1. 競技アリーナにて：

- 1.1. 遮眼帯の使用は禁止である。

- 1.2. 頭絡の頬革上にシーススキンもしくはこれに類する素材をあてることはできるが、馬の顔から直径3cm を超えないものとする。（以前の第257条1.4 から移動）

- 1.3. 可動式ランニング・マルタンガールのみ使用が許可される。チルドレン競技の馬には、スタンディング・マルタンガールの使用が認められる。

- 1.4. 銜の規制はない。しかし競技場審判団には、獣医師の助言に基づき、馬が怪我をしそうな銜の使用を禁止する権限がある。
手綱は銜に付けるか、直接、頭絡に装着しなければならない。ギャグとハックモアの使用が許可される。
- 1.5. 舌紐の使用は禁止である。舌押さえの使用については、獣医規程第1011条2.6.5を参照のこと。
- 1.6. 表彰式や競技後のパレードの時を除き、競技アリーナでの折り返し（ランニング・レーン）の使用は禁止である。
2. 組織委員会の管轄下にある競技会場内すべての場所（制限区域）では、以下の条項を適用する：
 - 2.1. 安全確保の観点より、鍔や鍔革（セーフティ鍔にも適用される）は固定せず、あおり革の外側に托革からつられていなければならない。選手は直接あるいは間接的にであれ、自分の体のいかなる部分も馬具に縛り付けてはならない。
 - 2.2. 選手はフラットワークを行う際に馬場馬術用の鞭を使用できるが、先端に錘の付いた鞭はいかなる場合にも認められず、またアリーナと練習用馬場で横木通過や障害飛越をする際に、75cmを超える長さの鞭を使用したり携帯することも禁止されている。鞭の代用品を携帯することも認められない。この条項に従わなかった場合は失権となる（障害馬術規程第241条3.21を参照）。
 - 2.3. 馬の前肢あるいは後肢に用いる装具（単一のプロテクターか複数のプロテクター、フェットロックリングなど）の総重量は、1肢あたり500g までとする（蹄鉄は含まない）。この条項に従わない場合は失格となる（障害馬術規程第242条2.8を参照）。
 - 2.4. すべての国際ヤングホース競技（5歳 *、6歳、7歳、8歳馬）：すべての後肢保護具について、内側は長さが16cm 以内、外側の幅は5cm 以上でなければならない。

*5歳馬対象の競技は、FEI が特別認可をしない限り、ヤングホース対象の FEI 世界ブリーディング障害馬術選手権大会においてのみ開催できる。

国際ヤングホース競技で使われる後肢プロテクターに関しては、次の基準を遵守しなければならない（FEI ウェブサイトに掲載されている FEI 障害馬術スチュワード・マニュアルも参照）。

保護具の内側はなめらかでなければならない。伸縮性のないマジックテープのみが認められ、フックやストラップは使用できない。

保護具の丸みを帯びた硬質部分は、球節の内側を覆うように装着しなければならない。

保護具と共に他の装備を使用することはできない。
3. 馬具と装具に付ける広告と宣伝

馬具と装具に付ける広告と宣伝の制限については、障害馬術規程第256条3に定める条件を適用する。

第258条 事 故

1. 選手または馬の事故により走行を終えることができない場合は、選手、馬とも失権となる。事故が発生しても選手が走行を完了した場合は、乗馬で退場しなくても失権にはならない。
2. 競技場審判団が事故後に選手あるいは馬のいずれかが競技継続には適さないと判断した場合、同審判団はこれを失権としなければならない。

第11章 役員

第259条 役員

1. 競技場審判団

競技会	審判員数	審判長	メンバー	追加メンバー	主審	水濤審判員	外国人審判員
	必要 最小限度	最低限の 資格要件	最低限の 資格要件	最低限の 資格要件	最低限の 資格要件	最低限の 資格要件	最低限の 資格要件
オリンピック大会／ ユース・オリンピック 大会 (YOG) / 世界選手権大会	(**) 審判長+ (**) 3名	レベル4 外国からの 選任が必須	2名以上 レベル4	レベル3	レベル4	レベル3 (YOG では 水濤障害使用不可)	レベル4
パン・アメリカン大会／ シニア大陸選手権大会／ ワールドカップ・ ファイナル	(**) 審判長+ (**) 3名	レベル4 外国からの 選任が必須	2名以上 レベル3	レベル3	レベル3	レベル3	レベル4
地域大会／ 他の選手権大会／ CSIO	審判長 +3名	レベル3 主催国からの 選任が 望ましい	2名以上 レベル3	レベル1	レベル3	レベル1	(**) レベル3
CSI5*、CSI4*、 CSI3*	審判長 +2名 (*)	レベル3 主催国からの 選任が 望ましい	2名以上 レベル3	レベル1	レベル3	レベル1	レベル3 CSI5*/4*: FEI が任命
CSI2*/CSIYH2*/ CSIY/J/Ch/V/ Am カテゴリーA / CSIP	審判長 +2名 (*)	レベル3 主催国からの 選任が 望ましい	少なくとも 1名 レベル2	レベル1	レベル2	レベル1	レベル2
CSI1*/CSIYH1*/ CSIY/J/Ch/V/ Am カテゴリーB	審判長 +2名 (*)	レベル2 主催国からの 選任が 望ましい	レベル1 以上		レベル1	レベル1	レベル2が 推奨される

(*) (水濤障害がある場合は) 水濤審判員を1名追加し、また一日に行われる競技数が多い場合は更に複数の審判員を追加する。

(**) FEI が任命。

各競技とも審判員席にて3名構成の審判団が審査を行い、更に水濤障害がある場合は水濤障害審判員1名をこれに加える。

重要：ここに言及した審判員数は最低限の人数であり、一日に行われる競技数に応じて調整しなければならない。

2. 実施要項の統括と FEI への外国人審判員報告書

競技会	実施要項の統括	競技会から14日以内に FEI へ報告
オリンピック大会、 世界選手権大会	FEI	審判長
地域大会、シニア大陸選手権大会、 FEI ワールドカップ™ ファイナル、 他の選手権大会	FEI	審判長
CSIO1* ~ CSIO5*	FEI	外国人審判員
CSI 3* ~ CSI5*	FEI	外国人審判員
CSI2*/CSIYH2*	外国人審判員 (*) + NF	外国人審判員
CSIY/J/Ch/V/Am カテゴリー A; CSIP	FEI	外国人審判員
CSI1*/CSIY/J/Ch/V/Am カテゴリー B; CSIYH1*	外国人審判員 (*) + NF あるいは審判長	外国人審判員 あるいは審判長

(*) 論評を組織委員会へ送り、そのコピーを FEI と組織委員会の属する NF へ送付。

3. 上訴委員会

上訴委員会の構成、および同委員会の委員長とメンバーの任命は一般規程に従わなければならない。CSI1*、2*、3* 競技会、およびベテランとヤングライダー、ジュニア、ポニーライダー、チルドレン対象のすべての CSI 競技会では、上訴委員会の設置は任意である。

4. 獣医師代表団と獣医師代表

4.1. 獣医師代表団の配置はオリンピック大会、地域大会、ユース・オリンピック大会、選手権大会、FEI ワールドカップ™ ファイナル、シニア CSIO では必須であり、

その構成と同団長およびメンバーの任命は獣医規程に従わなければならない。

- 4.2. シニア以外のカテゴリーを対象とする CSIO、および CSI において、組織委員会任命の獣医師代表とみなされるには、獣医規程に準拠した獣医師であることが求められる。
5. コースデザイナーと技術代表
- 5.1. コースデザイナー
- 5.1.1. 地域大会と地域選手権大会のコースデザイナーについては、当該 NF / 組織委員会が FEI の合意を得て、レベル3以上の FEI コースデザイナーリストより選任しなければならない。
- 5.1.2. オリンピック大会、ユース・オリンピック大会、世界選手権大会、シニア大陸選手権大会、FEI ワールドカップ™ ファイナルにおけるコースデザイナーは、レベル4コースデザイナーでなければならない、FEI の合意を得て組織委員会が任命する。
- 5.1.3. CSIO3* / 4* / 5* と CSI3* / 4* / 5* におけるコースデザイナーは組織委員会が任命するが、レベル3以上の FEI コースデザイナーリストから選ばなければならない。
- 5.1.4. CSIO1*、CSI1* / 2* のコースデザイナーは組織委員会が任命するが、レベル2以上の FEI コースデザイナーリストから選ばなければならない。FEI ネーションズカップ™ シリーズの一環ではない CSIO2* 競技会のコースデザイナーは、レベル2コースデザイナーリストから選ぶことができる。FEI ネーションズカップ™ シリーズの一環である CSIO2* 競技会のコースデザイナーは、レベル3以上のコースデザイナーリストから選ばなければならない。
- 5.1.5. コースデザイナーは、下記7に定める利害の抵触には特に留意しなければならない、殊に自分の近親者が1名、あるいはそれ以上出場している競技会でコースデザイナーの役職を果たすことはできない。
- 5.2. 技術代表
- 5.2.1. 地域大会および地域選手権大会においては外国人技術代表の任命が義務づけられており、レベル3以上の FEI コースデザイナーリストから選ばれ、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議の上、任命する。
- 5.2.2. オリンピック大会、ユース・オリンピック大会、世界選手権大会、シニア大陸選手権大会、FEI ワールドカップ™ ファイナルにおける外国人技術代表は、レベル4コースデザイナーでなければならない、障害馬術委員会と協議の上、FEI 障害馬術部門ディレクターによる任命が必要である。
- 5.2.3. 技術代表（外国人もしくは国内の）は審判員およびコースデザイナーの FEI リストから選出されることが望ましく、CSIO と CSI の組織委員会が任命する。
6. スチュワード

練習用馬場とウォーミングアップ用馬場は常時、監視が必要である。これらの馬場が使用されている間は常に最低1名のスチュワードが立会い、諸規程の遵守を徹底させなければならない。

- 6.1. どの国際競技会でもチーフスチュワードの任命が必要であり、FEI スチュワード・リストから選ばなければならない。次のレベルの国際競技会では、チーフスチュワードは少なくとも以下の資格を有する者でなければならない：
- (i) 全 CSIO、全 CSI、シニア以外のカテゴリーを対象とする選手権大会：レベル2スチュワード
 - (ii) オリンピック大会、地域大会、ユース・オリンピック大会、シニア大陸選手権大会、シニア地域選手権大会、シニア世界選手権大会、FEI ワールドカップ™ ファイナル：レベル3スチュワード

6.2. アシスタントスチュワード

国際競技会に任命されるアシスタントスチュワードは、少なくともレベル1スチュワードの資格を有する者でなければならない。競技会ごとに4名以上のアシスタントスチュワードの任命が必要である。同一競技会場で同時開催される競技会の数により、アシスタントスチュワードを追加任命する必要がある。

7. 利害の抵触

状況から判断して大方の者が利害の競合があると推察するような場合には、利害の抵触が実質的に存在すると言える。利害の抵触とは、FEI を代表するか、あるいは FEI に代わってビジネスや取引を行うにあたり、客観性に影響を与える可能性があったり、あるいは与えるとみなされるような、家族関係などを含む人的関係、職業上の関係、あるいは金銭的關係と定義づけられる。

現実的に可能な限り、利害の抵触は避けなければならない。しかしながら、スポーツ成績の向上を目指すため、FEI が利害の抵触と確立された専門性との釣り合いをとらねばならない事例もあるだろう。

8. 役員の経費（以前の第200条9.2から移動）

- 8.1. FEI と組織委員会とで別段の合意がある場合を除き、NF と組織委員会は役員全員の旅費と宿泊費、食費を負担するものとする。
- 8.2. 組織委員会が諸経費を負担する FEI 指名役員については、組織委員会の合意を得て任命するものとする。
- 8.3. 競技会における FEI 役員全員に対して、日当を支払わなければならない（推奨金額：1日100ユーロ以上）。

第12章 競 技

第260条 概 要

1. 個人およびチームを対象とする様々な障害馬術競技がある。以下の規則では、国際競技会で最も多く行われる競技を網羅する。
2. 組織委員会は、スポーツに多様性をもたせるためにも新しいタイプの競技を提案することができる。しかしながら、本章に述べる競技についてはすべて、この障害馬術規程を厳守して開催しなければならない。

第261条 ノーマル競技とグランプリ競技

1. ノーマル競技とグランプリ競技（後者は実施要項に明記していなければならない）は飛越能力の審査を主たる要素にしているが、第1位で同点の選手がでた場合には1回目のジャンプオフ、もしくは最大限2回のジャンプオフにスピードを導入して優劣を決定することができる。
2. これらの競技は基準 A にてタイムレース、あるいはタイムレースとしない条件で審査されるが、必ず規定タイムを設ける。
3. コースは馬の飛越能力の審査を主眼として設定する。組織委員会は障害物の数、障害物の種類、障害物の高さや幅が限度内で設置されるよう責任を負う。
4. グランプリ競技への出場資格（以前の付則4から移動）

- 4.1. CSIO におけるグランプリ競技へ出場するための選手／馬の資格条件を実施要項に定める場合は、次の開催方式を参照することが義務づけられる。

公式チームメンバーあるいは個人選手として参加している場合、以下の選手は自動的に CSIO のグランプリ競技への出場資格を得る：

- 4.1.1. 前回のオリンピック大会とパン - アメリカン大会の個人メダル受賞選手、前回の世界および大陸選手権大会における個人メダル受賞選手、および前回の FEI ワールドカップ™ ファイナル優勝人馬コンビネーション。
- 4.1.2. CSIO5* 競技会におけるグランプリ競技に出場できるのは、それより遡る12ヶ月間に CSIO5* 競技会のグランプリで優勝した人馬コンビネーション。
- 4.1.3. CSIO4* 競技会におけるグランプリ競技に出場できるのは、それより遡る12ヶ月間に CSIO4* あるいは CSIO5* 競技会のグランプリで優勝した人馬コンビネーション。
- 4.2. CSI 競技会におけるグランプリ競技へ出場するための選手／馬の出場資格条件を実施要項に定める場合は、次の開催方式を参照することが義務づけられる。これは、FEI 理事会が承認したシリーズの一環である CSI 競技会には適用しない。

以下の選手（人馬コンビネーションではない）は、自動的に CSI 競技会のグランプリ競技への出場資格を得る：

- 4.2.1. 当該競技会における前年のグランプリ競技優勝者

- 4.2.2. 主催国の現在のナショナル・チャンピオン
- 4.2.5. 前回のオリンピック大会とパン・アメリカン大会の個人メダル受賞者、前回の世界および大陸選手権大会における個人メダル受賞者、および前回の FEI ワールドカップ™ ファイナル優勝者
- 4.3. CSIO あるいは CSI におけるグランプリ競技へ出場するための選手／馬の資格条件を実施要項に定める場合は、すべての予選競技を基準 A 採用のタイムレースで行うか、あるいは基準 A で1回か2回のジャンプオフを行う条件で開催しなければならない。
5. グランプリ競技は次のいずれかの方式に従って行わなければならない：
- 5.1. ジャンプオフを1回もしくは2回行う1回走行で、ジャンプオフの1回目か2回目はタイムレースとするか、あるいは両方ともタイムレースとする；あるいは
- 5.2. タイムレースのジャンプオフを1回行う2回走行（同一または異なるコースにて）；あるいは
- 5.3. 2回走行を行い、2回目をタイムレースとする。
6. FEI ネーションズカップ™ トップリーグ競技会でのグランプリ競技は、次のいずれかの方式で採点しなければならない：
- 6.1. 障害馬術規程第238条2.2：タイムレースの1回走行とタイムレースのジャンプオフ1回；あるいは
- 6.2. 障害馬術規程第273条3.3：2回走行；あるいは
- 6.3. 障害馬術規程第273条3.1：2回走行とジャンプオフ1回
- 第1ラウンドでの飛越回数は15回、第2ラウンドでは9回までに限定される。

第262条 パワーアンドスキル競技

1. 通 則
- 1.1. パワーアンドスキル競技の目的は、限定数の大障害における馬の飛越能力を示すことにある。
- 1.2. 第1位で同点の選手が出た場合は、一連のジャンプオフを行わなければならない。
- 1.3. ジャンプオフ用障害物は、常に本競技のコースに使用されたものと形やタイプ、色も同じでなければならない。
- 1.4. 3回目のジャンプオフを終えても優勝者を決定できない場合、競技場審判団は競技の継続を止めることができる。4回目のジャンプオフでも決定できない場合は、競技場審判団が競技の継続を止めなければならない。この段階で残っている選手は同一順位となる。
- 1.5. 3回目のジャンプオフ後に選手が競技の継続を希望しない場合は、競技場審判団は競技の継続を止めなければならない。

- 1.6. 3回目のジャンプオフで過失があった場合は、4回目のジャンプオフを行うことができない。
- 1.7. 同減点の場合、タイムは順位の決定要素にはならない。規定タイムも制限タイムも設定しない。
- 1.8. 競技は基準 A に基づき審査が行われる。
- 1.9. 選手が練習用馬場で調教ができない場合に限り、アリーナ内に練習用障害物を設置しなければならない。任意障害の使用は認められない。
- 1.10. アリーナの広さと選手数によって状況が許せば、1回目もしくは2回目のジャンプオフに残っている選手はアリーナ内で待機できるよう競技場審判団が判断をくだすことがある。この場合、競技場審判団は練習用障害物の使用を認めることができる。

2. ピュイッサンス競技

- 2.1. 本走行のコースは4個～6個の単独障害で構成し、このうち少なくとも1個は垂直障害でなければならない。第1障害は高さを1.40m 以上とし、それ以降は高さが1.60m ～1.70m の障害物を2個、高さが1.70m ～1.80m の箱障害か垂直障害を1個設置しなければならない。コンビネーション障害、水濠障害、乾壕、自然障害の使用はすべて禁止されている。

踏切側に傾斜板（箱障害基底部から距離は最大30cm）が付いている箱障害の使用は認められる。

- 2.2. 箱障害の代わりに垂直障害を使うこともできるが、その場合は上に横木を1本のせたブランク（平板）、あるいは上に横木を1本のせたブランクと横木のコンビネーション、もしくはすべて横木で構成した障害物で代用することができる。
- 2.3. 第1位で同点の選手がでた場合は、2個の障害物で一連のジャンプオフを行わなければならない。障害物は箱障害か垂直障害を1個と、幅障害1個とする（障害馬術規程第246条1を参照）。
- 2.4. ジャンプオフでは2つの障害物の高さを段階的に上げ、幅障害については幅も広げなければならない。第1位で同点の選手等が前回の走行で減点を出していない場合のみ、垂直障害あるいは箱障害の高さを上げることができる（障害馬術規程第246条1を参照）。

3. 六段障害飛越競技

- 3.1. この競技では、6個の垂直障害を各障害間距離が約11m となるよう直線上に配置する。障害物は同じ種類の横木だけを使用し、同じように構築しなければならない。障害物の数はアリーナの広さに応じて減らすことができる。
- 3.2. 障害物をすべて同じ高さで造ってもよい。例えば、一律1.20m に設定する、もしくは
 - 3.2.1. 段階的に高さをかえる。例えば、1.10m、1.20m、1.30m、1.40m、1.50m、1.60m、あるいは
 - 3.2.2. 最初の2つの障害を1.20m で、次の2つの障害を1.30m というように設定する。

- 3.3. 馬が拒止したり逃避した場合は、過失のあった障害物から走行を再開しなければならない。
- 3.4. 第1位で同点となっている選手が第1ラウンドで減点があった場合を除き、最初のジャンプオフは高さを上げた6個の障害物で行わなければならない。最初のジャンプオフの後に、障害物の数を4個までに減らすことができるが、障害間距離は当初に定めた11mを維持しなければならない（障害物を減らす場合には低いものから外すこと）。

第263条 ハンティング競技、あるいはスピードアンドハンディネス競技

1. これらの競技の目的は、馬の従順さ、調教程度、そしてスピードを示すことにある。
2. これらの競技は基準Cで審査される（障害馬術規程第239条を参照）。
3. コースは彎曲していて、障害物の種類も多様でなければならない（選択障害を設けることができ、これによって選手は難度の高い障害物を飛越することで走行距離を短縮できる）。

バンク、スロープ、乾壕などの自然障害を飛越する競技をハンティング競技と呼び、実施要項でもその名称で記載しなければならない。（この種類のもので）その他の競技はすべてスピードアンドハンディネス競技と呼ぶ。

4. コース図には通過すべきコースを指定しない。コース図では、各障害物の飛越方向を矢印で示すのみとする。
5. 回転義務地点がどうしても必要な場合にのみ、コース図に記載する。

第264条 ネーションズカップ

1. 開催について
ネーションズカップ（NC）は公式国際団体競技である。その目的は次の条件下で、様々なNFから派遣されてきた選手と馬の能力を比較することにある。
 - 1.1. ネーションズカップはCSIOにおいてのみ開催できる。例外的な状況下で、FEI事務総長とともに障害馬術委員長による別段の合意がある場合を除き、原則としてヨーロッパのCSIOシーズンは屋外競技会のみとする。
 - 1.2. この競技をネーションズカップとして成立させるには、最低3NFの参加が必要である。
 - 1.3. 何らかの理由でこの競技が他の名称で行われる場合は、「ネーションズカップ」の副タイトルを付けなければならない。

1.4. これは公式チームが各々 NF を代表して競う唯一の競技であり、その特性を保つためにも個人順位を求めてはならない。

1.5. この競技の賞金額合計はグランプリ競技、もしくは最高賞金額の出る競技における授与額の50%以上に相当しなければならない。ただし、FEI 事務総長がその比率の修正を承認した場合はこの限りではない。

賞金は第2ラウンドに出場した全チームに授与しなければならない。

1.6. この競技は同じ日に同一コースで走行を2回行う。

1.7. ネーションズカップはタイムレースではなく基準 A で審査され、2回走行のどちらにも規定タイムが設けられる。

2. ネーションズカップ競技のカテゴリー
競技会の賞金額合計に応じて5*、4*、3*、2*、1* の CSIO を開催できる。

3. 障害物と他のテクニカル要件

3.1. 障害物の数と大きさ、およびコース全長は次の限度内でなければならない：

	5* NC	4* NC	3* NC	2* NC	1* NC
障害物の数	12	12	12	12	12
高さの下限／上限 (m)	1.30/1.60	1.30/1.50	1.20/1.45	1.10/1.35	1.00/1.20
この高さの垂直障害を2個以上 (m)	1.60	1.50	1.45	1.35	1.20
その他の障害物をこの高さで6個以上 (m)	1.50	1.45	1.40	1.30	1.10
幅障害を2個以上 高さの下限 / 最小幅 (m)	1.50/1.70	1.45/1.60	1.40/1.50	1.30/1.50	1.20/1.40
最大幅 (m)	2.00	1.90	1.80	1.70	1.50
トリプルバーの最大幅 (m)	2.20	2.10	2.00	1.90	1.70

	5* NC	4* NC	3* NC	2* NC	1* NC
水濺障害の最小幅 / 最大幅 (m) (障害馬術規程 第211条1を参照)	4.00/4.20	3.80/4.00	3.50/3.70	3.20/3.50	2.70/3.00
コース全長の 下限／上限 (m)	500/700	500/700	500/700	500/700	500/700
屋外での速度 (m /分)	400	400	375	350	350
屋内での速度 (m /分)	350	350	350	350	350

3.2. コースには水濺障害を1個設けなければならない（屋内アリーナでは任意であり、上記の幅よりも狭くすることができる）。大変例外的に、FEI 事務総長の明確な許可があった場合にのみ、水濺障害を省くことができる。上記に示した水濺障害の幅は踏切部分を含めた値である。

3.3. 屋外競技会の場合、バンクや堆土、スロープなどの常設障害物を除いて、いかなるコンビネーション障害も4回以上の飛越を要するものであってはならない。

3.4. コースには少なくともダブルかトリプルのコンビネーション障害を1個設けなければならないが、ダブルは3個以内、またはダブル1個とトリプル・コンビネーション1個までとする。

3.5. 屋内アリーナの場合は、コースの全長を上記に示した値よりも短縮することができる。

3.6. 1回目もしくは2回目の走行が始まる前に、競技場審判団が予期せぬ事態のためにコースが使用に適さない状態になったと判断した場合、同審判団は障害物の大きさを幾つか縮小したり、位置を多少動かすよう指示し、また指定速度を遅くすることができる。また第1ラウンドが簡単すぎたと思われる場合は、競技場審判団がコースデザイナーと協議の上、第2ラウンドでの障害物を幾つか大きくするよう指示を出すこともできる。

4. 選 手

4.1. ネーションズカップに出場するチームは4名の選手構成で、選手はすべての競技を通して各々同一馬に騎乗する。次の4.2に記載の場合を除き、各チームのメンバーは全員が第1ラウンドに出場しなければならない。

- 4.2. チームが4名構成の場合、第1ラウンド、あるいは第2ラウンドにてチームの第3走者が走行を終えた時点でチームの順位が上位に浮上する可能性がない場合は、4番目の選手を棄権させることができる。

5. 参 加

ネーションズカップ競技への参加は以下の条件に従う：

- 5.1. 選手と馬は公式チームから選考され、第1競技の前にチーム監督が申告する。ネーションズカップが開催される前日に、チーム監督は選手4名と馬4頭、およびそのスターティングオーダーを申告する。
- 5.2. チームが選手3名と馬3頭しか出せない場合、チーム監督は選手と馬を全員参加させなければならない。
- 5.3. 不可抗力でやむを得ないと競技場審判団が認めた場合を除き、3名以上の選手を公式派遣した NF はすべて、この競技への参加が義務づけられる。棄権あるいは出場を辞退し、参加しなかったチームは、その大会の全期間を通して獲得した賞金をすべて剥奪される。更に、旅費および滞在費を受給する権利を失う。
- 5.4. 正式に代表チームを派遣していない NF から同国籍の選手が3名以上、個人選手として参加申込を行っている場合、その個人選手らはチームを構成してネーションズカップに出場しなければならない。ただし、彼らの所属する NF が競技開催7日前までに、同選手等はネーションズカップには出場しない旨を、組織委員会へ連絡した場合を除く。この場合、組織委員会は彼らの個人選手としての参加申込を拒否することができる。
- 5.5. 出場の申告を行ってから競技開始1時間前までに、選手と／あるいは馬が事故にあったり病気となった場合は、公認医師からの診断書と／あるいは獣医師代表団の許可書の提出を行い競技場審判団の承認を受けた上で、公式チームとしてデフィニットエントリーを行っている別の選手と／あるいは馬と交代させることができる（障害馬術規程第253条を参照）。交代した場合でもスターティングオーダーの変更は行わない。

すべての NF がチームメンバーに加えて個人選手の参加申込を認められており、チームメンバーとして参加が認められる上限が4名である場合には、病気や事故の際に個人選手からチームメンバーへの変更が認められる（障害馬術規程第253条を参照）。

6. スターティングオーダー

- 6.1. 第1ラウンドにおけるチームのスターティングオーダーは、競技場審判団とチーム監督の立会いのもとで抽選によって決定される。抽選は競技場審判団の同意を得て組織委員会が定めた時刻に行われる。
- 6.2. 各チームの1番手の選手が先ず全員出場し、次に2番手、以下同様とする。選手3名のチーム構成の場合、チーム監督は4名分の枠から3名のスターティングオーダーを選択できる。
- 6.3. 第2ラウンドにおけるチームのスターティングオーダーは、第1ラウンドでの各チーム内上位3選手の減点合計に基づき、そのリバースオーダーとする。

同減点のチームについては第1ラウンドと同じスターティングオーダーをとる。

- 6.4. 各チーム内の選手のスターティングオーダーは第1ラウンドの場合と同じとする。

7. 第2ラウンドへ出場するチーム数と選手数

上記4.2と5.2に記載の状況を除き、組織委員会の判断で、第1ラウンドの結果で上位6チーム（下限）～8チーム（上限）が各チーム4名構成で第2ラウンドに出場する。第1ラウンドへの参加が6チーム未満であった場合は、第1ラウンドで失権にならない限り、全チームが各々4名構成で第2ラウンドに出場できる。

（第2ラウンドに出場するチーム数によるが、）第6位、第7位、第8位で同減点のチームがでた場合は、第1ラウンドでの各チーム内上位3選手のタイム合計で決定する。

組織委員会はネーションズカップの抽選の際に、主催 NF チームが第2ラウンドへ出場できる6～8チーム内に残らなかった場合、特別チームとして第2ラウンドに出場できるとするかを決定しなければならない。ただし、主催 NF チームが第2ラウンドへの出場を認められるのは、第2ラウンドへの出場資格を得た最下位チームとの差が減点8以内である場合に限る。

8. 失権と棄権

- 8.1. 第1ラウンドあるいは第2ラウンドで、4名構成のチームから2名以上の選手が失権あるいは棄権した場合は、そのチーム全体が失権となる。
- 8.2. 第1ラウンドあるいは第2ラウンドで、3名構成のチームから1名の選手が失権あるいは棄権した場合は、そのチーム全体が失権となる。
- 8.3. チームが第2ラウンドへの出場資格を得た場合、第1ラウンドで失権した選手（1名）は第2ラウンドに出場することができる。
- 8.4. 第2ラウンドに出場資格を得たチームは、競技場審判団が認めた場合にのみ、第2ラウンドへの出場を辞退することができる。この場合、チームは賞金を受け取ることができない。また別のチームに出場資格を与えることはしない。

9. 順位

- 9.1. 第2ラウンドに出場していないチームの順位は、第1ラウンドにおける各チーム内上位3選手の減点合計に基づいて決定する。同減点のチームは同順位となる。
- 9.2. 第2ラウンド終了後のチーム順位は次の通りに決定する：

第1ラウンドにおける各チーム内上位3選手の減点合計が、第2ラウンドにおける各チーム内上位3選手の減点合計に加算される。

- 9.2.1. 第1位で同減点のチームがでた場合は、各チームにつき1名の選手が参加するジャンプオフを行う。チーム監督は自国チームからどの選手をジャンプオフに出場させるかを決定する。4名のチームメンバーのうち、いずれかの選手1名がジャンプオフに出場できる。

ジャンプオフはタイムレースとし、6個以上の障害物を用いて行う。

ジャンプオフの結果、1位が同減点で同タイムのチームがでた場合は、該当チームをすべて1位とする。

その他の順位で減点合計が同じチームについては、同順位とする。

10. 他の競技会におけるネーションズカップ

- 10.1. ネーションズカップが CSIOY や CSIOJ、CSIOCh、CSIOP など、他の競技会で開催される場合は、上記7に記載の条項を適用する。

障害物の大きさやコース全長の測定については、該当する FEI 諸規程に記載された条項を適用する。

- 10.2. しかし第1位で同減点となった場合はジャンプオフを1回行うが、これにはチームメンバー全員が出場できる。ジャンプオフはタイムレースとし、6個以上の障害物を用いて行う。

- 10.3. ジャンプオフのスコアは各チームの上位3選手の出した減点を合計して求めるが、これでもまだ同減点の場合はジャンプオフでのこれら3選手のタイムを合計して優勝チームを決定する。

- 10.4. 他の順位で減点合計が同点となったチームについては同順位とする。

第265条 スポンサーチーム競技と他の団体競技

1. スポンサーチーム競技

スポンサーチーム競技は3名か4名の選手構成で、実施要項に記載された条項に則って行わなければならない。スポンサーチーム競技は、CSIO あるいは CSI-W 競技会、もしくは選手権大会では設けることができない。スポンサーチーム競技では、いかなるネーションズカップ方式も採用できない。

スポンサーチーム競技は別個の競技として設定することもできるが、個人順位を決定する競技の中で設けることもできる。このタイプの競技に出場するチーム選手については、氏名と NF 名ではなく、氏名とチーム名でこの競技のスターティングリストに掲載しなければならない。スポンサー付きチームが FEI 競技会へ出場するには、付則7に則って FEI に登録する必要がある。

2. 他の団体競技

他の団体競技も実施要項に定める条件に従って開催することができる。しかし、ネーションズカップ競技、あるいはスポンサーチーム競技と呼称することは

できない。国名に関わる表示はできない。

第266条 フォルト・アンド・アウト競技

1. この競技はそれぞれ番号を付けた中級程度の障害物を用い、タイムレースとして行う。コンビネーション障害を含めてはならない。選手の走行は過失が何であれ（障害物の落下、不従順、落馬など）、最初の過失が発生した時点で終了となる。

障害物が落下したり、指定時間が経過した時点でベルが鳴らされる。その後、選手は次の障害物を飛越しなければならず、馬の前肢が着地した時に計時が止められるが、ベルが鳴ってから飛越した障害物については得点とならない。

2. この競技ではボーナス・ポイントが与えられる：正しく障害物を飛越すると2点、障害物の落下があると1点である。
3. 走行終了の原因となった過失が障害物の落下以外の場合、例えば不従順、落馬、あるいは障害物を飛越しなかったことで計時が止められる場合はベルが鳴らされる。選手は同得点を獲得した選手の中で最下位となる。
4. この競技の優勝者は獲得点数の一番高い者である。同点の場合は走行タイムが勘案され、一番早く走行した者が優勝となる。
5. フォルト・アンド・アウト競技は2つの方法で行うことができる：

5.1. 一定の障害物の数で行う場合

これはできるだけ多くの障害物を飛越することを競う競技で、選手が最後の障害物を飛越してフィニッシュラインを通過すると同時に計時器が止められる。

第1位について得点もタイムも同じであった場合にのみ、障害物の数を限定してフォルト・アンド・アウト競技のジャンプオフを行わなければならない。

5.2. 60秒～90秒の指定時間（屋内アリーナでは45秒）を設けて行う場合：

選手は指定時間内にできるだけ多くの障害物を飛越し、コース走行を終了しても指定時間が残っている場合は、再びスタートして同じコースを回る。

馬が既に踏み切った後に指定時間が切れた場合は、その障害物の落下の有無に関わらず点数に数えられる。計時は次の障害物で馬の前肢が着地した時点で止められる。同減点で同タイムの場合は同順位となる。

第267条 ヒット・アンド・ハリー競技

1. この競技では最初の過失で失権となるのではなく、選手は正しく飛越した障害物に2点、落下した障害物には1点が与えられる。コンビネーション障害は使用してはならない。
2. この競技は60秒から90秒（屋内では45秒）までの指定時間内で行われる。不従順はその選手が費やしたタイムで減点されるが、2回の不従順、1回の落馬は走行停止となる。この場合、選手は同点の選手の中で最下位となる。
3. この競技の優勝者は指定時間が切れるまでに、最も短時間で最も多くの得点を得た選手とする。
4. 指定時間が切れるとベルが鳴らされる。選手が次の障害物を飛越して馬の前肢が着地した時点で計時が止められるが、ベルが鳴らされた後に飛越した障害物については得点が与えられない。
5. 馬が既に踏み切った後に指定時間が切れた場合は、その障害物の落下の有無に関わらず点数に数えられる。選手の走行タイムは前記4で述べたように、次の障害物でとる。

不従順と障害物の移動あるいは落下があった場合は、指定時間から6秒が差し引かれ、これに応じてベルが鳴らされる。
6. 計時を止めることとなる障害物を最初の試行で飛越しなかった場合は、走行終了となる。この選手は同得点を得た選手の中で最下位となる。

第268条 リレー競技

1. 通 則
- 1.1. リレー競技は2名、あるいは3名の選手で構成するチームを対象とした競技である。チームメンバーは一緒にアリーナへ入る。
- 1.2. コース図に示されたコースをチームメンバーが連続的に完走しなければならない。
- 1.3. スタートラインを通過した選手は第1障害を飛越しなければならず、また最終障害を飛越した選手はフィニッシュラインも通過することで、計時が止められる。一人の選手が最後から2番目の障害物を飛越した後に、別の選手がフィニッシュラインを通過した場合は、チーム失権となる。
- 1.4. 走行タイムは最初の選手がスタートラインを通過した時点から、同チームの最終走者がフィニッシュラインを通過する時点までを計測する。
- 1.5. 規定タイムは当該競技の速度と、コース全長にチームメンバーの人数を掛けたものに基づいて算出する。
- 1.6. 走行中に障害物の落下を伴う不従順があった場合は、走行に要した時間にタイム修正を加算しなければならない（障害馬術規程第232条を参照）。

- 1.7. チームメンバー1名の失権により、チーム全体の失権となる。
- 1.8. チームメンバーによる2回目の不従順、あるいは選手の落馬または人馬転倒1回でチーム失権となる。
- 1.9. バトンタッチの際に、選手が前走者の馬の前肢が地面に着く前に踏み切った場合は、チーム失権となる。
- 2. リレー競技は次の要領で開催される：
 - 2.1. ノーマル・リレー
 - 2.1.1. ノーマル・リレーでは、最初の選手がコースを走行して最終障害を飛越した段階で次の選手が走行を開始し、以下同じ様に繰り返す。
 - 2.1.2. チームメンバーが最終障害を飛越して、その馬の前肢が地面に着き次第、次の選手は第1障害を飛越できる。
 - 2.1.3. これらの競技は基準Cで行う。
 - 2.2. フォルト・アンド・アウト・リレー（飛越回数リレー競技）
この競技は障害馬術規程第266条に定めるフォルト・アンド・アウト競技の条項に基づいて行われ、チームメンバー全員でできるだけ多くの障害物を飛越するか、またはメンバー分の指定時間を合計した時間内に、チームメンバー全員でできるだけ多くの障害物を飛越することで競うものである。
 - 2.2.1. 飛越回数を競う場合
 - 2.2.1.1. 各選手が走行を終了した時点、あるいは最終障害以外で過失があったときにはベルが鳴らされ、選手は必ず交代しなければならない。次に走行を開始する選手は第1障害から、あるいは障害物の落下があった場合はその次の障害物、もしくは不従順のあった障害物から走行を開始しなければならない。
 - 2.2.1.2. チームの最終走者が過失なしで走行を終了した場合、あるいはコースの最終障害を落下させた場合、同選手の走行はフィニッシュラインを越えた時点で終了し、計時が止められる。
 - 2.2.1.3. チームの最終走者が最終障害以外の障害物を落下させた場合は、ベルが鳴らされ、同選手は走行タイムの記録のために次の障害物を飛越しなければならない。この最終走者が何らかの理由で走行タイムを記録するための障害物を飛越しなかった場合、そのチームは同得点でタイムが記録されているチームの中で最下位となる。
 - 2.2.2.4. この競技ではボーナス・ポイントが与えられる：障害物を正確に飛越した場合は2点、飛越に障害物の落下を伴った場合は1点。1回目の不従順は減点1、それ以降はチームの構成人数によるが、2番目あるいは3番目の選手による不従順は各々減点2。規定タイムの超過は、1秒あるいは1秒未満の端数ごとに減点1。

- 2.2.1.5. 順位は各チームの得点合計で最も点数が高く、また時間の早い順に決定される。
- 2.2.2. 指定時間を合計した時間内で競う場合
 - 2.2.2.1. この場合は、2.2.1.1、2.2.1.3、2.2.1.4、2.2.1.5の条項を適用しなければならない。
 - 2.2.2.2. 各チームとも45秒（最小限）から90秒（最大限）にチームメンバーの人数を掛けた指定時間を与えられる。
 - 2.2.2.3. チームは指定時間内にできるだけ多くの障害物を飛越する。チームメンバー全員が走行を終了してもまだ指定時間が残っている場合は、最初のチームメンバーが再びスタートして同じコースを回る。
 - 2.2.2.4. チームの最終走者がその走行の最終障害を落下させた場合、同選手はコースの第1障害を飛越して走行タイムを記録してもらわなければならない。
 - 2.2.2.5. 走行中に障害物の落下を伴う不従順があった場合は、指定時間からタイム修正の6秒が差し引かれる。
- 2.3. フォルト・アンド・アウト・サクセッシブ・リレー（飛越回数連続リレー競技）

この競技はフォルト・アンド・アウト・リレーと同じ規則に従って行われ、できるだけ多くの障害物を飛越することで競うものである。しかし、選手は前走者が過失を出した時点で交代し、各チームの人数と同じ回数のコース走行を終了するまで継続する。
- 2.4. フォルト・アンド・アウト・オプション・リレー（飛越回数選択リレー競技）
 - 2.4.1. この競技では、選手の交代を任意で行うことができる。しかし、各選手がその走行を終了した時点、あるいは過失があった時にはベルが鳴らされ、その場合は交代が義務づけられる。
 - 2.4.2. 選択リレーは基準 C で行われる。

第269条 アキュムレーター競技

- 1. この競技は6個、8個、または10個の徐々に難度の高くなる障害物を用いて行う。コンビネーション障害は許可されていない。段階的な難度には障害物の高さや幅だけでなく、コースの難度も含まれる。
- 2. ボーナス・ポイントが次の通り与えられる：第1障害を無過失で飛越した場合は1点、同様に第2障害で2点、第3障害で3点等々となり、合計21点、36点または55点が与えられる。障害物を落下させた場合は得点が与えられない。障害物の落下以外の過失は基準 A に従って減点される。
- 3. この競技はタイムレースで初回走行を行い、その走行で第1位にて同減点の選手がでた場合にはジャンプオフを行うか、あるいはタイムレースでない初回走行とジャンプオフを1回行うか、またはタイムレースで初回走行のみを行う形式で開催できる。ジャンプオフを行う場合は6個以上の障害物を用いるが、高さと／あるいは幅を増すことができる。ジャンプオフで使われる障害物は初回走行と同じ順序で飛越しなければならない、

最初の走行で割り振られた障害物個々のポイントはそのままとする。

4. タイムレースとせずにジャンプオフを1回行う競技として開催された場合、ジャンプオフへ残れなかった選手については走行タイムに関わりなく、初回走行時の得点に応じて順位が決定される。最初の走行をタイムレースとし、ジャンプオフを行う競技として開催された場合にジャンプオフへ残れなかった選手については、初回走行時の減点とタイムに従って順位が決定される。
5. コースの最終障害では選択障害を置くことができ、そのうちの一個をジョーカーとして指定することができる。ジョーカーは選択障害よりも難度が高くなければならず、ポイントは2倍となる。ジョーカーを落下させた場合は、そのポイントがその時点までに選手が得たポイント合計より差し引かれる。
- 5.1. 選択障害として、ジョーカーをフィニッシュラインの後に設置することができ、その場合はジョーカーをメインコースの一部とせず、次の方式を採用しなければならない：選手はフィニッシュラインを通過して走行タイムが記録され、その後20秒が与えられ、飛越を選択すればジョーカーを1回試行できる。このジョーカーを正しく飛越できた場合は、メインコース最終障害の2倍のポイントが選手に与えられる。ジョーカーを落下させた場合は、（障害馬術規程第217条1）この2倍のポイントがそれまでの合計得点から差し引かれる。

第270条 トップスコア競技

1. この競技では一定数の障害物がアリーナに設置される。各障害物にはその難度に応じて10点から120点までのポイントが付けられる。コンビネーション障害の使用は認められない。
2. 障害物はどちらの方向からでも飛越できるように造らなければならない。
3. 障害物に割り当てられるポイントは、コースデザイナーの裁量により同じ点数を繰り返し使用しても構わない。アリーナ内に障害物を12個設置できない場合に、どの障害物を省くかはコースデザイナーに一任される。
4. 選手は正しく障害物を飛越した場合に、その個々の障害物に付けられたポイントを合計して得点が与えられる。落下した障害物については得点を得られない。
5. 各選手は45秒（最小限）から90秒（最大限）までの時間を与えられる。この時間内に、選手は自分の選んだ障害物を、自分の希望する順序と方向に飛越することができる。スタートラインはどちらの方向から通過してもよい。スタートラインには標旗を4本、即ちその両端に各々赤と白の標旗を設置しなければならない。
6. ベルの音で走行の終了を告げる。その後、選手はどちらの方向からでもよいが、フィニッシュラインを通過し、走行タイムが記録される。フィニッシュラインを通過しない場合は、同得点となった選手の中で最下位となる。フィニッシュラインには標旗を4本、即ちその両端に各々赤と白の標旗を設置しなければならない。
7. 障害飛越で馬が既に踏み切っている時に指定時間がきた場合、その障害物を正しく飛越できればカウント対象となる。

8. 走行中に落下した障害物は復旧されず、それを再び飛越しても得点とはならない。不従順のために障害物の落下が生じたり、同じ垂直面上にある障害物の下段部分が移動した場合にもこれを適用する。障害物の落下を伴わない不従順の場合は、その障害物を飛んでもよいし、次の障害物へ進んでも構わない。
9. 各障害物を2度ずつ飛越してもよい。自発的であるとなしに関わらず、障害物を3度目に飛越すること、または既に落下した障害物の標旗間を通過しても失権とはならない。しかし、この障害物に割り当てられたポイントを獲得することはできない。
10. 不従順についてはすべて、それに費やした時間で減点される。落馬／馬の転倒に関わる減点については、障害馬術規程第241条3.25を参照のこと。
11. 最高得点を得た者が優勝となる。同得点の場合はスタートラインからフィニッシュラインまでの所要時間が最も短い選手を上位とする。第1位で得点およびタイムが同じ場合は、指定時間を40秒として同様の方式でジャンプオフを1回行う。
12. ジョーカーの使用には2つ方法がある：
 - 12.1. コースの一部として、標旗を正しく設置し「ジョーカー」と標示した障害物を1個設置することができる。ジョーカーは2回まで飛越できる。この障害物を正しく飛越するごとに200点が与えられるが、もし落下があった場合はそれまで選手が獲得した得点合計から200点が差し引かれる。
 - 12.2. ジョーカーをメインコースの一部としない。所定時間が過ぎるとベルが鳴らされ、選手の走行は終了となる。選手はフィニッシュラインを通過し、走行タイムが記録され、その後に20秒が与えられてジョーカーの飛越を試みることができる。ジョーカーでは1回の試行のみ認められる。このジョーカーを正しく飛越した場合は200点が与えられるが、もし落下があった場合はそれまで選手が獲得した得点合計から200点が差し引かれる。

第271条 コース自由選択競技

1. この競技では、選手は自分が選択した飛越順序で障害物を1回ずつ飛越する。すべての障害物を飛越しない選手は失権となる。コンビネーション障害の使用は認められない。
2. 選手はスタートラインとフィニッシュラインをどちらの方向からでも通過してよい。両ラインには、それぞれ標旗を4本、即ちラインの両端に各々赤と白の標旗を設置しなければならない。

コース図に示されていない限り、障害物は何れの方向から飛越しても構わない。
3. この競技は速度を定めず、基準Cに従って行う。
4. 走行タイムの計測が開始されてから120秒以内にコースの走行を終了できない場合は失権となる。
5. 不従順はすべて、選手が費やした時間によって減点される。落馬／馬の転倒に関わる減点については、障害馬術規程第241条3.25を参照のこと。

6. 障害物の落下や移動を伴う拒止、逃避があった場合は、落下または移動してしまった障害物が復旧され、競技場審判団がスタートの合図を出してから選手は走行を再開できる。

その後、自分の選択した障害物を飛越できる。この場合は走行タイムに6秒のタイム修正が加算される（障害馬術規程第232条を参照）。

第272条 ノックアウト競技

1. この競技は2名1組で互いに競うものである。選手はプログラム中の別の競技、または予選競技の結果によって出場資格を獲得し、タイムレースで基準Aに従うか、あるいは基準Cに基づいて行われる。
2. 同じように造られた2つコースを使い、2名の選手は同時に競う。コンビネーション障害の使用は認められない。

もし他方の選手のコースに侵入して相手の邪魔になった場合には、侵入した選手が失権となる。

3. 各走行で勝ち残った選手が2名ずつ組を作り、次の走行で対決する。以降、優勝者を決める最後の2名になるまでこの手順で続けられる。
4. この競技で騎乗できるのは、各選手とも予選ラウンドあるいは予選競技で出場資格を得た馬のうち1頭である。対戦相手が棄権した場合、残った選手はを戦勝となり、次のラウンドへ進める。
5. 予選ラウンドまたは予選競技で最下位にて同点の選手がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを行わなければならない。
6. 2名の選手によって行われる勝ち抜き戦において、基準Aで採点する場合はタイムレースとしない。いかなる性質の過失（障害物の落下、拒止、逃避）でも減点1となる。しかしながら、障害物の落下を伴うか否かに関わらず拒止が発生した場合は、その障害物を飛越せずに、あるいはその障害物の復旧を待たずに走行を継続する。基準Aで審査される場合、選手は減点1となる。障害物の飛越を試みずに通過した場合は失権となる。基準Cに従って行われている競技であれば、この場合は走行タイムに3秒が加算される。

障害馬術規程第241条に定める条項に違反した場合は、当該競技から失権となる。

7. 競技が基準Cに従って行われている場合は、各過失とも3秒の加算となる。

8. 減点が少ない方の選手、また同減点の場合は早くフィニッシュラインを通過した選手が次の勝ち抜き戦に出場できる。この様にして最後の2名による優勝決定戦になるまで続けられる。各ラウンドで敗退した選手は同順位となる。
9. 競技場審判団のメンバー1名はスタートラインにてスタートの合図を出し、またもう1名はフィニッシュラインで、どちらの選手が先に通過したかを判定しなければならない。
10. 勝ち抜き戦で2名の選手が引き分けとなった場合は、再度走行を行う。
11. 競技が基準Cに従って行われている場合は、選手ごとに別々の計時装置を使用しなければならない。
12. 勝ち抜き戦のスターティングオーダーは、障害馬術規程付則5（JEF注：正しくは付則3）に掲載された表に従って決定する（実施要項の条件により16名または8名）。

第273条 2回走行競技

1. この競技は2つのコースを使用して行う。コース構成や障害物の数、障害物の大きさは同一でも異なるものでもよいが、速度は同じとする。選手は各々、同一馬で出場しなければならない。第2ラウンドに出場しない選手は順位の対象とならない。第1ラウンドで失権、あるいは棄権した選手は第2ラウンドに参加できず、順位も与えられない場合がある。
2. 選手全員が第1ラウンドに出場しなければならない。実施要項に定められた条件により、次の選手が第2ラウンドに進める：
 - 2.1. 選手全員；あるいは
 - 2.2. 第1ラウンドでの順位に従い（実施要項に従い減点とタイム、もしくは減点のみを採用）、限定数の選手（少なくとも選手の25%、また実施要項には記載されていなくても、減点なしで走行した選手は全員）。
3. 下記のいずれかの方式に準拠した競技審査方法を実施要項に明記しなければならない：

第1ラウンド	第2ラウンド		ジャンプオフ
基準 A	基準 A	スターティング オーダー	スターティング オーダー
3.1 タイムレース	タイムレース としない	第1ラウンドでの減点とタイムによる 順位のリバースオーダー	第2ラウンドと同じ

第1ラウンド	第2ラウンド		ジャンプオフ
基準 A	基準 A	スターティング オーダー	スターティング オーダー
3.2 タイムレース としない	タイムレース としない	第1ラウンドでの減点による順位の リバースオーダー：同減点の場合は 抽選による順番のままとする	第2ラウンドと同じ
3.3.1 タイムレース	タイムレース	第1ラウンドでの減点（とタイムを 勘案する場合もある）による順位の リバースオーダー	ジャンプオフなし
3.3.2 タイムレース としない	タイムレース	第1ラウンドでの減点（とタイムを 勘案する場合もある）による順位の リバースオーダー	ジャンプオフなし
3.4 タイムレース	タイムレース	第1ラウンドでの減点とタイムによ る順位のリバースオーダー	第2ラウンドと同じ
3.5 タイムレース としない	タイムレース	第1ラウンドでの減点による順位の リバースオーダー	第2ラウンドと同じ

4. 順位

- 4.1. 選手はジャンプオフでの減点とタイムで順位が決定される。その他の選手については、2回の走行における減点合計と第1ラウンドでのタイムにより、順位が決定される。
- 4.2. 選手はジャンプオフでの減点とタイムで順位が決定される。その他の選手については、2回の走行における減点合計で順位が決定される。
- 4.3. 選手は2回の走行における減点合計と、第2ラウンドでのタイムにより順位が決定される。
- 4.4. 選手はジャンプオフでの減点とタイムにより順位が決定される。その他の選手については、2回の走行における減点合計と第2ラウンドでのタイムにより順位が決定される。

第274条 二段階走行競技

1. この競技は二段階で構成し、中断なしに同一または異なった速度で行われ、一段階目のフィニッシュラインが二段階目のスタートラインとなる。

2. 一段階目は7個から9個の障害物で構成されたコースで、コンビネーション障害は使用しても、使用しなくてもよい。二段階目は4個から6個の障害物を用いて行い、これにはコンビネーション障害を1個入れてもよい。
3. 一段階目で減点のあった選手については最終障害を飛越した時、また一段階目の規定タイムを超過した選手はフィニッシュラインを通過後、ベルが鳴らされ、走行が止められる。当該選手はフィニッシュラインを通過後、走行を停止しなければならない。例外 第274条5.6: 失権とならなければ、一段階目で減点のあった選手も二段階目に進むことができる。
4. 一段階目で減点のなかった選手はコースの走行を継続し、二段階目のフィニッシュラインを通過して走行終了となる。
5. 次のいずれかの方式に準拠した競技の審査方法を実施要項に明記しなければならない：

一段階目走行	二段階目走行	順位
5.1 基準 A、 タイムレースとしない	基準 A タイムレースとしない	二段階目の減点に従い、必要であれば一段階目の減点も採用
5.2 基準 A、 タイムレースとしない	基準 A タイムレース	二段階目の減点とタイムに従い、必要であれば一段階目の減点も採用
5.3 基準 A、 タイムレース	基準 A タイムレース	二段階目の減点とタイムに従い、必要であれば一段階目の減点とタイムも採用
5.4 基準 A、 タイムレースとしない	基準 C	二段階目の合計タイム（基準 C）に従い、必要であれば一段階目の減点も採用
5.5 基準 A、 タイムレース	基準 C	二段階目の合計タイム（基準 C）に従い、必要であれば一段階目の減点とタイムも採用
5.6 基準 A、 タイムレースとしない 一段階目では5個～ 7個の障害物	基準 A タイムレース 残留障害（いずれの段階でも 障害物総数は11個～13個）	両段階での減点合計（いずれの段階でも障害減点と規定タイムの超過減点）に従い、必要であれば二段階目のタイムも採用

6. 一段階目終了後に停止させられた選手は、兩段階ともに出場した選手の下に順位付けられる。
7. 第1位で同点の選手がでた場合は、同じく第1位となる。

第275条 決勝ラウンドを行うグループ競技

1. この競技では、選手はグループに分けられる。グループ分けは抽選でも、予選競技の成績、あるいは最新のロレックス・ランキングに基づいた方法でもよいが、実施要項に明記する。
2. グループ分けの方法、およびグループ内でのスターティングオーダーの決定方法を実施要項に明記しなければならない。
3. 先ず、第1グループの選手が全員出場し、それから第2グループの選手全員、以降同様に出場する。
4. 各グループで最上位の選手が決勝ラウンドに出場できる。
5. 各グループで最上位にはなれなかったが、2番目に成績のよかった選手のうち限定数を決勝ラウンドに出場させる旨を、組織委員会は実施要項に規定することができる。
6. 決勝ラウンドでは、選手全員が減点0で走行を開始する。
7. 決勝ラウンドに出場する選手は初回走行のスターティングオーダーに従うか、あるいは実施要項にその旨が規定されていれば、最初の走行成績（減点とタイム）のリバースオーダーで出場する。
8. 初回走行と決勝ラウンドは、タイムレースで基準 A に従って審査を行う。
9. この競技はグランプリ競技、あるいは最高賞金額のである競技、もしくは他の競技の予選としては採用できない。
10. 決勝ラウンドに出場した選手は全員が賞金を授与される。
11. 決勝ラウンドへの出場資格を得た選手がこれに出場しなかった場合でも、次点の選手の繰り上げは行わない。

第276条 決勝ラウンドを行う競技

1. 二回走行と決勝ラウンドを行う競技
- 1.1. この競技では、第1ラウンドで上位16名の選手が第2ラウンドへの出場資格を獲得し、第2ラウンドでは第1ラウンドでの成績（減点とタイム）のリバースオーダーで出場する。

- 1.2. 二回の走行における減点とタイムの合計、あるいは第2ラウンドの減点とタイムだけで選考された上位8名の選手が決勝ラウンドへ出場する。
- 1.3. 第2ラウンドのコースは第1ラウンドのコースと異なってもよい。
- 1.4. 決勝ラウンドのコースは第1ラウンドと／あるいは第2ラウンドの障害物を用いた短縮コースで行わなければならない。
- 1.5. 決勝ラウンドのスターティングオーダーは2回の走行における減点とタイムの合計による順位のリバースオーダーとするか、あるいは第2ラウンドの減点とタイムだけで決定した順位のリバースオーダーとするか、実施要項に定める条件に従うものとする。
- 1.6. 決勝ラウンドでは、選手全員が減点0で走行を開始する。
- 1.7. 3回の走行ともタイムレースで基準 A に従って審査を行う。決勝ラウンドで規定タイムを超過した場合は、4秒を超えるごとに減点1となる。
- 1.8. この競技はグランプリ競技、最高賞金額のである競技、もしくは他の競技出場への予選としては採用できない。
- 1.9. 決勝ラウンドへの上場資格を得た選手がこれに出場しない場合でも、次点の選手の繰り上げは行わない。
2. 一回走行と決勝ラウンドを行う競技（決勝ラウンド：選手は減点0で走行開始）
 - 2.1. この競技では、第1ラウンドの上位10選手（最低25%、いかなる場合も減点0の選手は全員）が決勝ラウンドへ出場でき、決勝ラウンドでは第1ラウンドの成績（減点とタイム）のリバースオーダーで出場する。
 - 2.2. 決勝ラウンドでは選手全員が減点0で走行を開始する。
 - 2.3. 両走行ともタイムレースで基準 A に従って審査を行う。決勝ラウンドで規定タイムを超過した場合は、4秒を超えるごとに減点1となる。
 - 2.4. この競技はグランプリ競技、最高賞金額のである競技、もしくは他の競技出場への予選としては採用できない。
 - 2.5. 決勝ラウンドへの上場資格を得た選手がこれに出場しない場合でも、次点の選手の繰り上げは行わない。

第277条 ダービー競技

1. この競技は1000m 以上、1300m 以下の走行距離にて、飛越数の50% 以上が自然障害で構成されたコースで行われ、走行は1回のみとし、実施要項に明記されている場合はジャンプオフを1回だけ行う。
2. この競技は基準 A か基準 C で審査を行う。基準 C で審査される場合は規定タイムを設けず、制限タイムのみとする。コース全長が障害馬術規程第239条3に定める制限タイムの要件を超える場合は、競技場審判団の判断で制限タイムを延長することができる。

3. この競技が競技会の中で最も賞金額の高い競技であっても、実施要項に定める条件に従い、各選手は3頭まで騎乗できる。

第278条 コンビネーション障害で競う競技

1. コースは6個の障害物で構成するものとする；第1障害を単独障害として、その後は5個のコンビネーション障害。少なくとも1個はトリプル・コンビネーションでなければならない。
2. この競技は基準 A か基準 C で審査を行う。
3. 実施要項の条件に従ってジャンプオフを行う場合、ジャンプオフ用コースは6個の障害物で構成しなければならない。このコースにはダブル1個、トリプル1個と単独障害4個、もしくはダブル3個と単独障害3個を含めなければならない。その為、第1ラウンドで使用したコンビネーション障害の一部は取り除かなければならない。
4. 障害馬術規程第204条5は、この競技に適用しない。しかしコース全長は600m 以内とする。

第279条 貸与馬による競技会と競技

国際競技会もしくは国際競技では、FEI 事務総長の承認を得て、主催 NF が用意した貸与馬で競技を開催することができる。

このような場合は次の条件が適用される：

1. 組織委員会は必要な頭数の馬を用意する（各選手につき3頭まで）。
2. 第1競技開始の24時間前までに、各チームまたは個人選手用貸与馬の公正な抽選を行わなければならない。実施要項に別段の記載がなく、FEI 事務総長の承認があれば、主催 NF 用の馬を最初に抽選する。
3. 抽選は各チームの監督または代表、選手、審判長または競技場審判団メンバー、獣医師代表団長または獣医師代表の立会いのもとで行わなければならない。馬を正しく認識できるように準備し、通常使用している頭絡を装着してこれに臨ませる。馬の所有者が頭絡の変更を了解した場合を除いて、競技会期間中はこの頭絡を使用しなければならない。
4. 組織委員会は妥当な数のリザーブ馬を用意し、獣医師代表が競技に不適格と判断した場合や、競技場審判団により馬と選手との折り合いが明らかに悪いと判断された場合に提供する。
5. 実施要項には馬の貸与条件と抽選方法、競技の実施条件を明確に記載しなければならない。もし上記1～4の条件の変更が予想される場合は、FEI 事務総長の承認

が必要である。

6. 競技に出場する馬が国内馬のみで、FEI が認めた書面にてそれらの馬の識別が明らかにできる場合は FEI パスポートを必要としない。

第 13 章 獣医検査とホースインスペクション、馬の薬物規制とパスポート

第 280 条 獣医検査、ホースインスペクション、パスポート査閲

(以前の付則7から移動)

ホースインスペクション、獣医検査、パスポート査閲は獣医規程第1010条と第1011条、および以下の条項に則って行わなければならない。

1. 到着時の検査とパスポート査閲

獣医検査とパスポート査閲は、獣医規程第1010条4と第1011条2に則って行わなければならない。

パスポートに著しい不備がある場合は、獣医規程第1010条4と第1010条5を参照のこと。

注記：競技会あるいは競技への出場を特定年齢の馬に限定している場合は、パスポート詳細確認にて、馬の年齢を点検しなければならない。

2. ホースインスペクション

- 2.1. ホースインスペクションは、第1競技が開催される前日の午後までに行わなければならない。チーム監督と／あるいは馬の管理責任者は、インスペクション・プログラムで指定された時刻に自分の馬を臨場させてインスペクションを受けられるよう、準備しなければならない。関係者に対して不必要な遅れを生じさせないように、プログラムは第1競技の2日前までに事務局で準備し、配布できる状態にあるべきである。

- 2.1.1. 状況により、競技場審判団はその判断で獣医師代表と協議の上、例外的かつ予期せぬ状況により最初のホースインスペクションに臨場できなかった馬を対象に、所定のインスペクションよりも遅い時点でもう一度ホースインスペクションを行うことを認める場合がある。

- 2.2. FEI ワールドカップ™ ファイナル、世界選手権大会、シニア大陸選手権大会、オリンピック大会では、最終競技開始の前に2回目のホースインスペクションが予定される。

- 2.3. 各馬とも水勒か大勒をつけてインスペクションに臨ませなければならない。その他、馬着やバンテージなどの馬具や装具は外さなければならない。これについては例外を認めない。

- 2.4. いかなる方法にせよ、ペイントや染料で馬の特徴を隠してインスペクションに臨ませてはならない。
- 2.5. チーム監督は、グルームと／あるいは選手とともにチーム馬に付き添わなければならない。
- 2.6. 個人選手の馬については、馬の管理責任者（選手）がグルームとともに付き添わなければならない。
- 2.7. FEI ワールドカップ™ ファイナル、選手権大会、オリンピック大会では、選手が自馬を引いてホースインスペクションに臨まなければならない。チーム監督あるいは選手から要請があれば、審判長はこの規則を緩和することがある。
- 2.8. ホースインスペクションは細部に至る獣医検査ではなく（獣医規程第1011条も参照）、できるだけ速やかに終了させるべきであることを強調したい。
3. 競技場審判団、上訴委員会、獣医師代表団の連携
- 3.1. 薬物規制のための検体採取馬の選択（獣医規程第1016条を参照）
- 3.2. FEI ワールドカップ™ ファイナル、世界選手権大会、シニア大陸選手権大会、オリンピック大会では、確実に以下の検体を分析に回せるよう、ルーチンとして十分な頭数の馬から検体採取を行わなければならない。：
 - 3.2.1. すべての個人決勝競技では、上位3頭の馬
 - 3.2.2. 団体障害馬術競技の決勝では、上位3チームの各々から1頭

第281条 馬の薬物規制

馬の薬物規制は、一般規程と獣医規程、馬ドーピング防止および規制薬物規程、他の FEI 諸規程に則って行わなければならない。

第282条 馬のパスポートと個体識別番号

1. 馬のパスポート要件（一般規程第137条、獣医規程第1010条2を参照）
2. 各馬は到着時に組織委員会から交付される個体識別番号を、競技会開催中を通して装着しなければならない。

この個体識別番号は当該馬が厩舎を離れる際には常時装着し、スチュワードを含む全役員が各馬を確認できるようにすることが義務づけられる。この個体識別番号をはっきり表示していない場合、最初は警告が発せられるが、繰り返し違反した場合は競技場審判団または上訴委員会によって当該選手に罰金が科せられる（障害馬術規程第240条1.8を参照）。

付則1 FEI 名誉バッジ

1. ネーションズカップ競技の第1ラウンド、オリンピック大会の団体競技と／あるいは個人競技、世界およびシニア大陸団体と／あるいは個人選手権大会を、棄権もしくは失権することなく完走した選手に対して、FEI 障害馬術名誉バッジが次の基準で授与される：
 - (i) 40回のネーションズカップ競技を完走した者には金バッジ
 - (ii) 20回のネーションズカップ競技を完走した者には銀バッジ
 - (iii) 10回のネーションズカップ競技を完走した者には銅バッジ
2. 以下はすべて5回のネーションズカップ競技としてカウントされる：
 - (i) オリンピック大会における団体競技と／あるいは個人競技
 - (ii) 団体と／あるいは個人世界選手権大会
 - (iii) 団体と／あるいは個人大陸選手権大会
 - (iv) パン - アメリカン大会における団体競技と／あるいは個人競技
 - (v) アジア大会における団体競技と／あるいは個人競技

付則 2 規定タイムの計算

速度：300m／分

10の位	m	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
100の位	1	20秒	22秒	24秒	26秒	28秒	30秒	32秒	34秒	36秒	38秒
	2	40秒	42秒	44秒	46秒	48秒	50秒	52秒	54秒	56秒	58秒
	3	60秒	62秒	64秒	66秒	68秒	70秒	72秒	74秒	76秒	78秒
	4	80秒	82秒	84秒	86秒	88秒	90秒	92秒	94秒	96秒	98秒
	5	100秒	102秒	104秒	106秒	108秒	110秒	112秒	114秒	116秒	118秒
	6	120秒	122秒	124秒	126秒	128秒	130秒	132秒	134秒	136秒	138秒
	7	140秒	142秒	144秒	146秒	148秒	150秒	152秒	154秒	156秒	158秒
	8	160秒	162秒	164秒	166秒	168秒	170秒	172秒	174秒	176秒	178秒
	9	180秒	182秒	184秒	186秒	188秒	190秒	192秒	194秒	196秒	198秒

速度：325m／分

10の位	m	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
100の位	1	19秒	21秒	23秒	24秒	26秒	28秒	30秒	32秒	34秒	36秒
	2	37秒	39秒	41秒	43秒	45秒	47秒	48秒	50秒	52秒	54秒
	3	56秒	58秒	60秒	61秒	63秒	65秒	67秒	69秒	71秒	72秒
	4	74秒	76秒	78秒	80秒	82秒	84秒	85秒	87秒	89秒	91秒
	5	93秒	95秒	96秒	98秒	100秒	102秒	104秒	106秒	108秒	109秒

6	111秒	113秒	115秒	117秒	119秒	120秒	122秒	124秒	126秒	128秒
7	130秒	132秒	133秒	135秒	137秒	139秒	141秒	143秒	144秒	146秒
8	148秒	150秒	152秒	154秒	156秒	157秒	159秒	161秒	163秒	165秒
9	167秒	169秒	170秒	172秒	174秒	176秒	178秒	180秒	181秒	183秒

速度：350m／分

10の位	m	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
100の位	1	18秒	19秒	21秒	23秒	24秒	26秒	28秒	30秒	31秒	33秒
	2	35秒	36秒	38秒	40秒	42秒	43秒	45秒	47秒	48秒	50秒
	3	52秒	54秒	55秒	57秒	59秒	60秒	62秒	64秒	66秒	67秒
	4	69秒	71秒	72秒	74秒	76秒	78秒	79秒	81秒	83秒	84秒
	5	86秒	88秒	90秒	91秒	93秒	95秒	96秒	98秒	100秒	102秒
	6	103秒	105秒	107秒	108秒	110秒	112秒	114秒	115秒	117秒	119秒
	7	120秒	122秒	124秒	126秒	127秒	129秒	131秒	132秒	134秒	136秒
	8	138秒	139秒	141秒	143秒	144秒	146秒	148秒	150秒	151秒	153秒
	9	155秒	156秒	158秒	160秒	162秒	163秒	165秒	167秒	168秒	170秒

速度：375m／分

10の位	m	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
100の位	1	16秒	18秒	20秒	21秒	23秒	24秒	26秒	28秒	29秒	31秒
	2	32秒	34秒	36秒	37秒	39秒	40秒	42秒	44秒	45秒	47秒
	3	48秒	50秒	52秒	53秒	55秒	56秒	58秒	60秒	61秒	63秒

4	64秒	66秒	68秒	69秒	71秒	72秒	74秒	76秒	77秒	79秒
5	80秒	82秒	84秒	85秒	87秒	88秒	90秒	92秒	93秒	95秒
6	96秒	98秒	100秒	101秒	103秒	104秒	106秒	108秒	109秒	111秒
7	112秒	114秒	116秒	117秒	119秒	120秒	122秒	124秒	125秒	127秒
8	128秒	130秒	132秒	133秒	135秒	136秒	138秒	140秒	141秒	143秒
9	144秒	146秒	148秒	149秒	151秒	152秒	154秒	156秒	157秒	159秒

速度：400m／分

10の位	m	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
100の位	1	15秒	17秒	18秒	20秒	21秒	23秒	24秒	26秒	27秒	29秒
	2	30秒	32秒	33秒	35秒	36秒	38秒	39秒	41秒	42秒	44秒
	3	45秒	47秒	48秒	50秒	51秒	53秒	54秒	56秒	57秒	59秒
	4	60秒	62秒	63秒	65秒	66秒	68秒	69秒	71秒	72秒	74秒
	5	75秒	77秒	78秒	80秒	81秒	83秒	84秒	86秒	87秒	89秒
	6	90秒	92秒	93秒	95秒	96秒	98秒	99秒	101秒	102秒	104秒
	7	105秒	107秒	108秒	110秒	111秒	113秒	114秒	116秒	117秒	119秒
	8	120秒	122秒	123秒	125秒	126秒	128秒	129秒	131秒	132秒	134秒
	9	135秒	137秒	138秒	140秒	141秒	143秒	144秒	146秒	147秒	149秒

付則3 ノックアウト競技

(障害馬術規程第272条を参照)

走行のスターティングオーダー (予選競技のスターティングオーダーに従う)



1st

8th

5th

4th

3rd

6th

7th

2nd

付則4 計時器とスコアボードの要件

1. 審判員席およびスコアボードに関するディスプレイ要件

1.1. 審判員席から見えること

- 45秒のカウントダウン（0になった時点で走行タイムの開始）
- 経過時間（フィニッシュタイムからスタートタイムを差し引いたもの）
- 規定タイム
- 規定タイム超過によるタイム減点
- タイム修正（拒止に伴い障害物を壊したことによる6秒）。6秒のタイム修正は、時計が再スタートされ、選手が走行を再開した時点で直ちに加算される。
- 障害物での過失（基準A）
- 過失は秒に換算され、直ちに経過時間に加算される（基準C）
- 合計タイム

1.2. 少なくとも次の情報はスコアボードに表示しなければならない。

1.2.1. CSI1*、CSI2*、CSIO1*、CSIO2*、CSIO3*、CSI-Am / V / Y / J / P / Ch では、

- アルファベットで9文字以上の表示
- 45秒のカウントダウン
- 経過時間
- 過失
- 走行中の馬の番号

1.2.2. CSI3*、CSIOV / Y / J / P / Ch では、上記項目すべてに加えて：

- アルファベットで20文字以上の表示
- 馬名
- 選手名
- 国籍

1.2.3. CSI4*、CSI5* では、上記項目すべてに加えて：

- 暫定順位
- 上位者のスコアとタイム
- できれば暫定上位5選手の成績表示

1.2.4. CSI04* / CSI05* / 大会 / 選手権大会では、上記項目すべてに加えて：

- ネーションズカップの特別要件
- 全チームの選手名とスコア

- 第1ラウンドと第2ラウンドでチーム成績にカウントされないスコアの表示
- 選手が入場してきた時に、他のチームメンバー成績を表示。各チームの成績を表示するかは任意である。

2回走行競技の場合：

- 第2ラウンド：第1ラウンドでの減点を表示
- 第2ラウンド：順位にタイムが関わる場合は第1ラウンドでのタイム
- 第2ラウンド：順位にタイムが関わる場合は合計タイム（第1ラウンドと第2ラウンド）
- 第2ラウンド：両走行の減点合計

1.3. 認可されているシステム

- タイマーと電光管（フォトセル）の接続はワイヤレスでもよい。タイマーからはワイヤで処理システムへ接続される。
- 大会、選手権大会、他の競技会の場合、電光管（フォトセル）をワイヤで同期式時刻管理タイマーに接続するのは任意である。
- CSI4* と CSIO4* 競技会、および高いカテゴリーの競技会では、スプリットタイミングシステムの使用が義務付けられている。

2. FEI 障害馬術競技会での計時

FEI カレンダーに掲載されている障害馬術競技会ですべて、FEI が承認した電子タイマー、電光管（フォトセル）、ワイヤレス送信装置を使用しなければならない。これら承認された機器のリストはFEI ウェブサイトに公表されている。FEI 承認リストにあるもの以外のタイマー機器を使用する競技会は、FEI 審査の対象とはみなされない。タイマーの仕様詳細と手順については、FEI ウェブサイトに公表されている国際障害馬術競技会のメモランダムに一層詳しく記載されている。

2.1. FEI 障害馬術競技会での計時

2.1.1. センサーでの計時

電子タイマーでは、馬がスタートラインあるいはフィニッシュラインを通過して、電光管（フォトセル）の間の光線を切った時にタイムがとられる。タイムは馬の胸でとるものとする。選手が馬を追い込んで頭からラインを通過した場合でも、修正は行わない。手動計時の場合も、上述のようにタイムをとる。センサーの高さは、スタートラインとフィニッシュライン地点で同じでなければならない。

基準時間が電光管（フォトセル）とともに使用される場合、連動あるいは個々で使う場合でも、日時をセットし、各競技開始前にメイン時計と同期させなければならない。日時の同期は競技会開始の60分前に行い、競技会期間中を通して維持されなければならない。

2.1.2. 手動計時

手動計時は、電子タイマーから完全に分離しており単独であって、FEI カレンダーに掲載されているすべての競技において使用しなければならない。スタートとフィニッシュの両地点に配備され、少なくとも1/100 (0.01) の

精度で時間を表示できるストップウォッチあるいはバッテリー式手動計時装置が、適正手動計時機器として認定される。記録された手動タイム（自動あるいは手書）の印刷記録は、直ちにスタート地点及びフィニッシュ地点で確認できなければならない。走行に要した経過時間は、スタートタイムとフィニッシュタイムとの数値比較で求める。手動計時によるタイムは、修正計算を経たうえで公式成績に採用できる。

2.1.3. 手動計時修正の計算

タイムが記録されなかった選手よりも前に出場している選手5名とその後の選手5名、あるいは必要に応じて出場順番の近い選手10名の電子計時タイムと手動計時タイムの差を計算する。10名分の時間差を10で割って修正値を求め、電子計時タイムがとれなかった選手の手動計時タイムに適用しなければならない。

2.1.4. 計時装置内での時間修正

公認のタイムプリンターが、選手の走行タイムの手動入力あるいは修正ができる場合には、修正を行なったタイムの箇所すべてに、修正を行っていることを示す何らかの印（星、アスタリクスなど）をつけ、手動入力が行われたことを表示しなければならない。

2.1.5. タイムのプリントアウト

プリンターで印刷された公式タイム用紙は外国人審判員に渡し、確認を受ける。競技会の組織委員会は競技会の公式承認がおりるまで、あるいは計時や競技会成績に関わる上訴が決着するまで、これらを管理する。完全なバックアップ・システムが求められる競技会でも、これを適用する。外国人審判員は成績書式およびFEIへの報告書に署名し、競技会を承認したことを明示しなければならない。システムA、システムB、および手動タイムの印字記録はすべて、組織委員会が競技会終了後3ヶ月間、あるいは計時や競技会成績に関わる上訴が決着するまで、保管しなければならない。

2.1.6. タイム表示

主催者は選手全員の公式タイムを常時提示できる適正な設備を提供するものとする。

2.2. オリンピック大会と世界選手権大会での計時

2.2.1. 電子タイマー

オリンピック大会と世界選手権大会では、それぞれ同期された2台のタイマーシステム及びプリンターが使用される。タイマーはスタート地点とフィニッシュ地点の電光管（フォトセル）に直接接続され、実際の時刻とリンクして機能しなければならない。競技会開始前に、そのうちの片方をシステムA（メイン・システム）とし、他方をシステムB（バックアップ・システム）として指定する。スタート地点とフィニッシュ地点に置く各システムの電光管（フォトセル）は両者とも同じように配置し、いかなる場合も0.5m以内で物理的に可能な限り近づけて置かなければならない。

すべての時刻は、少なくとも1/1000（0.001）の精度で、瞬時にかつ自動及び連続的に専用接続、あるいは統合されたプリンターで印字紙に記録しなければならない。両システムとも、スタートタイムとフィニッシュタイムの

数値比較による経過時間計算ができるよう、タイムデータを装備していなければならない。走行タイムの計算後、タイムは1/100秒までに切捨てる。各選手の最終走行成績は、1/100 (0.01) の精度で表示する。

最終成績に採用するタイムはすべてシステムAからのデータでなければならない。メインの電子計時システム（システムA）で計時できなかった場合は、システムBで計算された経過時間を上記と同じ手順を経て採用しなければならない。経過時間計算にシステムBの時刻をシステムAに代えて採用することは認められない。システムAあるいはシステムBからも経過時間を算出できない場合については、2.3.2.1に定める手動計時による計算値を有効とみなす。

すべての競技会において、システムAはこれに呼応するA電光管（フォトセル）に接続しなければならない。システムBはシステムAとは別に、B電光管（フォトセル）へ接続しなければならない。

図解と、スタートラインおよびフィニッシュラインの設定に関しては、FEI ウェブサイトに公表されている国際障害馬術競技会のメモランダムを参照のこと。

タイマーシステムの同期は、各競技会開始から60分前までの間に行わなければならない。各競技会の期間中は毎日、全システムの同期が継続されてなければならない。競技中はタイマーの再同期をさせてはならないが、競技と競技の間であれば再同期できる。

他の大会や選手権大会すべてにおいて、同様のシステム適用が強く推奨される。

2.2.2. 電光管（フォトセル）

オリンピック大会と世界選手権大会では、FEI が承認した2基の電光管（フォトセル）システムが必要であり、スタートラインとフィニッシュラインに設置する。どちらの設置場所においても、片方をシステムAに接続し、他方はシステムBに接続する。電光管（フォトセル）とワイヤレス・インパルス送信システムに関する手順と規程は、FEI 計時小冊子に記載されている。

2.2.3. 手動計時

これについては2.1.2を参照のこと。ストップウォッチあるいはバッテリー式手動計時器を使用する場合は、各競技会の開始前に同期させなければならず、できればシステムAとシステムBと同じ時刻を使用する。

2.2.4. 全 FEI 競技会におけるワイヤレス計時器

FEI 障害馬術競技会が行われるアリーナでは、ワイヤレス・インパルス送信システムの使用が重要であることを FEI は認識しており、設置の簡素化と現代障害馬術の機能性を促進するため、このシステムの採用を奨励している。しかし、どのようなワイヤレスシステムも、有線接続されたタイマーとフォトセルの場合より不具合が生じやすいことに留意するべきである。

付則5 コースデザイナーの昇格

（付則12より移動、付則5と改める）

FEI ウェブサイトに公表されている FEI コースデザイナー（障害馬術）の教育システムを参照のこと。

コースデザイナーの以前のカテゴリは以下の通りに変更された：

- (i) 国内コースデザイナー = レベル1
- (ii) 国際コースデザイナー補 = レベル2
- (iii) 国際コースデザイナー = レベル3
- (iv) 公認国際コースデザイナー = レベル4

付則6 審判員の昇格

（付則13より移動、付則6と改める）

FEI ウェブサイトに公表されている FEI 審判員（障害馬術）の教育システムを参照のこと。

既存の審判員カテゴリは以下の通りに変更された：

- (i) 国内審判員 = レベル1
- (ii) 国際審判員補 = レベル2
- (iii) 国際審判員 = レベル3
- (iv) 公認国際審判員 = レベル4

付則7 スポンサー付きチームの登録

(付則11より移動、付則7と改める)

政治団体あるいは宗教団体以外の組織、あるいは企業は、3名以上の選手で構成するチームに資金助成を行い、スポンサー付きチーム対象の特別競技や個人順位を競う競技に参加させることができる。スポンサー付きチームの各メンバーは、チームがその傘下で競技に出場する組織あるいは企業と、コマーシャル合意書を取り交わさなければならない。

スポンサー付きチーム競技の開催条件や要件詳細は、実施要項に記載される。

スポンサー付きチーム競技はネーションズカップ競技と呼ぶことはできず、またいかなるネーションズカップ方式も採用することはできない。

この種の競技に出場するチーム選手については、国名に関わる記載を一切省いて氏名とチーム名のみでスポンサー付きチーム競技に掲載される。

スポンサー付きチームおよびアスリート・ツアー・チームは、FEI登録が行われており、年間登録料が支払われている限りはいかなる国際競技にも参加できる。年間登録料は選手4名までのチーム構成で10,000スイスフランである。

チームへの追加選手は1名につき年間1,000スイスフランを支払うこと。この金額にはスポンサー付きチーム・ジャケットの認定料が含まれている。

スポンサーチーム競技はCSIO競技会、CSI-W競技会、あるいは選手権大会のプログラムに含めることはできない。

付則 8 オリンピック大会、世界馬術選手権大会、大陸選手権大会への出場資格認定手順

1. NF はチームまたは個人選手を参加させる意思を、指定期日までに書面にて FEI へ申告しなければならない。オリンピック大会の場合を除き、選手と馬はコンビネーションで出場資格を取得する必要はない。
2. オリンピック大会については、選手／馬はオリンピック大会が行われる前年1月1日からノミネートエントリー期限、あるいは FEI が指定した期日までに出場最低基準を満たさなければならない。オリンピック大会における FEI 馬術競技会規程を参照のこと。
3. 世界選手権大会については、以下のいずれかの項目に応じた成績を満たした者が能力証明を取得できる：
 - 3.1. 前回のヨーロッパ選手権大会、世界選手権大会、パン - アメリカン大会、オリンピック大会、あるいは他のシニア大陸選手権大会にて団体競技（第1ラウンドか第2ラウンド）の成績が減点8以内であった選手と馬。
 - 3.2. 前回の世界選手権大会の第3競技、あるいは前回のヨーロッパ選手権大会、パン - アメリカン大会、オリンピック大会、もしくは他のシニア大陸選手権大会の個人決勝競技にて完走した選手と馬。
 - 3.3. 指定の FEI 屋外ワールドカップ™ 競技会において、2回の FEI ワールドカップ™ 予選競技の第1ラウンドにて減点0であった選手と馬。
 - 3.4. 指定の CSI3* 屋外競技会において、2回のグランプリ競技の第1ラウンドにて減点0であった選手と馬。
 - 3.5. CSI4* 屋外競技会において、グランプリ競技の第1ラウンドの成績が減点4以内であった選手と馬。
 - 3.6. CSI5* 屋外競技会において、グランプリ競技の第1ラウンドの成績が減点8以内であった選手と馬。
 - 3.7. 指定の CSIO 屋外競技会において、ネーションズカップ競技の第1ラウンドの成績が減点4以内であるか、第2ラウンドが減点0であった選手と馬、もしくは同競技会でグランプリ競技の第1ラウンドの成績が減点4以内であった選手と馬。
ただし、これらの競技のコースは下記の6. に定める規格に準拠して構築されている場合とする。これらの競技のコース図は FEI へ送付し、競技会前に承認を受けなければならない。
 - 3.8. CSIO5* 屋外競技会において、ネーションズカップ競技の第1ラウンドか第2ラウンドの成績が減点8以内であるか、あるいは同競技会でグランプリ競技の第1ラウンドの成績が減点8以内であった選手と馬。

4. 大陸選手権大会については、以下のいずれかの項目に応じた成績を満たした者が能力証明を取得できる：
 - 4.1. 前回のヨーロッパ選手権大会、世界選手権大会、パン - アメリカン大会、オリンピック大会、あるいは他のシニア大陸選手権大会においてチーム戦（第1ラウンドまたは第2ラウンド）の成績が減点8以内であった選手と馬。
 - 4.2. 前回の世界選手権大会の第3競技、あるいは前回のヨーロッパ選手権大会、パン - アメリカン大会、オリンピック大会、もしくは他のシニア大陸選手権大会の個人決勝競技を完走した選手と馬。
 - 4.3. 指定の FEI 屋外ワールドカップ™ 競技会において、2回の FEI ワールドカップ™ 予選競技の第1ラウンドにて減点0であった選手と馬。
 - 4.4. 選手と馬は、指定の CSI3* 屋外競技会におけるグランプリ競技の第1ラウンドを減点0で完走していなければならない。
 - 4.5. 選手と馬は、CSI4* あるいは CSI5* 屋外競技会にてグランプリ競技の第1ラウンドを減点8以内で完走していなければならない。
 - 4.6. 指定の CSIO 屋外競技会において、ネーションズカップ競技の第1ラウンドか第2ラウンドの成績が減点4以内であるか、もしくはグランプリ競技の第1ラウンドの成績が減点4以内であった選手と馬。ただし、これらの競技のコースは下記の6. に定める規格に準拠して構築されている場合とする。これらの競技のコース図は FEI へ送付し、競技会前に承認を受けなければならない。
 - 4.7. CSIO5* 屋外競技会において、ネーションズカップ競技の第1ラウンドか第2ラウンドの成績が減点8以内であるか、もしくは同競技会でグランプリ競技の第1ラウンドの成績が減点8以内であった選手と馬。
5. 上記の CSI および CSIO 競技会は、大会もしくは選手権大会が行われる前年1月1日からノミネートエントリー期限までに、あるいは FEI が指定した期日までに行われる競技会の中から指定する。競技会リストは、オリンピック大会または FEI 選手権大会の行われる前年に FEI が発表する。
6. 指定のネーションズカップ、グランプリ競技、および FEI ワールドカップ™ 予選競技は次の条件を満たさなければならない：

高さが1.40m～1.60mまでの障害物を12個以上で構成すること。踏切部分を含めて3.50mの水濠障害を設けなければならない（水濠障害の構築については、障害馬術規程第211条1を参照）。幅障害は1.50m～2.00m（トリプルバーでは2.20m）の幅がなければならない。高さが1.60m以上の垂直障害を2個以上、設置しなければならない。

7. CSIO に完全なチームを派遣できない NF は、ネーションズカップ競技に「オープン参加(hors concours)」として出場が認められる個人選手を参加申込できる。
8. 例外的に、NF が上記の方法で選手の出場資格を得ることが難しいと判断した場合、当該 NF 経費負担による外国人査定代表の派遣を FEI へ要請し、FEI プロトコルに準拠し、FEI 提供のコース図に示された障害物規模で1回走行を行う特別資格認定競技にて、実力レベルの査定を受けることができる。この走行で減点8以内の選手／馬は出場資格ありとみなされる。障害馬術委員会が任命した FEI 外国人査定代表は、能力証明書を発行するにあたり、NF と FEI に対して助言を行う。もし不運にも選手／馬コンビネーションが減点8を超えてしまったものの、走行で素晴らしい能力を示した場合は同外国人代表が類似したコースでの再走行を許可する場合がある。しかし、2回目の走行でも減点8点を超えた場合は資格を認定されない。
9. ネーションズカップと CSI3* /4* /5* のグランプリ競技では、外国人審判員が指定の規格でコースが造られているかを確認する責務を負い、また FEI への外国人審判員報告書にて、能力証明を獲得するための最低基準が満たされていたことを確認する。
10. 選手と馬の能力証明書は遅くともノミネートエントリー期限、あるいは FEI が指定した期日までに FEI へ到着しなければならない。能力証明書が届いていない選手と馬は出場が認められない。
11. 直接あるいは間接的に本付則と／あるいは障害馬術種目のいずれかの特別規則で定める「オープン参加 (hors concours)」については、一般規程第117条5に記載の例外条項に準拠する。
12. 外国人査定代表による報告書は FEI 事務総長に送付され、同事務総長はそのコピーを障害馬術委員長へ送るものとする。資格が与えられた選手と馬については、FEI が直ちにその所属 NF へ連絡を行う。

付則9 ヤングライダーとジュニア規程

第1章 緒言

第1条 概要

1. ヤングライダーおよびジュニアの参加は世界の馬術競技の発展に重要な要素である。

以下に定める付則の目的は、ヤングライダーとジュニアに特化した問題点を斟酌し、ヤングライダーとジュニアを対象とする世界の競技会や競技を規格統一することにある。

第2条 諸規程の優先性

1. ヤングライダーあるいはジュニア対象の障害馬術競技会は、概ねシニア対象の障害馬術規程を採用して開催される。
2. 本付則に網羅されていない事項についてはすべて、定款、一般規程、獣医規程、障害馬術規程、該当する他の FEI 諸規程を適用する。

第3条 ヤングライダーとジュニアの定義

1. 選手は16歳となる暦年の始めから21歳となる暦年の終わりまで、ヤングライダーとして競技に出場できる。
2. 選手は14歳となる暦年の始めから18歳となる暦年の終わりまで、ジュニアとして競技に出場できる。
3. ヤングライダーもジュニアも、18歳まではプロフェッショナルとしてクラス分けされることはできない。

第2章 国際競技会と選手権大会

第4条 国際競技会（一般規程第102条を参照）

1. ヤングライダーとジュニアのための障害馬術競技会としては、以下の種類のものが開催される：国際競技会カテゴリー A とカテゴリー B（CSIY と CSIJ のカテゴリー A、および CSIY と CSIJ のカテゴリー B）、公式国際競技会（CSIOY あるいは CSIOJ）、選手権大会。
2. CSIY あるいは CSIJ のカテゴリー A 競技会は、それぞれヤングライダーおよびジュニア対象の選手権大会や CSIO の開催前2週間は行うことができない。ただし、この選手権大会あるいは CSIO の組織委員会による特別許可があり、FEI 事務総長の同意がある場合を除く。
3. CSIY あるいは CSIJ のカテゴリー A 競技会
 - 3.1. CSIY あるいは CSIJ のカテゴリー A 競技会は、主催 NF の個人選手、および参加 NF 数に制限を設けず諸外国からの個人選手を対象とする国際競技会である。
 - 3.2. 賞金額の制限はない。
 - 3.3. ヤングライダー対象の場合は障害物の高さを1.50mまでとし、幅は高さと同り合いをとり1.50m～1.80mの範囲とする。
 - 3.4. ジュニア対象の場合は障害物の高さを1.40mまでとし、幅は高さと同り合いをとり1.40m～1.70mの範囲とする。

その他の条件はすべて、シニアの CSI2* 競技会規則に従う。

「ネーションズカップ」と表記できない完全な非公式団体競技を、選手数1チーム4名に限定し、行うことが出来る。
4. CSIY あるいは CSIJ のカテゴリー B 競技会
 - 4.1. CSIY あるいは CSIJ のカテゴリー B 競技会は、主催 NF と諸外国から参加 NF 数の制限なしに個人選手を受け入れる国際競技会である。
 - 4.2. 賞金は授与できない。
 - 4.3. ヤングライダー対象の場合は障害物の高さを1.50mまでとし、幅は高さと同り合いをとり1.50m～1.80mの範囲とする。

ジュニア対象の場合は障害物の高さを1.40mまでとし、幅は高さと同り合いをとり1.40m～1.70mの範囲とする。
- 4.4. その他の条件はすべて、シニアの CSI1* 競技会規則に従う。
- 4.5. 「ネーションズカップ」と表記できない完全な非公式団体競技を、選手数1チーム4名に限定し、行うことが出来る。
5. 公式国際競技会（CSIOY と CSIOJ）（一般規程第103条を参照）
 - 5.1. CSIO はチームを派遣する3NF 以上を対象とする国際競技会である。
 - 5.1.1. CSIO 競技会への招待については、組織委員会が次のいずれかの方式を選択する：

— 本付則第13条2.1と第13条2.2に従う；あるいは

一 障害馬術規程第249条1に従う

- 5.2. 障害馬術規程に定める通り、公式団体競技と公式個人競技を開催しなければならない。
- 5.3. 第5条（FEI 選手権大会）に基づいて NF が招待される CSIO 競技会では、上記5.2 に定める公式競技を開催しなければならない。
- 5.4. 障害馬術規程第249条に基づいて NF が招待される CSIO 競技会では、公式団体競技と個人決勝競技を実施要項に盛り込まなければならない。これらの競技は障害馬術規程に定める通り、該当競技の特別規則に則って開催しなければならない。他の競技は CSIO 開催期間中に行い、競技会プログラムを完結させる。障害物の規模は、選手権大会で定める大きさを超えてはならない。
- 5.5. 各カテゴリーにて、同一国で一暦年中に開催できる CSIO は屋内で1回、屋外で1回の合計2回までとする。
- 5.6. CSIOY あるいは CSIOJ は、既に競技カレンダーに組み込まれているヤングライダーあるいはジュニア国際競技会の開催を妨げない場合に限り、FEI 事務総長の判断によって、その年のカレンダーへの組み込みを認められることがある。
6. 貸与馬による国際競技会
- 6.1. FEI 事務総長と FEI 障害馬術委員長の同意があれば、組織委員会が提供する馬を用いて、CSIY 競技会および CSIJ 競技会を開催することができる。
- 6.2. 一般規程第111条と障害馬術規程付則12第4条4に概要が記載されている貸与馬規則を適用しなければならない。
7. 併催競技

併催競技（ジュニアとヤングライダー両方を対象とした）を開催する場合は、ジュニア競技での障害物規格に関わる条項を適用するか、あるいはヤングライダーでは高さを上げる。

第5条 選手権大会

1. ヤングライダーあるいはジュニアを対象とする障害馬術選手権大会は、すべて CSIO のステータスを有する。選手権大会では、選手は一般規程第119条に定められる通り、自分のスポーツ国籍がある国の代表としてのみ出場することができる。
2. 障害馬術における大陸選手権大会と地域選手権大会を毎年開催するよう推奨し、また開催するべきである。
3. 選手権大会は大陸あるいは地域ごとに開催できる。地域で開催する場合は、事前に領域設定について FEI の承認を受けなければならない。

4. FEI は NF に対して、毎年各々の大陸あるいは地域での個人選手権大会、および団体選手権大会の開催を提案、あるいは認可する。
5. 選手権大会は一般規程、障害馬術規程、本付則を厳格に遵守し、またここに明記した通りに開催しなければならない。各 NF につき1チームのみ参加申込できる。
6. 選手権大会の開催を希望する NF は、一般規程に定める通り申請しなければならない。
7. 原則として、選手権大会は4NF 以上の参加があって初めて開催できる。ただしヨーロッパ域外では、(主催 NF を含め) 2NF 以上から不特定数の地域チームの参加があれば開催できる。選手権大会の開始前であっても、参加申込の締切り後に出場を取り止めた NF については、出場とみなされる。
8. ノンオープン選手権大会への参加は、該当する大陸にあるすべての NF に限定される。例外については一般規程第104条3.2を参照のこと。しかしながら、障害馬術委員会の合意をもって、選手権大会が行われる大陸に属さない NF からの参加申込が受諾される場合がある。ノンオープン・ヨーロッパ選手権大会では、ヨーロッパ域外からの NF 参加申込を障害馬術委員会が受諾するかは、当該選手権大会に受け入れできる人数的な余裕があるか否かによる。ノンオープン FEI ヨーロッパ選手権大会にヨーロッパ域外の NF から参加が認められた選手については、タイトルやメダルを受賞する権利はない。
9. 自国が属する大陸あるいは地域外で開催される選手権大会に参加する NF は、翌年、この選手権大会を自国が属する大陸あるいは地域で開催する権利はない。
10. 選手権大会は学校の長期休暇中に開催しなければならない(7月中旬から8月末)。
11. 選手権大会は天候により屋内での開催を余儀なくされる場合を除き、屋外で開催しなければならない。
12. 賞金が授与される場合を除き、参加申込料あるいは出場料を徴収してはならない。

第6条 国際競技会と選手権大会への出場資格

1. 地域大会とオリンピック大会では、選手は18歳の誕生日を迎える年から障害馬術競技に出場できる。しかしラテンアメリカ(中米と南米)では、選手は16歳の誕生日を迎える年からラテンアメリカの地域大会と地域選手権大会に出場できる。ただし、これらの選手権大会で使われる障害物の高さが1.40m以下の場合に限る。
2. オリンピック大会を除くすべての競技会において、ヤングライダーとジュニアは自分と国籍を異にする人物が所有する馬で参加することができる。
3. 諸外国に滞在している選手については、一般規程が定める制限と条件を適用する。

4. 一競技種目においてヤングライダーあるいはジュニアを対象とする選手権大会に出場しても、規定の年齢に達していれば異なる馬で別の種目のシニア選手権大会に出場することは可能である。
5. 一度、障害馬術のヤングライダー選手権大会に出場した選手は、障害馬術にてジュニア選手権大会に出場することはできなくなる。
6. 一度、障害馬術でシニア選手権大会、あるいは地域大会と／あるいはオリンピック大会に出場した選手は、障害馬術にてヤングライダーあるいはジュニアの選手権大会に出場することはできなくなる。しかしラテンアメリカ（中米と南米）では、規定の年齢に達している選手は、ラテンアメリカの地域大会と地域選手権大会に出場していても、その地域大会／選手権大会で使われる障害物の高さが1.40m以下の場合にはジュニア選手権大会にも参加できる。
7. ヤングライダーとジュニア対象の FEI ヨーロッパ障害馬術選手権大会へ参加するための能力証明書

国際競技に参戦している選手と馬であり、選手権大会で完走する能力があると思われる人馬のみ参加申込を行うことができる。そのため NF は FEI へ能力証明書を送付しなければならない（一般規程を参照）。

この能力証明書には、障害馬術規程に定める要件を満たしている競技で獲得した成績記録を記載しなければならない。

ここに定める資格認定手順は厳格に遵守しなければならない。選手と馬はコンビネーションで出場資格を取得する必要はない。

選手権大会の会場へ到着した時点で、選手と馬がコンビネーションで資格認定を受けているか否かに関わらず、チーム監督は任意で交代させることができる。選手権大会の第1競技以降は、いかなる変更も認められない。

ヨーロッパ・ヤングライダーおよびジュニア選手権大会については、選手と馬は次の条項のいずれかに則って出場資格を得ることができる：

- 7.1. 各々該当する年齢カテゴリーで、前年のヤングライダーおよびジュニア対象の FEI ヨーロッパ選手権大会に出場した選手と馬。
- 7.2. 選手と馬は、指定の CSI1* / CSI2* 屋外競技会あるいは CSI01* / CSI02* 屋外競技会にて、グランプリ競技の第1ラウンドを減点8以内で完走していなければならない。

選手は14歳の誕生日を迎える年から、CSI1* 競技会のグランプリに出場することができる。選手は16歳の誕生日を迎える年から CSI2* 競技会のグランプリに出場することができるが、最初の走行で使われる障害物の高さが1.45m以下の場合に限る（障害馬術規程第208条7と第255条を参照）。選手は18歳の誕生日を迎える年から、CSI01* 競技会と CSI02* 競技会のグランプリに出場することができる。

- 7.3. 選手と馬は、指定の CSI3* /4* /5* 屋外競技会にてグランプリ競技の第1ラウンド、もしくは CSI03* /4* /5* 競技会のネーションズカップあるいはグランプリ競技の第1ラウンドを減点8以内で完走していなければならない。

CSI3* /4* /5* 競技会のグランプリ競技、および CSI03* /4* /5* 競技会のネーションズカップとグランプリ競技への参加が認められるには、これらの競技会が開催される年に18歳以上となっていなければならない。

- 7.4. 選手と馬は、CSIY / J 屋外競技会の該当するカテゴリーで、グランプリ競技の第1ラウンドを減点8以内で完走していなければならない。
- 7.4. 選手と馬は、指定の CSIY / J 屋外競技会の該当するカテゴリーで、ネーションズカップ競技の第1ラウンドあるいは第2ラウンドを減点4以内で完走するか、もしくは自分のカテゴリーにおけるグランプリ競技の第1ラウンドを減点8以内で完走していなければならない。

例外として、NF が上記の方法で選手の出場資格を得ることが難しいと判断した場合、当該 NF の経費負担による外国人査定代表の派遣を FEI へ要請し、FEI プロトコルに準拠し、FEI 提供のコース図に示された規格で1回走行を行う特別競技にて、実力レベルの査定を受けることができる。この走行で減点8以内の選手／馬は出場資格ありとみなされる。障害馬術委員会が任命した外国人査定代表は、能力証明書を発行するにあたり、NF と FEI に対して助言を行う。もし予期せぬ状況により選手／馬のコンビネーションが減点8を超えてしまったものの、走行で素晴らしい能力を示した場合は、この人馬に対して同外国人査定代表が類似したコースでの再走行を許可する場合がある。しかし、2回目の走行でも減点8点を超えた場合は資格を認定されない。

競技の選定は当該競技会が開催される前年の1月1日からノミネートエントリー期限まで、あるいは FEI が指定した期日までに行われる競技会の中からとする。競技会リストは、当該選手権大会が開催される年とその前年に FEI ウェブサイトで発表される。

第7条 シニア競技会および他の選手権大会

1. ヤングライダーとジュニアは、14歳の誕生日を迎える年から、所属 NF の許可があれば一部のシニア国際競技へ出場することができる（障害馬術規程第255条を参照）。
2. ジュニア、ポニーライダー、あるいはチルドレンは、同一競技会で各々のカテゴリーおよびシニア対象の競技の両方に出場することはできない（障害馬術規程第255条を参照）。
3. 該当する年齢に達している選手は、2つ以上のカテゴリーで競技や選手権大会に出場できるが、各競技種目につき、大陸選手権大会に出場できるのは一暦年で

1カテゴリーのみとする。

第8条 経費と特典

1. 競技会

- 1.1. ヤングライダーあるいはジュニアを対象とする競技会の組織委員会は、ホテル、ユースホステルまたは個人家庭への宿泊と資金援助について招待選手の所属 NF と交渉すること、およびこれを提供することは自由である。

2. 選手権大会と CSIO

- 2.1. 各 NF はチーム監督と選手、グルーム、馬について、選手権大会および CSIO 競技会の開催地までの往復旅費を負担しなければならない。

- 2.2. 組織委員会については上記1.1に定める内容を適用するが、以下に示す最低限必要な項目は遵守しなければならない：

(i) 厩舎と飼料

原則として厩舎と飼料代は無償とするが、組織委員会が適正な金額を徴収したいとする場合は、その判断に任される。徴収する場合は実施要項に記載しなければならない。

- (ii) グルームはできるだけ厩舎近くに滞在できるようにする。

- (iii) 組織委員会は、選手とチーム監督に主たる食事を1日1回、できれば夕食を（競技会場かその他の場所にて）無償で提供しなければならない。

- (iv) 宿泊を無償で提供できない場合は適切な宿泊施設を手配するか推薦し、料金については実施要項に記載する。

- (v) 一般規程第132条1（馬の所有者）を適用する。

- (vi) 主催国の国境と／あるいは競技会場への出入りに関する手数料や獣医検査は組織委員会が手配し、その費用を負担する。

- 2.3. 役員については一般規程を適用する。

3. 特典はすべて、CSIO および選手権大会開催の前日から終了の翌日まで供与される。

4. チーム監督は競技会開催期間を通して、そのチームと／あるいは個人選手の行動に責任を負う。損害が生じた場合は、チーム監督とその所属 NF が責任を負う。選手が個人家庭に宿泊しない場合は、チーム監督がそのチームと／あるいは個人選手と同宿しなければならない。

5. 上訴委員会は事故の損害額を査定する権限を有する。競技場審判団と／あるいは上訴委員会は、容認しがたい行為について競技会期間中を通してどの時点であつ

ても、FEI 司法制度に従って罰金を科し、またそのチームと／あるいは個人選手を失格とする権限を有する。

第9条 褒 賞

1. ヤングライダーとジュニア競技会では、賞金と／あるいは賞品を授与しなければならない。
2. 選手権大会を除くすべての競技会において、賞金がでない場合はその出場選手の4分の1、少なくとも第5位までの選手にリボンと賞品、あるいは記念品を授与しなければならない。上位4名の個人選手には厩舎プレートを授与することが望ましい。
3. 選手権大会では少なくとも次のような賞を授与しなければならない：
 - 3.1. フェアウェル競技では、その出場選手の4分の1、少なくとも第5位までの選手に賞金と／あるいは賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。
 - 3.2. 団体選手権競技では FEI メダルをチームメンバーに授与する（一般規程第104条2.2.4を参照）。優勝したNFへは、総会にてFEI トロフィーを授与する。更に上位4チームには、各選手に賞金と／あるいは賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。
 - 3.3. 個人選手権競技では FEI メダルを授与する（一般規程第104条2.2.4を参照）。更に出場選手の4分の1、少なくとも第5位までの選手に賞金と／あるいは賞品、厩舎プレート、リボンを授与する。
 - 3.4. 選手権大会では、表彰式に大変重要な意味合いをもたせ、アリーナで行うべきであり、選手は馬に騎乗して臨む。
 - 3.5. 組織委員会はチーム監督と選手に、記念品か厩舎プレートを進呈することとする。
 - 3.6. 組織委員会はこの他にも、次のような賞をできるだけ多く授与するべきである：
 - 3.6.1. ベストスタイルの選手（下記の3.6.2と3.6.3のような区分けも可能）
 - 3.6.2. 優秀な少女選手
 - 3.6.3. 優秀な少年選手
 - 3.6.4. スポーツマンシップ

第10条 馬の調教

1. 競技会あるいは選手権大会の第1競技が行われる前日の18:00から、競技会あるいは選手権大会全体が終了するまで、選手の馬は競技会あるいは選手権大会の開催地内外で選手以外の者が騎乗して調教してはならない。これに違反した

場合は失格となる。しかし選手以外の人物が、スチュワードの監視下で調馬索運動や引き運動などを行うことは認められる。

第 1 1 条 技術代表

1. 選手権大会と国際競技会（技術代表が任命される場合）における技術代表は、一般規程が定める責務に加えて、参加者のウェルフェアおよびスポーツマンシップとフェアプレイの精神を高めるという使命を常に念頭におきつつ、設備がすべて適切なものであり、参加者の態度も正当であって、最大限の注意を払いつつ社会教育的機能も果たされていることを確認する責任と権限を有する。

第 1 2 条 実施要項

1. 組織委員会は次の情報を記載した実施要項を準備しなければならない：
 - 1.1. 競技会の種類
 - 1.2. 個人競技についての説明
 - 1.3. 授与される賞とトロフィー
 - 1.4. 障害物の高さと幅
 - 1.5. 使用される障害物の種類
 - 1.6. 審判員、技術代表、コースデザイナーなどのリスト
 - 1.7. 競技プログラム
 - 1.8. 行事プログラム
 - 1.9. ホテルあるいは個人家庭などへのチーム監督と選手の宿泊
 - 1.10. 組織委員会を通さず直接予約できるホテルのリストを含む、選手の親に対する手配
 - 1.11. グルールの宿泊
 - 1.12. 厩舎
 - 1.13. 地域の交通手段手配
 - 1.14. 到着日と出発日。この期日以外では経費が支払われない。
 - 1.15. その他、パスポートやビザの要件、気候、必要な衣服の種類などの有用情報

2. ヤングライダーとジュニア対象の選手権大会、CSIO および CSI カテゴリー A 競技会については、競技会開催の16週間前までに実施要項ドラフトを FEI へ送付し、承認を受けなければならない。
3. ヤングライダーとジュニア対象の CSI カテゴリー B 競技会の実施要項ドラフトについては、NF の承認を受けなければならない。承認を得た実施要項は、そのコピーを競技会開催の4週間前までに FEI へ送付しなければならない。
4. 実施要項については、競技会や選手権大会開始の遅くとも8週間前までに、そのコピーを数部ずつすべての NF へ送付しなければならない。
5. 実施要項に関する詳細について、組織委員会は FEI ドラフトスケジュールを参照するものとする。

第3章 大陸選手権大会と地域選手権大会

第13条 参加申込

1. FEI 障害馬術部門ディレクターから実施要項の承認を受けた後、主催 NF はその実施要項とともに招待状を大陸あるいは地域の該当する NF へ送付する。
2. チーム
 - 2.1. 各 NF は選手5名、馬5頭以内の構成で1チームを参加申込できる。しかしヨーロッパ域外においては、関連する諸々の NF がチーム数、およびチーム派遣の地域ベースを決定できる（本付則第5条7を参照）。組織委員会はチーム監督に招待状を送付しなければならない、このチーム監督には選手と同様の特典を供与する。選手権大会へのリザーブ馬の入厩は認められない。
 - 2.2. この選手5名と馬5頭が、選手権大会の団体競技（本付則第14条1を参照）および個人競技に参加できる。
3. チームに代わる個人選手

チームを派遣できない NF は、1名あるいは2名の個人選手を各々1頭の馬とともに参加申込できる。

 - 3.1. NF は馬2頭につきグルームを1名、各チームにつき2名までのグルームを派遣することができる。
 - 3.2. 参加申込は一般規程に従い3段階に分けて行われる。
 - 3.3. 選手権大会の開催をオープンとするかノンオープンとするかは、FEI 理事会が決定する。選手権大会をオープン選手権大会とする場合は、大会開催地域あるいは大陸以外の NF から参加するチームと個人選手も、主催地域あるいは大陸内のチームや個人選手と同等の条件で選手権メダルとタイトルを競う。本付則第5条8を参照のこと。

第14条 出場選手の申告

1. チーム監督は団体競技前日の18:00までに、チーム構成（選手4名、馬4頭）を組織委員会へ書面にて申しなければならない。
2. チームメンバー4名のうち1名、または馬4頭のうち1頭が事故あるいは病気となった場合に限り、5組目（選手／馬）がチームメンバーとして出場できる。ただし、チーム監督が競技場審判団の承認を受けた場合とする。
3. 選手権大会が CSI の開催中に行われる場合、組織委員会は、選手権大会への出場選手が CSI 競技会の他の競技に参加することを認めることがある（前述の第7条）。しかし選手権大会で騎乗する馬は、競技会場へ到着する前に申しなければならない、また変更はできない。

第15条 年齢条件

1. 馬
 - 1.1. 馬は7歳以上でなければならない。
 - 1.2. ジュニア選手権大会に出場できるのは、その年にシニア対象の CSIO でネーションズカップあるいはグランプリ競技に出場していない馬とする。
 - 1.3. 選手権大会が行われる競技会の期間中に、シニア対象のいかなる競技にも出場していないこと。
2. 選手
 - 2.1. ヤングライダー選手権大会に出場できるのは、16歳となる年の始めから21歳となる年の終わりまでである。
 - 2.2. ジュニアは16歳となる年の始めから18歳となる年の終わりまで、ヤングライダー対象の選手権大会に出場できるが、同一年に同一種目でジュニア選手権大会とヤングライダー選手権大会の両方に参加することはできない（本付則第7条3を参照）。
 - 2.3. ジュニアは18歳となる年から、シニア対象の大陸選手権大会と世界選手権大会に出場できるが、同一年にジュニア選手権大会、ヤングライダー選手権大会と／あるいはシニア選手権大会に参加することはできない。しかしジュニアは16歳となる年から、ジュニア障害馬術選手権と CSIO および CSI で行われる一部のシニア国際競技へ同一年に出場することができる（障害馬術規程第255条を参照）。
 - 2.4. 18歳となる年およびそれ以降に、シニア対象の大陸障害馬術選手権大会あるいは世界障害馬術選手権大会に出場したジュニアは、ジュニアとして競技に参加することはできなくなる（本付則第6条6を参照）。

- 2.5. ヤングライダーは18歳となる年の始めから21歳となる年の終わりまで、シニア対象の選手権大会に参加することができるが、同一年に同一種目でシニア選手権大会とヤングライダー選手権大会両方に参加することはできない（本付則第7条3を参照）。

第16条 競 技

1. 次のいずれかの方式を採用しなければならない：

	A方式	B方式
1日目	トレーニング・セッション	トレーニング・セッション 第1次予選競技
2日目	第1次予選競技	団体競技
3日目	団体競技 フェアウェル競技	休養日（あるいは、2日目を 休養日にすることもできる）
4日目	フェアウェル競技 （3日目に行わない場合） 個人決勝競技	フェアウェル競技 個人決勝競技

- 1.1. 北米で行われるジュニアとヤングライダー合同選手権大会の場合、組織委員会
は上記のA方式あるいはB方式に代えて、次のC方式を採用することができる：

	C方式
1日目	トレーニング・セッション
2日目	第1競技（団体と個人）
3日目	第2競技（団体決勝、第2次個人競技）
4日目	強制休養日
5日目	第3競技（個人決勝）

2. トレーニング・セッション

組織委員会は、メインアリーナにコンビネーション障害1個を含む約8個の障害物でコースを設定し、トレーニング時間を設ける。

各選手とも馬1頭につき90秒まで使うことができる。服装は略式でよいが、長靴と乗馬ズボン、シャツ、硬質ヘルメットの着用が義務づけられる。

観客から入場料を徴収してはならず、またいかなる賞も授与してはならない。

3. 選手全員が出場できる、個人選手権へ向けた第1次予選競技

3.1. 第1次予選競技のスターティングオーダー

国籍にかかわらず、抽選で選手のスターティングオーダーを決定する。

3.2. ヤングライダー

この競技は基準 A のコースを使用し、基準 C で審査を行う（障害馬術規程第 239 条と第 263 条を参照）。第 1 位で同点の選手がでた場合でもジャンプオフは行わない。

各選手のスコアは、走行タイムに係数 0.50 を掛けてポイントに換算する。スコアは小数点第 2 位まで正確に算出する。小数点第 2 位を求めるには 0.005 以上を切り上げ、0.004 以下は切り捨てとする。

換算後のポイントが最も少ない選手を減点 0 とし、他の選手については、首位の選手との点差をそれぞれの減点とする。

選手が失権、あるいは何らかの理由によりコースを完走できなかった場合、当該選手の減点は最も減点の多かった選手のスコアに減点 20 が加算されたものとする。当該選手自身が失権または棄権するまでに最も減点が多くなっていた場合には、そのスコアに減点 20 が加算される。減点 20 の加算はタイム差を減点に換算した後に行う。

3.3. ジュニア

基準 A に従ってタイムレースで行い、第 1 位で同点の選手がでた場合でもジャンプオフは行わない（障害馬術規程第 238 条 2.1 を参照）。

選手が失権したり棄権した場合は、最も減点の多かった選手のスコアに減点 20 を加算したものを、当該選手の減点とする。

4. 団体選手権（個人選手権の第 2 次予選競技ともなる）

4.1. この競技は基準 A を採用し、タイムレースではない 2 回走行を行う。第 1 位、第 2 位と／あるいは第 3 位で同点の選手がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを 1 回行う。

この競技には第 1 次予選競技（上記 3）に参加した選手と馬だけが出場できる。団体順位については、チーム構成を申告したチームメンバーのみを対象とする。

4.2. 団体競技のスターティングオーダー

団体競技の第1ラウンドのスターティングオーダーは抽選で決定する。第2ラウンドのスターティングオーダーは、第1ラウンドで発生した減点のリバースオーダーとする。

第2ラウンドでは、個人選手がチーム選手よりも先に出場する。

個人選手あるいはチームで同減点がでた場合は、第1ラウンドでのスターティングオーダーを採用する。

ジャンプオフを行う場合は、第2ラウンドでのスターティングオーダーを採用する。

2回のジャンプオフが必要な場合は、第1位と第2位を決定するジャンプオフの前に第3位決定戦を行わなければならない。

第2ラウンドに出場できるのは、第1ラウンドの結果、上位10チームと第10位で同順位のチームだけとする。

上位10チームと第10位で同順位のチームが第2ラウンドを開始する前に、個人選手および第2ラウンドに出場資格を得られなかったチームメンバーが第3競技に向けた第2次予選競技に参加することができる。第2次予選競技と団体競技の第2ラウンドとの間には、30分以上のブレイクを入れなければならない。

- 4.2.1. 北米で行われるジュニアとヤングライダー合同選手権大会については、以下を適用する：

団体競技の第2ラウンドに出場できるのは、団体競技第1ラウンドの結果、上位6チームと第6位で同順位のチームだけとする。

5. フェアウェル競技

組織委員会は、選手権大会の個人決勝へ出場資格を得られなかった選手を対象として、個人選手のフェアウェル競技を1回設けなければならない。

この競技は基準Aを採用してタイムレースで行われ、ジャンプオフはタイムレースで1回行う（障害馬術規程第238条2.2を参照）。

選手権大会にてヤングライダーとジュニアの参加人数が十分でない場合は、ヤングライダーとジュニアのフェアウェル競技を合同開催できる。

6. 個人決勝競技

6.1. 競技の進行

この競技はラウンドAとラウンドBの異なる2回走行で構成し、タイムレースではなく基準Aで審査を行う。第1位、第2位と／あるいは第3位で同順位がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを1回行う（障害馬術規程第273条3.2を参照）。

出場資格があるのは、第1次予選競技と第2次予選競技の減点合計で上位60%の選手（60%以内で最下位にて同点の選手を含む）である。この競技へ参加できる選手数は15～30名としなければならない。

選手は（完走した、しないに関わらず）必ず第1競技に出場していなければならない、また第2競技を（失権、あるいは棄権をせずに）完走していなければならない。もし何らかの理由で出場資格を得た選手のうち1名またはそれ以上の選手が出場できない場合でも、次点の選手の繰り上げ出場は行わない。

ラウンドAを完走した選手は、全員がラウンドBへ出場する。両ラウンドでの減点が合算される。

選手はラウンドBのコース下見を行うことができる。

- 6.1.1. 北米で行われるジュニアとヤングライダー合同選手権大会については、以下を適用する：

個人決勝競技の第1ラウンドに出場できるのは、第1次および第2次予選競技の減点合計で、各カテゴリーにつき上位25名の選手（第25位で同減点の選手も含む）とする。

個人決勝競技の第2ラウンドに出場できるのは、各カテゴリーにつき上位15名の選手（第15位で同減点の選手も含む）とする。

6.2. スターティングオーダー

ラウンドAのスターティングオーダーは、選手権の第1次予選競技と第2次予選競技の減点合計のリバースオーダーとする。いかなる順位についても同減点の場合は、第1次予選競技の成績によってスターティングオーダーを決定する。最下位で予選を通過した選手が最初の出場となる。

ラウンドBのスターティングオーダーは、第1次予選競技、第2次予選競技、およびラウンドAの減点合計のリバースオーダーとする。減点の最も多い選手が最初に、減点の最も少ない選手が最後に出場する。同減点の選手がでた場合は、第1次予選競技の成績によってスターティングオーダーを決定する。

第17条 障害物とコース

1. 第1次予選競技

障害物とその他のテクニカル要件

	ヤングライダー	ジュニア
障害物の数	12～14個	12～14個
高さの上限	1.45m	1.35m

	ヤングライダー	ジュニア
幅	1.50～1.70m	1.40～1.60m
水濠障害（必須ではない） の最大幅	4.00m	3.70m
コース全長の下限／上限	500／600m	500／600m
速度	——	375m／分
基準	C	A

2. 団体競技

障害物とその他のテクニカル要件

	ヤングライダー	ジュニア
障害物の数	12～14個	12～14個
高さの上限	1.50m	1.40m
最大幅	1.80m	1.70m
障害物のうち8個以上 （垂直障害2個を含む） はこの高さ以上とする	1.40m	1.30m
水濠障害（必須）の幅	4.20m	3.50～4.00m
コース全長の下限／上限	500／600m	500／600m
速度	400m／分	375m／分

コースにはダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個を入れなければならない。

3. 個人決勝競技

障害物とその他のテクニカル要件

	ヤングライダー	ジュニア
ラウンドAの障害物の数 ラウンドBの障害物の数	10～12個 8～10個	10～12個 8～10個
高さの上限	1.50m	1.40m
最大幅	1.80m	1.70m
トリプルバーの最大幅	2.00m	2.00m
水濠障害（必須）の幅	4.20m	3.50～4.00m
コース全長の下限／上限 ラウンドA ラウンドB	500／600m 450／550m	500／600m 450／550m
速度	400m／分	375m／分

ラウンドAのコースには、ダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個を入れなければならない。ラウンドBのコースには、ダブル1個かトリプル1個を入れなければならない。

ラウンドBのコースはラウンドAと異なるものとする。

4. ジャンプオフ

団体順位でも個人順位であってもジャンプオフを行う場合は、6個の障害物で構成する短縮コースを採用し、高さを上げ（ジュニアでは最大1.50mとする）／あるいは幅を増すことができる。

5. フェアウェル競技

フェアウェル競技用の障害物の高さはヤングライダーで約1.40m、ジュニアで約1.30mとし、幅は高さと同釣り合いをとって1.40～1.60mの範囲とする。

第18条 団体順位

1. 団体順位は、団体選手権競技における2回走行の各走行で各チーム上位3選手の減点を合計し、決定する。第2ラウンドへの出場資格を得られなかったチームについては、第1ラウンドでのチーム内上位3選手の成績が対象となる。

2. 第1ラウンドあるいは第2ラウンドを完走していないチーム選手の成績は、当該走行で最も減点の多かったチーム選手の成績に減点20を加算する。
3. 第1位、第2位と／あるいは第3位で同減点のチームがでた場合は、タイムレースのジャンプオフを1回行わなければならない、チームメンバーは全員が参加する（本付則第17条4を参照）。
4. 2回のジャンプオフが必要な場合は、第1位と第2位を決定するジャンプオフの前に第3位決定戦を行わなければならない。
5. ジャンプオフの順位は、各チームの上位3選手の減点とタイムを合計して決定する。それでも同減点、同タイムの場合は同順位となる。
6. その他のチームは2回の走行での減点を合計して順位を決定する。同減点の場合は同順位となる。
7. 団体順位に加えて個人順位も決定され、団体競技では賞が授与される。同減点の選手は同順位となる。
8. 選手権大会が開催される大陸あるいは地域に属さないNFから、ノンオープン選手権大会に出場するチームは、団体競技には参加できるが団体順位の対象とはならない。団体競技における個人順位では賞を受けることができる（本付則第18条7を参照）。

第19条 個人順位

1. 個人順位は各選手の第1次予選競技、第2次予選競技の2回走行（ジャンプオフが行われた場合でもその減点は含めない）、第3競技の2回走行での減点を合計して決定する。
2. 第1位、第2位と／あるいは第3位で同減点の選手がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを1回行わなければならない（本付則第17条4を参照）。
3. 2回のジャンプオフが必要な場合は、第1位と第2位を決定するジャンプオフの前に第3位決定戦を行う。
4. 選手権大会が開催される大陸あるいは地域に属さないNFから、ノンオープン選手権大会に出場する選手は、予選を通過すれば個人決勝競技には出場できるが、個人メダル受賞者決定のジャンプオフには参加できない。ラウンドAとラウンドBの減点を合計して順位が与えられる。
5. 個人決勝競技では2種類の順位付けを行うものとする。1つは個人メダル受賞者決定の順位付け、もう1つは競技に参加した選手全員の順位付けである。後者の順位ではラウンドAとラウンドBの成績だけがカウント対象となる。同減点の選手は同順位となる。

第20条 馬装と服装

1. 馬装と服装に関する規則は、障害馬術規程に則って厳格に適用されなければならない（障害馬術規程第256条と第257条を参照）。

第21条 競技場審判団

1. 審判長については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議の上、一般規程と障害馬術規程に則って任命しなければならない。競技場審判団メンバーは、NF / 組織委員会が一般規程に則って任命する。

第22条 外国人技術代表

1. 外国人技術代表については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議の上、一般規程と障害馬術規程に則って任命しなければならない。

第23条 獣医師代表団

1. 獣医師代表団の構成、およびその代表団長とメンバーの任命は、獣医規程に定める要件に従わなければならない。

第24条 上訴委員会

1. 上訴委員長については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議の上、一般規程と障害馬術規程に則って任命しなければならない。CSI 競技会では、上訴委員会の設置は義務づけられない。

第25条 賞と記念品

1. 賞と記念品の配分については本付則第9条に定める要件に従う。

第26条 その他

1. 本付則に網羅されていない状況については、競技場審判団が一般規程と障害馬術規程に則り、選手権順位を公正に決定するにあたり最善と思われる決断を下す。

付則 10 ベテラン選手規程

第1章 ベテラン選手

第1条 概 要

1. 以下に定める一連の規則の目的は、ベテラン選手に特化した問題を斟酌し、ベテラン選手を対象とする世界の競技会や競技を規格統一することにある。

以下に記載する特別規則を除いては、障害馬術規程を適用する。

第2条 ベテラン選手の定義

次の選手はベテラン選手として競技に参加できる：

1. 女性は45歳となる年から、男性は49歳となる年から出場できる。同一年に CSI2* 以上の競技会でシニア対象の障害馬術競技に出場していない選手であること。
2. ベテラン競技に出場できるのは、同一年において、初回走行の障害物の高さが 1.30mを超える競技に出場していない選手とする。
3. 各選手は、自分が所属する NF 発行の有効なライセンスをもっていなければならない。
4. 国際競技会に選手を参加申込するにあたり、必然的に NF は参加申込が正当なもので、参加者は上記の条件を満たす者であることを証明するものとする。

第3条 国際競技会（一般規程第102条を参照）

ベテラン選手を対象として以下の競技会を行うことができる：CSI カテゴリー A、CSI カテゴリー B、CSIO

1. CSIV カテゴリー A 競技会
 - 1.1. CSIV カテゴリー A 競技会は、主催 NF と諸外国から参加 NF 数の制限なしに個人選手を受け入れる国際競技会である。
 - 1.2. 賞金額の制限はない。
 - 1.3. その他の条件はシニアの CSI2* 競技会規則に従う。
2. CSIV カテゴリー B 競技会
 - 2.1. CSIV カテゴリー B 競技会は、主催 NF と諸外国から参加 NF 数の制限なしに個人選手を受け入れる国際競技会である。海外在住の選手は、主催 NF で開催

される CSIV カテゴリー B 競技会で、(在住国の) 主催 NF の一員として競技に出場できる。

2.2. 賞金はない。

2.3. その他の条件はシニアの CSI1* 競技会規則に従う。

第4条 障害物とコース

1. ベテラン選手対象のコースは8～12個の障害物で構成する。第1ラウンドの障害物の高さは1.10m～1.20mの範囲とする。幅障害の幅は、高さと同り合いをとり1.20m～1.30mの範囲とする。速度は分速350m。

第2章 大陸選手権大会 チームと個人選手

第5条 開催

1. 2年に1回、以下の原則に従い、FEI の権限下で団体大陸選手権大会と個人大陸選手権大会を開催できる：
 - 1.1. 同じ NF が2回続けて大陸選手権大会を開催することは、通常認められない。
 - 1.2. この選手権大会は、一般規程と障害馬術規程、本付則すべてに準拠して開催するものとする。
 - 1.3. この選手権大会は屋外で行わなければならない。
2. この選手権大会は CSI と同時開催することはできるが、CSIO の一部として行うことはできない。選手権大会を単独で開催する場合には、選手権大会に出場する選手が選手権大会には出ない馬で参加できる競技を、選手権大会プログラムに組み込まなければならない。プログラムには日々1競技か2競技を入れることができる。各馬とも1日につき1競技にのみ出場することができる。これらの競技条件は FEI 事務総長へ提出して承認を受けなければならない。
3. 選手権大会を CSI と同時開催する場合は、初日のトレーニング・セッションを選手権大会に出場する選手に限定して行う。CSI に出場する選手については、別途、競技を設けることができる。2日目からは両方の選手が混在して競技参加できる。

第6条 外国人技術代表、獣医師代表、コースデザイナー

1. 外国人技術代表については、FEI が障害馬術委員会と協議の上、一般規程の条項に則って任命しなければならない。レベル3コースデザイナーリストから選ぶものとする。
2. FEI 獣医師代表については、組織委員会が FEI 獣医師リストより任命しなければならない。
3. コースデザイナーは、レベル3コースデザイナーリストから選ばなければならない。

第7条 上訴委員会と競技場審判団

1. 審判長については、組織委員会が一般規程の条項に則って任命しなければならない。審判長は、組織委員会および FEI と協議の上、競技場審判団メンバーを任命する。

審判長と外国人審判員はレベル4審判員リストから、競技場審判団メンバーはレベル4審判員あるいはレベル3審判員リストから選ぶものとする。審判長は外国人審判員を兼任できる。

2. 上訴委員会の設置は必須である。上訴委員会の構成と任命については、一般規程第150条を参照のこと。

第8条 参加申込

1. FEI 障害馬術部門ディレクターから実施要項の承認を受けた後、主催 NF はその選手権大会の実施要項と招待状を、選手権大会が開催される大陸に属するすべての FEI 加盟 NF へ送付する。
2. ノミネートエントリー（選手権大会の4週間前）リストで選手権大会への参加申込を行った選手と馬については、デフィニットエントリー期日（遅くとも選手権大会開始の10日前）まで、一般規程第116条4.2に定める制限内での交代および追加が可能である。

選手と／あるいは馬が事故に遭ったり、あるいは病気となった場合で、公認医師と／あるいは獣医師からの診断書によりこれが確認できれば、デフィニットエントリー期日から当該選手権大会の第1回ホースインスペクション1時間前まで、選手と／あるいは馬の交代は可能である。この交代はノミネートエントリーの最新リストに記載されている人馬からとし、競技場審判団の承認が必要である。

3. チーム
チームは選手3～5名、馬3～10頭以内で構成する。各 NF ともノミネートエントリーには選手10名、馬20頭まで、デフィニットエントリーには選手5名、馬10頭まで申し込むことができる。各 NF が選手権大会へ派遣できるのは選手5名、

馬10頭までである。さらに各 NF はチーム監督を1名派遣することができ、このチーム監督には選手と同等の特典が供与される。

4. チームに代わる個人選手

チームを派遣できない国は、1名あるいは2名の個人選手を各々2頭の馬とともに参加申込できる。

4.1. 追加の選手と馬

選手権競技に出場していないチームメンバーと個人選手の馬は、選手権ではない競技に出場できる。5番目（リザーブ）の選手は、個人選手権競技に1頭の馬で出場できる。このリザーブ選手は、選手権ではない競技に他の馬で出場できる。

5. FEI 南米選手権大会 — チーム数と個人選手数

少なくとも3NF がチームを派遣しているものでなければならない。選手権大会として認可を受けるには、3チーム以上の参加が必要である。各 NF とも派遣できるチーム数は2チームまでである。選手権大会の期間中、選手と／あるいは馬は、一方のチームから他方のチームへ移籍することはできない。選手権大会に1チームを派遣する NF については、個人選手の参加を2名までとする。チームを派遣しない NF については、その NF からの代表として2名の個人選手が参加できる。

第9条 出場選手の申告と交代（チームと個人選手）

1. 申 告

出場選手の申告はトレーニング・セッション終了後に行われるが、このトレーニング・セッションは選手権大会第1競技の前日に行わなければならない。組織委員会が指定した時刻に、チームメンバー（3名か4名）あるいは個人選手、馬名（選手権大会の3競技とも各選手につき同一馬1頭）を選手権大会の競技出場人馬として、チーム監督が書面にて指名する。

2. 交 代

出場の申告を行ってから選手権第1競技の開始1時間前までに、選手と／あるいは馬が事故に遭ったり病気となった場合は、公認医師からの診断書を提出し／あるいは FEI 獣医師代表の許可を受け、審判長の承認を受けた後に、公式チームとしてデフィニットエントリーを行っている別の選手と／あるいは馬と交代させることができ、また本付則第8条に基づく交代も可能である。

第10条 出場資格

1. 馬
馬は6歳以上でなければならない。
2. 選手
この選手権大会へ参加できるのは、女性の場合は45歳、男性の場合は49歳の誕生日を迎える年からに限定される。
3. 能力証明書
選手権大会を完走できる能力のある選手と馬に限定して参加申込ができる。

第11条 経費と特典

1. 組織委員会は審判長の旅費を負担する。
2. 組織委員会は審判長、競技場審判団メンバー、上訴委員会、技術代表、FEI 獣医師代表の宿泊費とその他の滞在費を負担しなければならない。

第12条 トレーニング・セッション

1. 公式競技の始まる前日に、組織委員会はメインアリーナにコンビネーション障害1個を含む約8個の障害物でコースを設定し、トレーニング時間を設けなければならない。
2. 各選手とも1頭につき90秒まで使うことができる。
3. 服装は略式でよいが、長靴と乗馬ズボン、シャツ、硬質ヘルメットの着用が義務づけられる。
4. 観客から入場料を徴収してはならず、またいかなる賞も授与してはならない。

第13条 選手権競技

1. 選手権大会は3つの競技で構成され、別々の日に開催される。第1競技と第2競技2回走行の各々のラウンドで上位3選手の減点が合計されて団体順位が決まり、また3競技の各々での減点が合計されて個人順位が決定される。
2. 安全性とテクニカル面で適正であるかとの観点から、すべての障害物デザインと構造は、技術代表とコースデザイナーの承認を受けなければならない。これらの障害物に関連して議論となった場合は、技術代表が最終的な判断を下す。

第14条 第1競技（チームと個人選手）

1. 手順、基準、速度

第1競技は基準Aの大きなコースを使用し、基準Cで審査を行う（障害馬術規程第239条と第263条を参照）。第1位で同タイムの場合でもジャンプオフは行わない。

2. 障害物、コース全長

ダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個を含む12～14個の障害物。高さは1.20mまで、幅は高さと同じ合いをとって1.30m以内（トリプルバーの場合は1.70m以内）で設定する。水濺障害は認められない。

コース全長：500～600m

3. 参 加

団体選手権と個人選手権への出場人馬として申告した選手と馬は、この第1競技に参加する資格がある。リザーブ（5番目）の選手は、個人決勝競技への参加資格をかけて、この競技に1頭の馬で出場できる。

4. スターティングオーダー

この第1競技のスターティングオーダーは、組織委員会の同意を得て審判長が決定したトレーニング・セッション後の指定時刻に、競技場審判団と技術代表、チーム監督立ち会いのもとで抽選により決定する。個人選手とチームのスターティングオーダー抽選は、障害馬術規程第252条に定める手順に従って行われる。選手3名で構成するチームの監督は、4名枠から3名分の出場順を選択できる。

5. 減 点

各選手のスコアは、各選手のタイムに0.50の係数を掛けてポイントに換算する。スコアは小数点第2位に四捨五入する。0.005からは小数点第2位へ切り上げ、0.004以下は切り捨てる。

換算後のポイントが最も少ない選手を減点0とし、他の選手については、首位の選手との点差をそれぞれの減点とする。

選手が失権するか、あるいは何らかの理由によりコースを完走できなかった場合、当該選手の成績は最も減点の多かった選手のスコアに減点20点が加算されたものとなる。当該選手自身が失権または棄権するまでに最も減点が多くなっていた場合には、そのスコアに減点20点が加算される。減点20の加算はタイム差を減点に換算した後に行う。

第15条 第2競技（団体決勝競技、第2次個人競技）

1. 手順、基準、速度

第2競技は基準Aを採用し、タイムレースではなく同一コースで2回の走行を1日か2日間にわたって行う。速度は分速350mとし、ジャンプオフは行わない。

2. 障害物、コース全長

ダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個を含めて12～14個の障害物。高さは1.20mまでの幅は高さと同じ1.30m以内（トリプルバーの場合は1.70m以内）の幅障害。少なくとも2個の垂直障害を入れ、その高さは1.25mでなければならない（踏切側で傾斜している箱障害は必須の垂直障害とみなされない）。その他に高さ1.20m以上の障害物を6個以上設置する。水濺障害は認められない。

コース全長：500～700m

第1ラウンド後、競技場審判団はコースデザイナーと協議のうえ、馬場の状態によっては障害物の位置をずらすよう判断を下すことができる。コース全長を変更した場合は、コースの再測定が必要である。障害物の位置を変えた場合は、第2ラウンドの前に選手はコース下見を行うことが認められる。

3. 参加

第1競技に出場した選手と馬だけが第2競技に参加できる。

3.1. 個人選手

3.1.1. 第1次個人予選競技と、団体競技の第1ラウンド（第2次個人予選競技）の成績を合計して、その上位50名の選手（第50位で同点の選手がでた場合は増加となる）が団体競技の第2ラウンド（第3次個人予選競技）への出場資格を得る。

3.1.2. 上述の3.1.1で出場資格を得た選手が、団体競技の第2ラウンドへの出場資格を得たチームのメンバーではない場合、この選手は団体競技第2ラウンドの前に競技を行う。この競技と団体競技第2ラウンドの間には30分以上のブレイクを設ける。

3.2. チーム

3.2.1. 団体競技の第2ラウンドは、第3次個人予選競技の後に行う。この競技には、団体競技第1ラウンド後の成績で上位10チームと、同点で第10位となったチームが出場できる。

- 3.2.2. 団体競技第2ラウンドへの出場資格を得たチームはすべて、第1次個人予選競技と団体競技第1ラウンドでの減点を持ち越す。

チームメンバーではあるが前述の3.1.1に示す第3次個人予選競技への出場資格を得られなかった選手が第2ラウンドで獲得したスコアは、そのチームの順位決定にのみカウントされる。

4. スターティングオーダー

この第2競技のスターティングオーダーは、第1競技の時と同じ手順で新たに抽選を行って決定する。

4.1. 個人選手

- 4.1.1. 上述の3.1.1で示した通り、出場資格を得た個人選手のスターティングオーダーは、第1次個人予選競技と第2次予選競技の減点を合計し、そのリバースオーダーとする。同減点の選手がでた場合は、第1競技のスコアでスターティングオーダーを決定する。

4.2. チーム

- 4.2.1. 団体競技第2ラウンドへに出場資格を得たチームのスターティングオーダーは、第1次個人予選競技でのチーム内上位3選手の減点と、団体競技第1ラウンドでのチーム内上位3選手の減点を合計し、その減点のリバースオーダーとする。同減点となったチームについては、第1ラウンドのスターティングオーダーを適用する。

- 4.2.2. 上述の通り、第2ラウンドへに出場資格を得たチームのメンバーである選手のスコアは、団体競技のチーム順位を決定するためにカウントされるとともに、3.1.1で述べた選手の中に入った場合は、第3次個人予選競技の個人成績としてもカウントされる。

5. 団体順位

第1競技での各チーム内上位3選手の減点と、第2競技の2回走行での各走行でチーム内上位3選手の減点を合計し、同減点で第10位のチームを含む、上位10位までの団体順位を決定する。最少減点のチームが第1位となり、大陸チームチャンピオンとする。

第1位、第2位および／あるいは第3位で同減点のチームがでた場合は、タイムレースでジャンプオフを行い、チームメンバー全員が出場する。コースは障害物6個とし、高さを上げ／あるいは幅を広げて分速350mで行う。

ジャンプオフのスコアは各チームで上位3選手の減点を合計して求めるが、それでも同減点の場合は、ジャンプオフでの上位3選手のタイムを合計して優勝チームを決定し、第2位と第3位についても同様とする。ジャンプオフのスコアは団体順位を決定するためだけのもので、個人成績の最終スコアにはカウントしない。

2回のジャンプオフが必要な場合は、第1位と第2位を決定するジャンプオフの前に第3位決定戦を行わなければならない。

第1位から第3位までの何れかで、ジャンプオフを行っても減点とタイムが同じとなった場合は、当該チームを同順位とする。

団体競技第2ラウンドに出場資格を得られなかったチームは、各チームとも第1競技でチーム内上位3選手の減点と、団体競技第1ラウンドでチーム内上位3選手の減点を合計して、その順位を決定する。

6. 休養日

第2競技と第3競技の間に休養日を設けなければならない。

第16条 第3競技（個人決勝）

1. 手順、基準、速度

第3競技は基準Aを採用し、タイムレースではなく規定タイムを設け、速度は分速350mにてラウンドAとラウンドBの2回走行を行う（障害馬術規程第238条1.1を参照）。

2. 障害物、コース全長

2.1. ラウンドA

ダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個を含めて10～12個の障害物。高さは1.20mまでの幅は高さと同じ1.30m以内（トリプルバーの場合は1.70m以内）の幅障害。少なくとも2個の垂直障害を入れなければならない、その高さは1.25mとする（踏切側で傾斜している箱障害は必須の垂直障害とみなされない）。水濠障害は認められない。

コース全長：500～600m

2.2. ラウンドB

ラウンドAとは異なるコースとし、コンビネーション障害は1個のみ（ダブル1個かトリプル1個）を含め、8～10個の障害物で構成する。高さは1.25mまでとし、幅は高さと同じ1.30m以内（トリプルバーの場合は1.70m以内）で設定する。少なくとも2個の垂直障害を入れなければならない、その高さは1.25mとする（踏切側で傾斜している箱障害は必須の垂直障害とみなされない）。

水濠障害は入れてはならないが、障害物の下か前面、あるいは背面に水濠を設置したもの（いわゆる「リバプール」）はコースに入れることができる。

コース全長：400～500m

3. 参加

第3競技へは、第1競技と第2競技での減点合計か、あるいは第1競技と第2競技第1ラウンド、および個人選手と団体競技第2ラウンドに出場できないチームメンバーを対象とする団体競技第2ラウンドに代わる走行での減点を合計し、上位25組の人馬（第25位で同減点の人馬を含む）が出場を義務づけられる。選手は（完走した、しないに関わらず）必ず第1競技に出場しており、また第2競技を（失権、あるいは棄権をせずに）完走していなければならない。もしくは（完走した、しないに関わらず）必ず第1競技に出場しており、また第2競技第1ラウンド、および個人選手と団体競技第2ラウンドに出場できないチームメンバーを対象とする団体競技第2ラウンドに代わる走行を（失権、あるいは棄権をせずに）完走していなければならない。もし何らかの理由で上位25名の選手のうち1名またはそれ以上の選手が出場できない場合は、選手5名のリザーブ・リストから選手の繰り上げ出場を行う。

4. コースBの下見

選手はラウンドA終了後、ラウンドBのコース下見を行うことができる。

5. スターティングオーダー

5.1. ラウンドAのスターティングオーダーは、第1競技と第2競技の減点合計のリバースオーダーとする。個人選手と、団体競技第2ラウンドに出場資格を得られなかったチームメンバーのスターティングオーダーは、第1競技と第2競技第1ラウンド、および団体競技第2ラウンドに代わる走行での減点合計のリバースオーダーとする。同減点の選手がでた場合は、第1競技のスコアによってスターティングオーダーを決定する。従って第25位で予選を通過した選手は、最初の出場となる。

5.2. ラウンドBのスターティングオーダーは、最終競技のラウンドAと、第1競技と第2競技の減点合計のリバースオーダーとする。個人選手と、団体競技第2ラウンドに出場資格を得られなかったチームメンバーのスターティングオーダーは、最終競技のラウンドAと、第1競技と第2競技第1ラウンド、および団体競技第2ラウンドに代わる走行での減点合計のリバースオーダーとする。最も減点の多い選手が最初に出場し、減点の最も少ない選手が最後の出場となる。同減点の選手がでた場合は、第1競技のスコアによってスターティングオーダーを決定する。

6. 個人順位

個人順位は第1競技と、第2競技の2回走行（ジャンプオフがあった場合でもその減点はカウントせず）、第3競技のラウンドAとラウンドBの減点を合計して決定する。個人選手と団体競技第2ラウンドに出場資格を得られなかったチーム

のメンバーについては、団体競技第2ラウンドの代わりに第2ラウンド予選のスコアをカウントする。

最少減点の選手が第1位となり、大陸チャンピオンとする。

第3競技ラウンドB終了後に、上位3位までの何れかで同順位となった場合は、タイムレースでジャンプオフを行うが、コースはラウンドAとラウンドBでを使用した障害物から8個の障害物を使って、分速350mで行う。選手はジャンプオフのコース下見を行うことができる。

2回のジャンプオフが必要な場合は、第1位と第2位を決定するジャンプオフの前に第3位決定戦を行わなければならない。

第1位から第3位までの何れかで、ジャンプオフを行っても減点とタイムが同じとなった場合は、当該チームを同順位とする。

第17条 褒 賞

1. 賞金は授与しない。第1競技終了後に上位12名の選手に賞品が贈られ、チーム対象の第2競技終了後には上位6チームに賞品が贈られ、また第3競技終了後には全体成績で上位12名の選手に賞品が贈られる。
2. 団体決勝競技で上位3チームの各選手に FEI 金メダル、銀メダル、銅メダルが各々授与され、個人決勝競技では第1位と第2位、第3位の個人選手に FEI 金メダル、銀メダル、銅メダルが各々授与される。

付則 1 1 ポニーライダー規程

第 1 章 緒 言

第 1 条 概 要

1. ポニーライダー競技は、世界の馬術競技の発展において重要な要素である。
2. 以下に定める一連の規則の目的は、ポニー騎乗に特化した問題点を斟酌し、ポニー競技会を規格統一することにある。

第 2 条 諸規程の優先性

1. 本付則に網羅されていない事柄についてはすべて、一般規程、獣医規程、障害馬術規程を適用する。

第 2 章 ポニーライダーとポニーの定義

第 3 条 ポニーライダー

1. 選手は12歳となる暦年の始めから16歳となる年の終わりまで、ポニーライダーとして競技に出場できる。
2. ポニーライダーをプロフェッショナルとしてクラス分けすることはできない。

第 4 条 ポニーの定義

1. ポニーとは、平坦な地面上で計測した髻甲までの高さが蹄鉄なしで148cm 以下、あるいは蹄鉄をつけて149cm 以下の小柄な馬属である。ポニーの体高測定詳細については、本付則第13条を参照のこと。
2. すべての国際競技会および選手権大会において、ポニーは6歳以上でなければならない。

第 3 章 国際競技会と選手権大会

第 5 条 国際競技会

1. ポニーで競技に出場するポニーライダーのための障害馬術競技会としては、次の種類がある：国際競技会（CSIP）、公式国際競技会（CSIOP）、選手権大会。
2. CSIP あるいは CSIOP を、大陸選手権大会の開催週に行うことはできない。
3. CSIP は主催 NF の個人選手、および参加 NF 数に制限を設けず諸外国からの個人選手を対象とする国際競技会である。
 - 3.1. CSIP 競技会はポニーを貸与する形式の競技会として行うことができ、その場合は CSIP（貸与ポニー形式）などのように明示しなければならない。
 - 3.2. 「ネーションズカップ」と表記できない、完全な非公式団体競技を行うことが出来る。
 - 3.3. 外国人選手も参加できる障害馬術競技を3競技以上設け、FEI 規程に従って開催しなければならない。
4. CSIOP はチームを派遣する3NF 以上を対象とする国際競技会である。
 - 4.1. 該当する競技種目規程に定める通り、公式団体競技と公式個人競技を含めなければならない。
 - 4.2. 同一国で1暦年の間に開催できる CSIOP は屋内で1回、屋外で1回の合計2回までとする。
 - 4.3. CSIOP は、既に競技カレンダーに組み込まれているポニー国際競技会の開催を妨げない場合に限り、FEI 事務総長の判断によってその年のカレンダーへ組み込みを認められることがある。
 - 4.4. このような競技会へは主催国から1チーム、外国からは各 NF につき1チームが参加できる。
 - 4.5. どの競技種目でもポニー・チームは選手4名とポニー4頭で構成し、このうち上位3選手の成績をカウントする。3名構成のチームも認められる。
 - 4.6. CSIOP と CSIP を一緒に開催することができる。
5. 国際団体競技会

障害馬術規程（障害馬術規程第265条2を参照）に則って開催することができる。
6. 貸与ポニー形式の国際競技会（一般規程第111条を参照）
 - 6.1. FEI 障害馬術部門ディレクターの同意があれば、組織委員会が提供するポニーを使用して CSIP と CSIOP を開催することができる。大陸選手権大会では認められない。
 - 6.2. チルドレン規程第4条3に記載されている貸与馬形式での競技会規則を適用しなければならない。
7. 選手権大会を含め、本規程を適用する競技会の参加申込では、申し込みを行うポニーを特定しなければならない、どの選手も自分が参加申込したポニー以外のポニーに騎乗することはできない。

第6条 大陸選手権大会

1. 毎年、各大陸にて障害馬術の大陸選手権大会を開催することができる。ポニーライダー対象の障害馬術大陸選手権、馬場馬術大陸選手権、総合馬術大陸選手権はできる限り同一競技会で行うべきである。
2. 大陸選手権大会はできるだけ学校の長期休暇中に開催する（7月中旬から8月末）。
3. 大陸選手権大会は屋外で開催する。
4. ノンオープン大陸選手権大会への参加は、該当する大陸にあるすべての NF に限定される。ヨーロッパ域外からの NF 参加申込を障害馬術委員会が受諾するかは、当該選手権大会に受け入れできる人数的な余裕があるか否かによる。ノンオープン FEI ヨーロッパ選手権大会にヨーロッパ域外の NF から参加が認められた選手については、タイトルやメダルを受賞する権利はない。
5. FEI が CSIOP と選手権大会の開催を承認する。選手権大会の開催を希望する NF は、一般規程に定める要領で申請しなければならない。
6. 選手権大会は一般規程、該当種目の競技会規程及び本規程を厳格に遵守して開催しなければならない。
7. 大陸選手権大会は、主催 NF を含めて4NF 以上の参加があつて初めて開催できる。ただしヨーロッパ域外では、主催 NF を含めて2NF 以上からの地域チームの参加があれば開催できる。選手権大会開催前であっても、参加申込の締切り後に出場を取り止めた NF については、出場とみなされる。
8. 所属 NF から公式に参加申込のあったチームと／あるいは個人選手だけが出場できる。
9. ポニーライダーと／あるいはポニーは、1暦年内の同じ大会では同じ種目にのみ出場することができる。

第7条 国際競技会と選手権大会への出場資格

1. ポニーライダーは、該当する年齢に達していれば、ポニーライダーとしての資格を失わずにヤングライダー、ジュニアと／あるいはチルドレン対象の競技に出場することができる。
2. ポニーライダー、ジュニアあるいはチルドレンは、同一競技会において各々のカテゴリー競技とシニア競技の両方に参加することはできない（障害馬術規程第255条を参照）。
3. 該当する年齢に達している選手は、2つ以上のカテゴリーで競技や選手権大会に出場できるが、各競技種目につき、大陸選手権大会に出場できるのは一暦年で1カテゴリーのみとする（一般規程第124条1を参照）。

第8条 経費と特典

1. 競技会

ポニーライダーを対象とする競技会の組織委員会は、ホテルかユースホステル、あるいは個人家庭への宿泊と資金援助について招待選手の所属 NF と交渉すること、およびこれを提供することは自由である。

2. 選手権大会と CSIOP

2.1. NF は自国のチーム監督、選手、グルーム、ポニーについて、選手権大会と CSIOP 開催地への往復旅費を負担する。

2.2. 組織委員会については上記1. に同じであるが、以下に最低限の必要項目を示す：

— ポニーの厩舎と飼料を無償で提供しなければならない。

— グルームはできるだけ厩舎近くに滞在できるようにする。

2.3. 役員については、一般規程を適用する。

3. 特典はすべて、競技会あるいは選手権大会の開催前日から終了の翌日まで供与される。

4. 適正な金額であれば参加申込料を徴収してもよいが、FEI の承認が必要である。ヨーロッパ選手権大会については、ポニー1頭につき参加申込料の上限を500 ユーロとする。

5. チーム監督は競技会開催期間を通して、そのチームと／あるいは個人選手の行動に責任を負う。損害が生じた場合は、チーム監督とその所属 NF が責任を負う。選手が個人家庭に宿泊しない場合は、チーム監督がそのチームと／あるいは個人選手と宿泊しなければならない。

上訴委員会は損害額を査定する権限を有する。競技場審判団と／あるいは上訴委員会は、容認しがたい行為については競技会期間中を通してどの時点であっても、FEI 司法制度に従って罰金を科し、またそのチームと／あるいは個人選手を失格とすることができる。

第9条 褒 賞

1. CSIP では賞金を授与することができるが、選手権大会では認められない。

2. ジュニア規程第9条を適用する。

第10条 ポニーの調教

1. 競技会の第1競技が行われる前日の18:00から、競技会全体が終了するまで、参加ポニーは競技会あるいは選手権大会の開催地内外で選手以外の者が騎乗して調教してはならない。これに違反した場合は失権となる。しかし選手以外の人物が FEI スチュワードの監視下で調馬索運動や引き運動などを行うことは認められる。

2. 馬の健康とウェルフェアを第一に考え、働いている公式 FEI 役員、あるいは獣医師による許可がない限り、いかなる目的でもポニーを厩舎、競技エリアあるいはスチュワード管轄区域から退出させることはできない。
3. 各ポニーは、到着時に主催者から提供される個体識別番号を、競技会期間中を通して使用する。スチュワードを含むどの役員でもポニーの個体識別ができるよう、厩舎から出る時にはいつでもこの番号を付けていることが義務づけられる。この番号の提示を怠った場合はまず警告カードが渡され、再犯の場合は競技場審判団あるいは上訴委員会から当該選手に罰金が科せられる。

第11条 役員

1. CSIP 競技会における審判員の任命は、CSI2* について定めた障害馬術規程第259条に従わなければならない。
2. ポニー競技会に経験のある役員を競技場審判団と上訴委員会に加えるよう、組織委員会へは強く進言するものである。
3. 障害馬術の大陸選手権大会では、FEI が審判長と技術代表、外国人獣医師代表を任命しなければならない（本付則第22条9と第22条11を参照）。

障害馬術の大陸選手権大会については、競技場審判団メンバーの2名以上をレベル3かレベル4の障害馬術審判員リストから選ばなければならない。その他の審判員については、レベル2以上の障害馬術審判員リストから選ばなければならない。

4. 障害馬術競技で水濠障害が設けられている場合は、競技場審判団メンバーとして審判員を1名追加しなければならない。

選手権大会、および CSIOP での団体競技とグランプリでは、水濠障害審判員は少なくとも国内審判員でなければならない（障害馬術規程第259条1を参照）。

第12条 パスポート

1. 一般規程第137条と獣医規程第1010条2を参照のこと。

第13条 ポニーの体高測定

1. 獣医規程の付則 XVIII と一般規程第137条を適用する。
2. CH-EU-P に出場するポニーはすべて、競技開始前に現場で測定する。諸々の CSIP では無作為に体高測定を行うこともできる。
3. ポニーの FEI 定義は本付則第4条に従う。しかしながら FEI のポニー体高測定は競技環境の中で行われることに鑑み、競技の現場で体高測定が行われたポニーについては、競技への出場許可条件として蹄鉄なしで150cm 以下、あるいは

蹄鉄をつけて151cm 以下であることとする。

4. FEI ポニー体高測定がホースインスペクションの前に行われる場合には、最初のポニー体高測定をもって競技会開催期間の開始とする。この条項は一般規程に優先する。

第14条 実施要項

1. ジュニア規程第12条を適用する。

第15条 ポニー障害馬術競技会および選手権大会規則

1. ポニー障害馬術競技会と選手権大会は、以下に特に記載がない限り、障害馬術規程に則って開催しなければならない。

第16条 障害物

1. 選手権大会と CSIOP のコースは10～12個の障害物で、15飛越以内で構成する。コンビネーション障害の数はダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個以内とする。
 - 1.1. 他の競技会におけるコースも上述した規模の範囲内とし、必要な場合は参加している選手とポニーの水準に応じて変更する。
2. 障害物は頑強な造りであり、見栄えの良い外観でなければならない。ポニーは馬よりも体重が軽いことを考慮し、そのようなポニーがあてても障害物が落下するようにしなければならない。
3. 選手権大会における障害物の高さや幅の限度は、ジャンプオフの場合を除いて次の通りである：
 - 3.1. コンソレーション競技では高さ1.25mまで、幅1.40m以内の大きさとする（トリプルバーでは1.60m以内）。
 - 3.2. 予選競技と団体選手権競技では高さ1.30mまで、幅1.40m以内の大きさとする（トリプルバーでは1.60m以内）。
 - 3.3. 個人選手権競技では高さ1.35mまで、幅1.45m以内の大きさとする（トリプルバーでは1.60m以内）。
4. CSIOP での障害物の高さや幅は、選手権大会でこれに類する競技に指定されている規模の範囲とする。
 - 4.1. CSIP 競技会では、障害物の大きさに同様の上限を適用するが、第1ラウンドでは高さ1.20m、幅1.30m以内とすることを推奨する。
 - 4.2. 貸与ポニー形式での CSIP 競技会では、障害物の高さは1.20mを超えてはならない。

5. ジャンプオフでは（障害馬術規程第246条1に従い）、最大10cm まで障害物の高さを上げ、幅を広げることができるが、いかなる場合も高さは1.40mまで、幅は1.50m以内とする（トリプルバーでは1.60m以内）。
6. 水濠障害については、踏切部分を含めて幅が3.30mを超えてはならない。選手権大会と CSIOP では、踏切部分を含めて3m以上を推奨する。
7. コンビネーション障害の障害間距離は7～11mとする。

第17条 練習用障害物

1. 練習用馬場での障害物は、その選手が出場する競技ラウンドで使用されている障害物の大きさ（高さと幅）を超えてはならない。
2. ポニーライダーについては、特定の競技に向けた準備ではなく障害飛越訓練を行うにあたり、障害物の高さを1.35mまで、幅を1.45m以内としてこれを遵守しなければならない。

第18条 速度

1. すべての競技において速度は分速350mとする。

第19条 服装と敬礼

1. 騎乗中は3点で固定された保護帽を、顎紐を締めて着用することが義務づけられる。
2. いかなる選手も脱帽せず、頭を下げることで競技場審判団へ敬意を表わすものとする。
3. 暗色の上衣かクラブのユニフォーム。白か淡黄褐色の乗馬ズボンかジョッパーと長靴。白のシャツにタイカハンティング・ストック。拍車の装着は任意であるが、もし使用する場合は、長靴の拍車受け部分にのる柄の端から拍車先端までを測定した長さが1.5cm 以内で、表面の滑らかな金属製のもの（ハマー拍車は認可）が認められる。鞭の長さは75cm までとする。

第20条 保護帽の脱落と顎紐の緩み

1. ラウンドの走行中に保護帽が脱落したり、その顎紐が緩んでしまった場合は保護帽を拾い、顎紐を締め直さなければならない。そのために下馬したとしても減点にはならないが、計時は止めない。

2. 顎紐を正しく締めずに障害物を飛越したり、あるいは飛越を試みたり、フィニッシュラインを通過した選手は失権となる。

第21条 馬装の検査

1. 競技会あるいは選手権大会への到着時点から全大会が終了するまでは常に、競技会場全体で以下を適用する：
2. 後出の追記 A に示した許可される銜の説明を参照のこと。手綱は銜かコンバーターにつけなければならない。可動式ランニング・マルタンガールのみ使用が許可される。大勒や遮眼帯は認められない。
3. 競技場審判団は獣医師からの助言に基づき、ポニーが怪我をしそうな銜や拍車の使用を禁止する権限がある。
4. スチュワードを任命して、アリーナへ入場する前に各ポニーの馬装を点検しなければならない。

第22条 大陸選手権大会

1. 参加申込

FEI 障害馬術部門ディレクターから実施要項の承認を受けた後、主催 NF はその実施要項とともに招待状を該当する大陸に属する NF へ送付する。

2. チーム

- 2.1. 各 NF は選手6名、ポニー6頭以内の構成で1チームを参加申込でき、このうち選手5名とポニー5頭を選手権大会へ派遣し、選手4名とポニー4頭が団体選手権競技に出場できる。

- 2.2. 組織委員会はチーム監督に招待状を送付するとともに、チーム監督には選手と同様の特典を供与しなければならない。

3. チームに代わる個人選手

チームを派遣できない NF は、1名あるいは2名の個人選手を各々1頭のポニーとともに参加申込できる。

4. NF はポニー2頭につきグルームを1名、各チームにつき2名までのグルームを派遣することができる。

5. 参加申込は一般規程に従い3段階に分けて行われる。

6. 競技方式

ジュニア規程第16条を適用する。

7. 出場選手の申告とスターティングオーダー

ジュニア規程第16条3.1を適用する。

8. 障害物とコース

前述の第16条を参照のこと。

9. 競技場審判団と外国人技術代表

審判長と外国人技術代表については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議の上、任命しなければならない。彼らの任命と競技場審判団メンバーの任命については、一般規程に定める要件に従わなければならない。

10. 上訴委員会

上訴委員会の構成、および上訴委員長とメンバーの任命は、一般規程に定める要件に従わなければならない。

CSIP 競技会では上訴委員会の設置は義務づけられない。

11. 獣医師代表団

獣医師代表団の構成、および獣医師代表団長とメンバーの任命は、獣医規程に定める要件に従わなければならない。

12. 賞と記念品

賞と記念品の配分については、本付則第9条に定める要件に従わなければならない。

13. 本付則に網羅されていない状況については、競技場審判団が FEI の一般規程と障害馬術規程に則り、選手権順位を公正に決定するにあたり最善と思われる決断を下す。

14. 落馬

1回目の選手の落馬あるいはポニーの転倒で、選手は当該競技から失権となる。これはネーションズカップ競技および選手権競技でも同様である。しかしながら、公認医師と競技場審判団が承認した場合に限り、ネーションズカップの第2ラウンドには出場できる。失権した選手の成績は当該ラウンドで最下位となった選手の成績に減点20が加算されたものとなる。

第23条 選手権大会以外の競技会

1. CSIOP

1.1. 障害馬術規程第238条あるいは第273条3.1、3.2、3.3に従い、実施要項には公式団体競技とグランプリ競技を組み込まなければならない。組織委員会にはFEIの許可を受けて、主催 NF のポニーライダーを追加して招待することができる。

1.2. 下記2. に従うものとして、本付則第22条の該当条項を CSIOP に適用する。

2. 選手権大会以外の CSIP と CSIOP

- 2.1. 公式団体競技と非公式団体競技が行われる場合は、可能な限り障害馬術規程第264条に則って開催する。
- 2.2. 障害馬術規程あるいは実施要項に明記していない限り、団体競技あるいは個人競技で第1位を決定するジャンプオフは行わない。
- 2.3. 組織委員会は、選手権大会のための競技プログラムに必ずしも固執する必要はないが、前述の1.1（CSIOP）に従い実情に最も相応しく、選手が楽しめて観客も楽しませることができるような実施要項を策定する。
- 2.4. 障害馬術規程第238条に則って行われる競技を軽視するものではないが、基準Cに準拠した競技や、障害馬術規程第265条～第271条に記載されている特別競技も考慮してしかるべきである。だが障害馬術規程第262条2（ピュイッサンス競技）と障害馬術規程第262条3と第262条4（六段障害飛越競技とオブスタクル・イン・ライン競技）に基づく競技の実施は認められない。
- 2.5. 自然障害を利用できる場合は、「ポニー・ダービー」との名称をつけた競技を障害馬術規程第277条に則って開催することができるが、この場合はコース全長の指定はない。この競技は基準Aあるいはタイムレースとして1ラウンドで行うか、基準Aにて1ラウンドとジャンプオフ1回で行うか、もしくは基準Cで行うことができる（障害馬術規程第277条を参照）。
- 2.6. 選手権競技を除き、少年と少女を対象とした競技を行うことができる。

3. 落馬

第22条14を参照のこと。

追記 A — 障害馬術ポニー競技会で使用が許可される銜と鼻革

銜：次のような種類の銜の使用が認められる。銜はどのような素材のものでよい（金属、ゴム、プラスチック、革など）が、製造された本来の形態で使用しなければならない。大勒は認められない。銜の直径は10mm以上とする。

あらゆるタイプの水勒頭絡：ジョイント式、ダブル・ジョイント式、
あるいはジョイントのないもの

マイラー（myler）

ねじり（soft twisted）

あらゆるタイプのギャグ：ジョイント式あるいはジョイントのない
通常タイプの水勒ギャグ

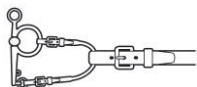
注意：ワイヤ、ダブルワイヤ、あるいはチェーンビットは使用できない

あらゆるタイプのペラム：ジョイント式、ダブル・ジョイント式、

あるいはジョイントのないもの

ねじり（soft twisted）

頬枝の長さは15cm まで



シングルレーン用ストラップ（コンバーター） — ペラム

注意：すべてのペラムは一本手綱で使用しなければならない。手綱はコンバーターを使用するか、あるいは銜リングの大きい方へ装着して使用しなければならない。

あらゆるタイプのキンバーウィック（Kimberwicks）

あらゆるタイプのペソア：3リングまで

ジョイント式、ダブル・ジョイント式、
あるいはジョイントのないもの

頬枝の長さは16cm まで。

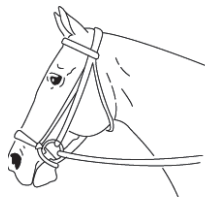
ハックモア：頬枝の長さは17cm までとする（上のリング中央から下のリング中央までを測る。「グルメット（curb chain）」やストラップ付きのものでは、下のリング中央から軸と鼻革（nose piece）の接合部までを測らなければならない。FEI ウェブサイトに掲載されている国際障害馬術競技会メモランダムで写真を参照のこと。）

注意：ハックモアは銜と組み合わせては使用できない。

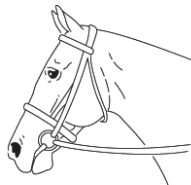
鼻革：ポニー障害馬術競技会では、次のような鼻革の使用が認められる：

鼻革は平らでなければならない。革以外の素材で作られた鼻革は許可されない。交叉鼻革で2本のストラップが交わる部分にシープスキンの小さいディスクを使用することはできる。

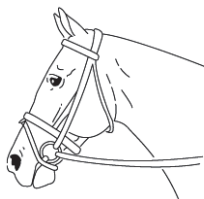
Dropped noseband
ドロップ鼻革



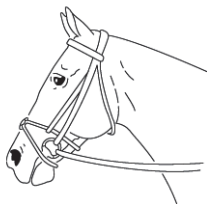
Cavesson noseband
カブソン鼻革



Flash noseband
フラッシュ鼻革



Crossed noseband
交叉鼻革



馬装検査および馬装に関わる他の案件については、付則11第21条を参照のこと。

付則 12 チルドレン競技会規程

第1章 緒言

第1条 概要

1. チルドレンの参加は世界の馬術競技の発展に重要な要素である。
2. 以下に定める一連の規則の目的は、馬に騎乗するチルドレンに特化した問題点を斟酌し、世界中の様々なタイプのチルドレン競技会と競技を規格統一することにある。

第2条 諸規程の優先性

本規程に網羅されていない事柄についてはすべて、一般規程、獣医規程、障害馬術規程を適用する。

第2章 出場資格

第3条 チルドレンの定義

1. 選手は12歳となる暦年の始めから14歳となる暦年の終わりまで、チルドレン・カテゴリーで競技に出場できる。
2. チルドレン競技会では、選手は馬でのみ出場できる。ポニーで出場することは認められない。

第3章 国際競技会と FEI 選手権大会

第4条 競技会の種類

1. 馬で競技に出場するチルドレンのための障害馬術競技会としては、次の種類がある：国際競技会（CSIch）、公式国際競技会（CSICh）、選手権大会
2. CSIch は主催 NF の個人選手、および参加 NF 数に制限を設けず諸外国からの個人選手を対象とする国際競技会である。

- 2.1. チルドレンを対象とする国際障害馬術競技会は次のように区分される：
CSICh カテゴリー A（自馬での競技会）と CSICh カテゴリー B（貸与馬での競技会）
- 2.2. 「ネーションズカップ」と表記できない完全な非公式団体競技を、選手数1チーム3～4名に限定し、行うことが出来る。
3. CSIOCh はチームを派遣する3NF 以上を対象とする公式国際競技会である。
 - 3.1. 該当する競技種目規程に定める通り、公式団体競技と公式個人競技を含めなければならない。
 - 3.2. どの競技種目についても、同一 NF で同一年に開催できる CSIOCh は屋内で1回、屋外で1回の合計2回までとする。
 - 3.3. CSIOCh は、既に競技カレンダーに組み込まれているチルドレン国際競技会の開催を妨げない場合に限り、FEI 事務総長の判断によってその年のカレンダーへの組み込みを認められることがある。
 - 3.4. このような競技会へは主催 NF から1チーム、外国からは各 NF につき1チームが参加できる。
 - 3.4.1. CSIOCh 競技会への招待について、組織委員会は次の方式のいずれかを選択できる：
 - 本付則第19条2.1と第19条3.1に従う；あるいは
 - 障害馬術規程第249条1と第249条2に従う。
- 3.5. いずれの競技種目でも、団体競技は選手4名と馬4頭でチームを構成し、このうち上位3選手の成績をカウントする。3名構成のチームも認められる。
4. 貸与馬形式の国際競技会
 - 4.1. FEI 事務総長の同意があれば、組織委員会が提供する馬を使用して CSICh 競技会と CSIOCh 競技会を開催することができる。
 - 4.2. 大陸選手権大会を貸与馬で開催することはできない。
 - 4.3. FEI 事務総長の同意があれば、組織委員会は貸与馬を提供する競技会で様々な方式を採用することはできるが、推奨される方式は次の通りである：
 - 4.3.1. 主催 NF の選手が各々馬を2頭提供する。抽選を行って外国人選手と主催 NF 選手とを組み合わせる。もう1回抽選を行って、主催 NF 選手の馬のどちらかを相手の外国人選手に割り当てる。主催 NF の選手は外国人選手に割り当てられなかったもう片方の馬に騎乗する。
 - 4.3.2. 主催 NF の選手が各々馬を2頭提供する。外国人選手は各々、主催 NF の選手が騎乗する馬を抽選する。残った馬を集めてもう1回抽選を行い、外国人選手に割り当てる。
 - 4.3.3. 組織委員会が馬を全頭提供し、抽選で出場する選手に割り当てる。

- 4.3.4. 主催 NF の選手が各々馬を1頭提供する。抽選を行って外国人選手と主催 NF 選手の組み合わせを行う。各馬には主催 NF 選手と外国人選手が騎乗する。第1競技では主催 NF 選手が先に自分の馬に騎乗する。
- 4.3.5. 貸与馬競技にはすべて次の規則を適用する：
- 4.3.6. 外国人選手には十分な頭数のリザーブ馬を提供しなければならない。明らかに外国人選手には不適当と思われる馬は、リザーブ馬に変更しなければならない。このような馬の交代は競技場審判団の承認が必要である。
- 4.3.7. どの選手も1時間の騎乗セッションで、抽選で決定した馬に少なくとも1回は騎乗する機会が与えられる。
- 4.3.8. トレーニング・セッションで飛越できるのは障害物6個までとする。クロスバーはこれにカウントしない。
- 4.3.9. 組織委員会はスクーリング・セッションを統括する規則を定める。
- 4.3.10. リバブル、乾壕、そしてバンクなどの自然障害は使用できない。
- 4.3.11. 遅くとも第1競技の2日前までには馬を割り当てなければならない。
- 4.3.12. 馬には毎日1回、1時間まで騎乗することができる。
- 4.3.13. 馬の所有者から承諾を得ている場合に限り、馬のトレーナーか他の人物が、競技会開催中に当該馬の調教をすることができる。
- 4.3.14. 馬には日常使われている銜であり、抽選に際して臨場した時の銜を使用して騎乗しなければならない。馬の所有者の同意があった場合にのみ銜を替えることができる。
- 4.3.15. 1個の障害物で3回飛越を試みた場合は、障害物1個の飛越とカウントする。ダブル1個あるいはトリプル1個は、障害物1個とカウントする。
- 4.3.16. 以下に別段の記載がある場合を除き、4.3.4に則って行われる貸与馬競技には上述の規則および次の規則を適用する。
- 4.3.17. 競技開催日には、前段の選手と後段の選手は各々6個の障害物を飛越することができる。
- 4.3.18. コース上の障害物の数は合計8個までとし、飛越数は10回以内とする。ダブルを2個あるいはトリプルを1個、使用することができる。
- 4.3.19. 第1競技では、先ず主催 NF の選手が騎乗しなければならない。
- 4.3.20. 主催 NF 選手の数に見合うだけの十分な数の外国人選手がいなかった場合は、外国人選手の間で抽選を行い、割り当てから外れている余剰馬に誰が騎乗するかを決めて、すべての馬が1日に2回出場するようにする。

第5条 大陸選手権大会

1. 毎年、各大陸にて大陸選手権大会を開催することができる（一般規程第106条を参照）。
2. 選手権大会はできるだけ学校の長期休暇中に開催する（7月中旬から8月末）。
3. 選手権大会は屋外で開催する。
4. 大陸選手権大会は、その大陸にあるすべての NF を対象とする。当該大陸以外の NF についても、FEI 事務総長の認可があれば招待を受けることができる。招待されたチームと個人選手は賞を受ける資格はあるが、メダル獲得あるいはタイトル順位の対象とはならない。
5. FEI が CSIOCh と選手権大会の開催を承認する。選手権大会の開催を希望する NF は、一般規程に定める要領で申請しなければならない。
6. 選手権大会は一般規程、当該種目の競技会規程、本規程を厳格に遵守して開催しなければならない。
7. 大陸選手権大会は、主催 NF を含めて4NF 以上の参加があつて初めて開催できる。ただしヨーロッパ域外では、主催 NF を含めて2NF 以上からの地域チームの参加があれば開催できる。関連する諸々の NF が地域チームの基準（人数枠）を定める。選手権大会開催前であっても、参加申込の締切り後に出場を取り止めた NF については、出場とみなされる。
8. 適正な金額であれば参加申込料を徴収してもよいが、FEI の承認が必要である。参加申込料の上限は障害馬術委員会が決定する。
9. 所属 NF から公式に参加申込のあったチームと／あるいは個人選手だけが出場できる。

第6条 国際競技会と選手権大会への出場資格

1. 該当する年齢に達している選手は、2つ以上のカテゴリーで競技や選手権大会に出場できるが、各競技種目につき、大陸選手権大会に出場できるのは1暦年で1カテゴリーのみとする。
 - 1.1. 14歳に達する年にジュニア大陸障害馬術選手権大会に出場した選手は、以後チルドレン選手権大会に参加することはできなくなる。
 - 1.2. チルドレンは、その所属する NF から明確な許可がある場合には12歳の誕生日を迎える年から、一部のシニア国際競技に参加することができる（障害馬術規程第255条を参照）。
 - 1.3. チルドレン、ポニーライダーあるいはジュニアは、同一競技会において各々のカテゴリー競技とシニア競技の両方に参加することはできない（障害馬術規程第255条を参照）。

第7条 経費と特典

1. 競技会

チルドレンを対象とする競技会の組織委員会は、ホテルかユースホステル、あるいは個人家庭への宿泊と資金援助について招待選手の所属 NF と交渉すること、およびこれを提供することは自由である。

2. 選手権大会と CSIOCh 競技会

2.1. NF は自国のチーム監督、選手、グルーム、馬について、選手権大会と CSIOCh 競技会の開催地への往復旅費を負担しなければならない。

2.2. 組織委員会については上記1. に同じであるが、以下に最低限の必要項目を示す：

— 組織委員会は、馬の厩舎と飼料を無償で提供しなければならない。

— グルームはできるだけ厩舎近くに滞在できるようにする。

2.3. 役員については、一般規程を適用する。

3. 特典はすべて、競技会の開催前日から終了の翌日まで供与される。

4. チーム監督は競技会開催期間を通して、そのチームと／あるいは個人選手の行動に責任を負う。損害が生じた場合はチーム監督とその所属 NF が責任を負う。選手が個人家庭に宿泊しない場合、チーム監督はそのチームと／あるいは個人選手と同泊しなければならない。

上訴委員会は損害額を査定する権限を有する。競技場審判団と／あるいは上訴委員会は、容認しがたい行為については競技会期間中を通してどの時点であっても、FEI 司法制度に従って罰金を科し、またそのチームと／あるいは個人選手を失格とすることができる。

第8条 褒 賞

1. チルドレン競技会で賞金を授与することは認められない。

2. ヤングライダーとジュニア規程第9条を適用する。

第9条 馬

1. 調教

競技会あるいは選手権大会の第1競技が行われる前日の18:00から、競技会あるいは選手権大会全体が終了するまで、選手の馬は競技会あるいは選手権大会の開催地内外で選手以外の者が騎乗して調教してはならない。これに違反した

場合は失権となる。しかし選手以外の人物が FEI スチュワードの監視下で調馬索運動や引き運動などを行うことは認められる。貸与馬形式の競技会に限り、馬の所有者が認めた場合に、トレーナーあるいはトレーナーが委託した人物が上述の期間に選手の馬を調教することは認められる。

2. コントロール

自分の馬の制御ができないチルドレン選手については、競技場審判団の判断で競技開始前あるいはラウンド走行中に、競技あるいは競技会全体から出場を取り止めさせることができる。

3. 個体識別

馬は競技会期間中を通して指定の厩舎へ入れなければならない。これに違反した場合は失格となる。

各馬は、到着時に主催者から提供される個体識別番号を、競技会期間中を通して使用する。スチュワードを含むどの役員でも馬の個体識別ができるよう、厩舎から出る時にはいつでもこの番号を付けていることが義務づけられる。この番号の提示を怠った場合はまず警告カードが渡され、再犯の場合は FEI 司法手続きに従い、競技場審判団あるいは上訴委員会から当該選手に罰金が科せられる。

第 10 条 役 員

1. カテゴリー A の CSICh 競技会における審判員の任命は、CSI2* について定めた障害馬術規程第259条に従わなければならない。カテゴリー B の CSICh 競技会における審判員の任命は、CSI1* について定めた障害馬術規程第259条に従わなければならない。
2. チルドレン競技に経験のある役員を競技場審判団と上訴委員会に加えるよう、組織委員会へは強く進言するものである。
3. 大陸選手権大会では審判長、技術代表、外国人獣医師代表を FEI 障害馬術部門が任命しなければならない（本付則第26条と第27条を参照）。

第 11 条 パスポート

1. 一般規程第137条と獣医規程第1010条2を適用する。

第 12 条 実施要項

1. ヤングライダーとジュニア規程第12条を適用する。

第 13 条 チルドレン障害馬術競技会および選手権大会規則

1. チルドレン障害馬術競技会と選手権大会は、下記に特に記載がない限り、障害馬術規程に則って開催しなければならない。

第 14 条 障害物

1. ジャンプオフの場合を除き、いかなる障害物も高さは1.20mまで、幅は1.40m以内の大きさとする。ジャンプオフでは6～8個の障害物でコースを構成し、そのうち4個までは高さを1.30mにまで上げることができる。
2. バンク、堆土、水濠障害、傾斜路の使用は認められない。
3. リバプールの使用は認められる。

第 15 条 速 度

1. CSIOCh と選手権大会の競技では、速度を分速350mとしなければならないが、その他の競技では分速300～350mの間で定めることができる。

第 16 条 基準「C」競技

1. 基準「C」競技は認められない。

第 17 条 服装と敬礼

1. 騎乗中は3点で固定された保護帽を、顎紐を締めて着用することが義務づけられる。
2. いかなる選手も脱帽せず、頭を下げることで競技場審判団へ敬意を表わすものとする。
3. 暗色の上衣かクラブのユニフォーム、白か淡黄褐色の乗馬ズボンかジョッパーと長靴、白のシャツにタイかハンティング・ストックが許可される。拍車の装着は任意であるが、もし使用する場合は、長靴の拍車受け部分にのる柄の端から拍車先端までを測定した長さが1.5cm 以内で、表面の滑らかな金属製のもの（ハマー拍車は認可）が認められる。

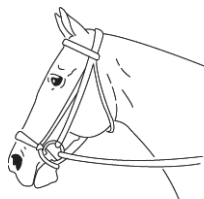
第 18 条 馬 装

1. 馬装に制限はない。

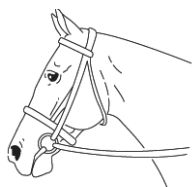
2. 遮眼帯の使用は禁止である。
3. スタンディング・マルタンガールと可動式ランニング・マルタンガールの使用は認められる。
4. 手綱は銜につけるか、直接頭絡に装着されていなければならない。ギャグとハックモアの使用が許可されている。
5. 安全確保の観点から、鐙や鐙革（セーフティ鐙にも適用される）はあおり革の外側に托革から自由につられていなければならない。いかなる物でも鐙を固定するような器具の取り付けは許可されない。選手は直接あるいは間接的にも、自分の体のいかなる部分も馬具に縛り付けてはならない。
6. アリーナ、練習および練習用馬場、競技会場内および周辺のいかなる場所でも、選手は長さ75cmを超える鞭や先端に重りの付いた鞭を携帯したり使用することは禁止されている。鞭の代用品を携帯することも認められない。この条項に従わなかった場合は失権となる。
7. 上述の1～4項については、特にアリーナの項目を参照のこと。
8. 鼻革は平らでなければならない。革以外の素材で作られた鼻革は許可されない。交叉鼻革で2本のストラップが交わる部分にシープスキンの小さいディスクを使用することはできる。

チルドレン競技会で使用が許可される鼻革：

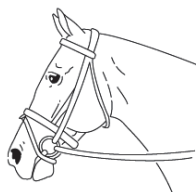
Dropped noseband
ドロップ鼻革



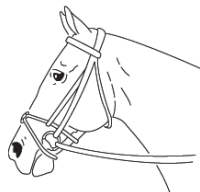
Cavesson noseband
カブソン鼻革



Flash noseband
フラッシュ鼻革



Crossed noseband
交叉鼻革



第4章 大陸障害馬術選手権大会および地域障害馬術選手権大会

第19条 参加申込

1. FEI 障害馬術部門ディレクターから実施要項の承認を受けた後、主催 NF はその実施要項とともに招待状を大陸あるいは地域の該当する NF へ送付する。
2. チーム
 - 2.1. 各 NF は選手5名、馬5頭以内の構成で1チームを参加申込できる。しかしヨーロッパ域外においては、関係する NF がチーム数、およびチームを代表する人数を決定できる（本付則第5条7を参照）。組織委員会はチーム監督に招待状を送付しなければならない、このチーム監督には選手と同様の特典を供与する。選手権大会へはリザーブ馬の帯同が認められない。
 - 2.2. この選手5名と馬5頭すべてが後出の第20条3に従い、選手権大会の団体競技（後出の第20条1を参照）および個人競技に参加できる。
3. チームに代わる個人選手
 - 3.1. チームを派遣できない NF は、1名あるいは2名の個人選手を各々1頭の馬とともに参加申込できる。
5. 個人選手権タイトル保持者

NF は前年に開催された FEI 選手権大会の個人タイトル所持者を、タイトル防衛のために自動的に派遣する権利はない。
6. NF は馬2頭につきグルームを1名、各チームにつき2名までのグルームを CSIOCh 競技会と選手権大会に派遣することができる。
7. 参加申込は一般規程に従い3段階に分けて行わなければならない。
8. 選手権大会の開催をオープンとするかノンオープンとするかは、FEI 理事会が決定する。選手権大会をオープンとする場合は、大会が開催される地域あるいは大陸以外の NF から参加するチームと個人選手も、主催地域あるいは大陸内のチームや個人選手と同等の条件で選手権メダルとタイトルを競う。
9. ノンオープン選手権大会に、開催地域あるいは大陸以外の NF からチームと／あるいは個人選手の参加申込を受け入れるか否かは、障害馬術委員会の合意を受けて、FEI の判断に任される。

第20条 出場選手の申告

1. チーム監督は団体競技開催の前日18:00までに、チーム構成（選手4名、馬4頭）を組織委員会へ書面にて申告しなければならない。
2. チームメンバー4名のうち1名、または馬4頭のうち1頭が事故あるいは病気となった場合に限り、5組目（選手／馬）がチームメンバーとして出場できる。ただし、チーム監督が競技場審判団の承認を受けた場合とする。
3. 5組目（選手／馬）は、第1次予選競技と第2次予選競技に個人選手として出場することができ、予選を通過すれば個人決勝競技に出場できる。

第21条 馬の出場資格

1. 馬
- 1.1. 馬は6歳以上でなければならない。
- 1.2. この選手権大会に出場できるのは、その前年と／あるいは同一年にシニア対象のCSIOにてネーションズカップあるいはグランプリ競技に出場していない馬とする。
- 1.3. 選手権競技が行われる競技会の期間中に、シニア対象のいかなる競技にも出場していないこと。

第22条 競 技

1. 1日目 — プレリミナリー競技

組織委員会は、選手が自由に参加できるプレリミナリー競技を1～2競技設けることが求められる。これら競技は基準Aで行われる。

片方の競技は前回の選手権大会を完走している選手を対象とし、他方の競技は選手権大会に出場経験のない選手を対象とすることが推奨される。

過失とタイムで個人順位を決定する（障害馬術規程第238条2.1を参照）。

2. 2日目 — 個人選手権競技－個人選手権に向けた第1次予選競技

選手全員が参加できる。

基準A、タイムレース、ジャンプオフなし（障害馬術規程第238条2.1を参照）

- 2.1. 第1次予選競技のスターティングオーダー

第1次予選競技のスターティングオーダーを決定する抽選を行う。

3. 3日目 — 団体選手権競技

（個人選手権に向けた第2次予選競技を兼ねる）

- 3.1. この競技は基準 A を採用し、タイムレースではない2回走行を行う。第1位、第2位と／あるいは第3位で同点の選手がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを1回行う。

この競技には第1次予選競技(前述2.)に参加した選手と馬だけが出場できる。団体順位については、チーム構成を申告したチームメンバーのみを勘案する。

3.2. 団体競技のスターティングオーダー

団体競技の第1ラウンドのスターティングオーダーは抽選で決定する。第2ラウンドのスターティングオーダーは、第1ラウンドでの減点のリバースオーダーとする(第2ラウンドでは個人選手がチーム選手よりも先に出場する)。個人選手あるいはチームで同減点がでた場合は、第1ラウンドでのスターティングオーダーを採用する。

ジャンプオフを行う場合のスターティングオーダーは、第2ラウンドでのスターティングオーダーを採用する。

2回のジャンプオフが必要な場合は、第1位と第2位を決定するジャンプオフの前に第3位決定戦を行わなければならない。

第2ラウンドに出場できるのは、第1ラウンドの結果、上位10チームと第10位で同順位のチームだけとする。

上位10チームと第10位で同順位のチームが第2ラウンドを開始する前に、個人選手および第2ラウンドに出場資格を得られなかったチームメンバーが第3競技に向けた第2次予選競技に参加することができる。第2次予選競技と団体競技の第2ラウンドとの間には、30分以上のブレイクを入れなければならない。

4. 4日目

4.1. フェアウェル競技

個人選手権競技への出場資格を得られなかった選手を対象とする(下記4.2.1に従う)。この競技は基準 A を採用してタイムレースとせず、ジャンプオフはタイムレースで1回行う。速度は分速350m(障害馬術規程第238条1.2を参照)。

組織委員会とは個人選手権競技に参加できない選手を対象として、個人選手のフェアウェル競技を1回設けなければならない。リボンの授与は通常の基準に従うものとする。

4.2. 第3競技(個人決勝競技)

4.2.1. 競技の進行

この競技はラウンド A とラウンド B で構成し、タイムレースではなく基準 A で審査を行う。第1位、第2位と／あるいは第3位で同順位がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを1回行う。速度は分速350m(障害馬術規程第273条3.2を参照)。

出場資格を得られるのは、第1次予選競技と第2次予選競技の減点合計に基づき、上位60%の選手(出場資格を得た最下位と同点の選手を含む)である。

出場が許可される選手数は15名以上、30名以下とする。

選手は（完走した、しないに関わらず）必ず第1競技に出場していなければならない、また第2競技を（失権、あるいは棄権をせずに）完走していなければならない。第1競技で失権あるいは棄権した選手の成績は、最も減点の多かった選手のスコアに減点20を加算したものとする。もし何らかの理由で出場資格を得た選手のうち1名またはそれ以上が出場できない場合でも、次点の選手の繰り上げ出場は行わない。

ラウンドAを完走した選手は全員がラウンドBへ出場する。両ラウンドの減点が合算される。

選手はラウンドBのコース下見を行うことができる。

4.2.2. スターティングオーダー

ラウンドAのスターティングオーダーは、選手権競技への第1次予選競技と第2次予選競技での減点合計のリバースオーダーとする。いかなる順位についても同減点となった場合は、第1次予選競技のタイムでスターティングオーダーを決定する。従って最下位で予選を通過した選手が最初のスタートとなる。

ラウンドBのスターティングオーダーは、第1次予選競技、第2次予選競技、およびラウンドAで発生した減点合計のリバースオーダーとする。減点の最も多い選手が最初に、減点の最も少ない選手が最後にスタートする。同減点の選手がでた場合は、第1次予選競技のタイムでスターティングオーダーを決定する。

第23条 障害物とコース

1. 第1次予選競技のコースは12～14個の障害物で構成する。障害物の高さは1.20mまで、幅は高さと同釣りをとって1.00m～1.30mの範囲で設定する。
2. 団体決勝競技と個人選手権第2次予選競技のコースは、ダブル1個とトリプル1個、あるいはダブル3個を含む12～14個の障害物で構成する。

高さ：1.20mまでとし、幅は高さと同釣りをとって1.00m～1.30mの範囲で設定。

速度：分速350m

3. 個人選手権競技のラウンドAのコースはダブル3個、あるいはダブル1個とトリプル1個を含む10～12個の障害物で構成し、高さは1.20mまで、幅は高さと同釣りをとって1.00m～1.35mの範囲で設定。

ラウンドBはラウンドAと異なるコースでなければならない、トリプル1個あるいはダブル1個を含む8～10個の障害物で構成する。

高さ：1.30mまでとし、幅は高さと同釣りをとって設定。高さと同幅ともに技術代表の判断に任される。

速度：分速350m

4. 団体順位あるいは個人順位決定のためにジャンプオフを行う場合は、6個の障害物を使った短縮コースとするが、障害物の大きさはラウンド B に使用した障害物の大きさを超えてはならない。

速度：分速350m

5. プレリミナリー競技とフェアウェル競技の障害物は、高さを約1.10m、幅を約1.25mとしなければならない。

速度：分速350m

第24条 団体順位

1. 団体順位は団体選手権競技における2回走行の各々で、各チーム上位3選手の減点を合計して決定する。

第1ラウンドあるいは第2ラウンドを完走していないチーム選手の成績は、そのラウンドを完走しているチーム選手の中で最も減点の多かった者の成績に減点20を加算する。

2. 第1位、第2位と／あるいは第3位で同減点のチームがでた場合は、タイムレースのジャンプオフを1回行わなければならない、チーム選手は全員が出場する。
3. それでも同順位（減点とタイム）となったチームは、同順位とする。
4. その他のチームは2回の走行での減点を合計して順位を決定する。同減点の場合は同順位となる。
5. 団体順位に加えて個人順位も決定され、賞が授与される。
6. 選手権大会が開催される大陸あるいは地域以外の NF からノンオープン選手権大会に出場するチームは、団体競技に参加できるが、団体順位の対象とはならない。団体競技における個人選手順位では賞を受けることができる。

第25条 個人順位

1. 個人順位は各選手の第1次予選競技、第2次予選競技の2回走行（ジャンプオフが行われた場合でもその減点（は）含めない）、第3競技のラウンド A とラウンド B での減点を合計して決定する。
2. 第1位、第2位と／あるいは第3位で同減点の選手がでた場合は、タイムレースのジャンプオフを1回行わなければならない（本付則第23条4を参照）。

2回のジャンプオフが必要な場合は、第1位と第2位を決定するジャンプオフの前に第3位決定戦を行う。

3. 選手権大会が開催される大陸あるいは地域以外の NF からノンオープン選手権大会に出場する選手は、予選を通過すれば個人決勝競技に出場できるが、個人メダル受賞者決定のジャンプオフには参加できない。ラウンド A とラウンド B での減点が合算されて、競技順位が与えられる。

この競技では2種類の順位付けを行うものとする。1つは個人メダル受賞者決定の順位付け、もう1つは競技に参加した選手全員の順位付けである。後者の順位ではラウンド A とラウンド B の成績だけがカウント対象となる。同減点の選手は同順位となる。

第 2 6 条 競技場審判団

1. 審判長については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議の上、一般規程に則って任命しなければならない。競技場審判団メンバーは、組織委員会が一般規程と障害馬術規程に則って任命する。

第 2 7 条 外国人技術代表

1. 外国人技術代表については、FEI 障害馬術部門ディレクターが障害馬術委員会と協議の上、一般規程に則って任命しなければならない。

第 2 8 条 獣医師代表団

1. 獣医師代表団の構成、およびその団長とメンバーの任命は、獣医規程に定める要件に従わなければならない。

第 2 9 条 上訴委員会

1. 上訴委員会の構成、およびその委員長とメンバーの任命は、一般規程に定める要件に従わなければならない。
2. CSICh 競技会では、上訴委員会の設置は義務づけられない。

第 3 0 条 落 馬

1. 最初の選手の落馬あるいは馬の転倒で、選手は当該競技から失権となる。これはネーションズカップ競技および選手権競技でも同様である。しかしながら、公認医師と競技場審判団が承認した場合に限り、FEI ネーションズカップの第2ラウンドと団体選手権競技の第2ラウンドには出場できる。失権した選手の成績は

当該ラウンドで最下位となった選手の成績に減点20が加算されたものとする。

第31条 安全性

(第26条2より移動)

1. 競技場審判団の判断で、自分の馬の制御ができない選手は、その馬とともに競技あるいは競技会全体から出場を取り止めさせられる場合がある。

付則 13 アマチュア・オーナー・カテゴリー規程

1. 国際競技会に関わるアマチュア・オーナー・カテゴリーが定められた。
2. 以下の基準によりアマチュア・オーナー資格が決定される：

第1条 要件

1. 「アマチュア・オーナー」と認められるには：

選手は14歳となる年から参加できる。

選手は競技に出場する馬の所有者でなければならない。所有権は近親者に拡大適用することができる。

選手は所属する NF から付与された有効なライセンスを所有し、FEI 登録をしていなければならない。馬は FEI に登録されており、カテゴリー A では有効な FEI パスポート、あるいはナショナル・パスポートと FEI 認証カードを所有していなければならない。

「アマチュア・オーナー」ライセンスとは、他者が所有する馬への騎乗や、騎乗レッスン、スポンサー付きの馬への騎乗、あるいは広告や商業目的などで金銭を受領しないとの陳述書に正式に署名した選手に対してのみ、NF が付与するものである。

馬の売買や、現金で賞金を受領することは、これが当該選手の唯一の収入源でない限りは禁止されない。

「アマチュア・オーナー」は他の競技や選手権大会への参加が制限される。「アマチュア・オーナー」ライセンスを取得、あるいはこれを更新した選手で、第1競技の高さが1.50m以上の国際競技もしくは国内競技に出場した者は、もはやアマチュア資格での競技参加は認められない。つまり例をあげればアマチュア・ライセンスを取得したヤングライダーが、ヤングライダー大陸選手権大会の個人決勝競技に残った場合は、アマチュアとしての参戦はできなくなる。

第2条 国際競技会

1. カテゴリー A グループを対象に「アマチュア・オーナー」国際競技会を開催することができ、その場合は障害物の高さを1.30～1.40m、幅を1.55m以内（トリプルバーの場合を除く）とする競技で構成し、またカテゴリー B グループを対象とする場合は障害物の高さを1.15～1.25m、幅を1.40m以内（トリプルバーの場合を除く）とする。
2. 国際競技会は、主催 NF の個人選手と限定数の外国人選手を対象とする。

3. 1競技会につき馬1頭の世界共通参加申込料上限：1500ユーロ
4. 国際競技会は、FEI 国際障害馬術規程に従わなければならない。競技会実施要項ドラフトはすべて FEI へ提出して承認を受けなければならない。

第3条 選手権大会

1. このカテゴリーで大陸選手権大会あるいは地域選手権大会を開催する場合は、シニア大陸選手権大会の開催方式に従わなければならない。

第4条 コースデザイナー

1. コースデザイナーについては、組織委員会が FEI レベル3以上のコースデザイナーリストから選任する。

第5条 諸施設

1. 競技、交通手段、旅費、ホテル宿泊費、国境での通関に関わる費用は、すべて選手負担となる。

障害馬術に関する用語集

- 不従順：第219条を参照
- 失格：第242条1を参照
- 失権：第241条1を参照
- 過失：選手の走行中に生じた何らかの偶発事象で、結果として減点あるいは失権となるもの（基準A採用の場合の過失に科せられる減点については第236条、基準C採用の場合の過失に科せられる減点については第239条を参照）
- グランプリ：競技会で最も誉れの高い競技の一つ
- 減点（第216条）：過失とみなされる特定行為の結果として選手に科せられる措置の一つ
- ポニー：ポニーとは、平坦な地面上で計測した髻甲までの高さが蹄鉄なしで148cm以下、あるいは蹄鉄をつけて149cm以下の小柄な馬属である。競技の現場で体高測定が行われたポニーについては、競技への出場許可条件として蹄鉄なしで150cm以下、あるいは蹄鉄をつけて151cm以下でなければならない。これはFEI体高測定が競技現場にて行われた場合にのみ斟酌される。
- 拒止：第221条を参照
- 反抗：第223条を参照
- 逃避：第222条を参照
- 実施要項（第265条1）：競技会運営の基盤となる競技詳細とテクニカル条件に関わる情報を記載している文書で、組織委員会が所属NFを通してFEIへ提出し、承認を受ける。レベル3*以上の競技会実施要項はFEIの承認を受けなければならない。1*と2*レベルの競技会実施要項は、主催NFの承認を受ける。
- スコア（第237条と第239条4）：選手が走行中に出した成績で、障害物での過失とタイム減点を加算するか（基準A競技の場合）、あるいは走行タイムにタイム修正がある場合はこれを加算、さらに落下させた障害物1個につき4秒（ジャンプオフあるいは二段階走行競技の二段階目の走行では3秒）を加算して求める（基準C競技の場合）。
- スポンサーチーム：第265条と付則7を参照
- 基準A：第236条を参照
- 基準C：第239条を参照

索引

馬に対する虐待行為	第243条	75
適用される科罰	第243条1	75
鞭の過剰使用	第243条2.2	77
概略	第243条2.3	77
馬の肢たたき	第243条2.1	75
事故	第258条	111
広告と宣伝	第256条3、第257条3	103,109
馬の年齢	第254条1	95
アマチュア・オーナー、ルール	付則13	313
上訴委員会	第259条3	115
アリーナ（競技）	第201条1	23
アリーナへの立ち入り	第202	25
インドア（広さ）	第201条2	23
服装	第256条1	101
名誉バッジ	付則1	169
ベル	第203条	27
ブーツとバンテージ規制	第244条	77
ブーツ（馬）	第257条2.3	109
ヤングホース競技	第257条2.4	109
選手権大会		
チルドレン	付則12、第5条	289
ジュニアとヤングライダー	付則9、第5条	203
ポニーライダー	付則11、第6条	263
ベテラン	付則10、第2章	239
チルドレン		
シニア競技会への参加	第255条3	99
チルドレン競技会規程	付則12	283
FEI 馬スポーツ憲章		13
コンビネーション障害	第205条3、第212条	31,43
閉鎖、一部閉鎖、および一部開放	第214条	43
競技		119
アキュムレーター競技	第269条	145
貸与馬競技	第279条	163
ダービー競技	第277条	161
フォルト・アンド・アウト競技	第266条	139
フォルト・アンド・アウト・リレー競技	第268条2.2	143
概要	第260条	119
グランプリ競技	第261条	121
ヒット・アンド・ハリ－競技	第267条	139
ハンティング競技、あるいは		
スピードアンドハンディネス競技	第263条	127

決勝ラウンドを行うグループ競技	第275条	159
ノックアウト競技	第272条	151
ノックアウト競技、		
スターティングオーダー	付則3	177
ネーションズカップ	第264条	127
コンビネーション障害で競う競技	第278条	163
パワーアンドスキル競技	第262条	123
ピュイッサンス競技	第262条2	125
リレー競技	第268条	141
六段障害飛越競技	第262条3	125
スポンサーチーム競技、		
おおよび他の団体競技	第265条	137
コース自由選択競技	第271条	149
トップスコア競技	第270条	147
二段階走行競技	第274条	155
2回走行競技	第273条	153
決勝ラウンドを行う競技	第276条	159
利害の抵触	第259条7	119
コース	第204条	29
規定タイムの修正	第204条3	31
速度の修正	第204条3	31
コース全長	第204条5	31
全長測定	第204条1-第204条3	29,31
スタートラインとフィニッシュライン	第204条6	31
コースデザイナー	第259条5.1	117
コース図	第205条	31
コースの修正	第206条	33
出場選手の申告	第253条	95
経路からの逸脱	第220条	49
不従順	第219条	49
巻乗り	第219条1.4	49
計時中断中の不従順	第231条、第235条2	57,61
拒止	第219条1.1	49
反抗	第219条1.3	49
逃避	第219条1.2	49
失格	第242条	73
失権	第241条	69
参加申込	第251条	87
経費		
チーム監督、チーム獣医師、選手、		
グループ、馬	第200条6	21
役員	第259条2	115
落馬あるいは馬の転倒	第224条	53

スタートライン通過以前	第235条3	61
落馬あるいは馬の転倒	第241条3.25	73
過失	第235条	61
罰金	第240条	67
標旗	第207条	35
転倒	第207条5	35
スタートラインとフィニッシュライン	第204条6	31
スタートラインとフィニッシュライン	第207条6	35
グランプリ競技	第261条	121
FEI ネーションズカップ・		
トップリーグでの開催方式	第261条6	123
許可される開催方式	第261条5	123
出場資格	第261条4	121
スターティングオーダー	第252条6	93
競技場審判団	第259条1	113
ヘルメット	第256条1.4	101
ホースインスペクション	第280条2	165
CSIO への招待	第249条	83
ヨーロッパ	第249条2	85
北米	第249条3	85
CSI への招待	第250条	87
ジョーカー	第215条3	45
アキュムレーター競技	第269条5	147
トップスコア競技	第270条12	149
ジャンプオフ	第245条	79
失権あるいは出場辞退	第247条	81
障害物	第246条	81
ジュニア		
シニア競技会への参加	第255条3	99
ジュニア規程	付則9	199
障害物の落下	第217条	47
薬物規制（馬）	第281条	167
国内競技会	第251条17	91
ネーションズカップ	第264条	127
シニア以外のカテゴリ	第264条10	137
順位決定方法と順位	第264条9	135
チーム構成	第264条4	131
障害物の規模	第264条3	129
失権と棄権	第264条8	135
スターティングオーダー	第264条6	133
開催	第264条1	127
参加	第264条5	133

第2ラウンドへの出場	第264条7	135
賞金	第264条1.5	129
テクニカル要件	第264条3	129
障害物		37
選択障害	第215条	45
バンク	第213条	43
コンビネーション障害	第205条3、第212条	31,43
コンビネーション障害	第212条	43
規格	第208条4、第208条5、第208条7	37,39
概略	第208条	37
ジョーカー	第215条3	45
リバプール	第211条1.1	41
堆土	第213条	43
練習用障害物	第201条4	23
傾斜路	第213条	43
スポンサー付き障害物	第208条3	37
幅障害	第210条、第218条2	39,49
垂直障害	第209条、第218条1	39,49
水濠障害	第211条	39
役員	第259条	113
上訴委員会	第259条3	115
利害の抵触	第259条7	119
コースデザイナー	第259条5.1	117
経費	第259条8	119
競技場審判団	第259条1	113
スチュワード	第259条6	117
技術代表	第259条5.2	117
獣医師代表団と獣医師代表	第259条4	115
馬の参加	第254条	95
パスポート（馬）	第282条1	167
減点		
概略	第216条	45
基準A	第236条	61
基準C	第239条2	65
順位決定と表彰	第248条	83
ポニー、体高測定	付則11、第13条	267
ポニーライダー、規程	付則11	259
練習用障害物	第201条4	23
アリーナでの練習用障害物	第202条	25
出場資格認定手順		
オリンピック大会、世界／大陸選手権大会	付則8	193

ヤングライダーとジュニア、		
ヨーロッパ選手権大会	付則 9、第 7 条	209
拒止	第 2 2 1 条	51
反抗	第 2 2 3 条	51
逃避	第 2 2 2 条	51
馬装	第 2 5 7 条	107
ブーツ (馬)	第 2 5 7 条 2. 3	109
鞭	第 2 5 7 条 2. 2	109
セーフティーカップ	第 210 条 1、第 210 条 2、第 211 条 10	39, 41
敬礼	第 2 5 6 条 2	103
実施要項、承認	第 2 5 9 条 2	115
練習用馬場	第 2 0 1 条 3	23
競技での調教	第 2 3 9 条 5	67
スコアボード、要件	付則 4、第 1 条	181
速度	第 2 3 4 条	59
速度の変更	第 2 0 4 条 3	31
スポンサーチーム登録	付則 7	191
スターティングオーダー	第 2 5 2 条	91
グランプリ競技	第 2 5 2 条 6	93
ネーションズカップ	第 2 6 4 条 6	133
スチュワード	第 2 5 9 条 6	117
走行中の停止	第 2 3 3 条	57
基準 A	第 2 3 6 条	61
過失	第 2 3 6 条	61
採点方式	第 2 3 8 条	63
減点	第 2 3 6 条	61
スコア	第 2 3 7 条	63
基準 C	第 2 3 9 条	65
過失	第 2 3 9 条 1	65
減点	第 2 3 9 条 2	65
スコア	第 2 3 9 条 4	67
制限タイム	第 2 3 9 条 3	65
技術代表	第 2 5 9 条 5. 2	117
規定タイム	第 2 2 7 条	55
計算表	付則 2	171
制限タイム	第 2 2 8 条	55
走行タイム	第 2 2 6 条	53
計時の中断	第 2 3 0 条	57
計時	第 2 2 9 条	55
タイム修正	第 2 3 2 条	57
自動計時器、要件	付則 4、第 2 条	183
ベテラン選手 (規程)	付則 1 0	237

獣医師代表団と獣医師代表	第 2 5 9 条 4	115
獣医検査	第 2 8 0 条	165
到着時検査	第 2 8 0 条 1	165
ホースインスペクション	第 2 8 0 条 2	165
パスポート査閲	第 2 8 0 条 1	165
警告カード	第 2 4 0 条	67
水濛障害	第 2 1 1 条	39
構造	第 2 1 1 条 1－第 2 1 1 条 4	39,41
過失	第 2 1 1 条 5－第 2 1 1 条 7	41
審判員	第 2 1 1 条 8－第 2 1 1 条 9	41
鞭	第 241 条 3.21、第 257 条 2.2	73,109
過剰使用による減点	第 2 4 3 条 2 . 2	77
ヤングライダー		
シニア競技会への参加	第 2 5 5 条 3	99
ヤングライダー規程	付則 9	199